

露國迺實相

文學博士坪井九馬三校閱
文學士堀竹雄纂
文學士竹村尚次編纂

躬行會藏版
博文館發刊

明治
27 10 13
内交

露國之實相編纂ノ趣旨

征露膺懲ノ皇師動クヤ。本會ハ國民知識ノ一端ニ資スル所アラント欲シ。本書編纂ノ事ヲ可決ス。蓋シ今ノ時ニ於テ我が國民ヲシテ敵國ノ真相ヲ知了セシメ。彼ニ對スル準備計畫ノ事宜ヲ得セシムルハ。現在及ビ將來ニ向テ正サニ執ルベキ措置ナルヲ信ズ。加之一旦露國ヲ敵手トシ。戦端ヲ開キタル以上ハ。吾人國民ハ平和克復ノ後ニ於テモ。永久ニ彼ト對峙スル覺悟ヲ抱キ。各方面ニ就テ諸種ノ經營ヲ怠ラズ。折衝禦侮常ニ國力ノ發展ヲ企圖セザルベカラザルヤ明カナリ。

(1) 想フニ今回ノ戦役ハ必ズ我が國ノ勝利ニ歸スルナラン。何ントナレバ我が師ノ動クヤ一ニ正義公道ヲ重ンズル爲ニシテ。我が國民ノ忠勇義烈ナル必ズ其目的ヲ貫徹セズンバ止マザルベキヲ以テナリ。然レドモ軍旅ノ事ハ一時ニ止マリ。平和ノ競争ハ永久ニ存續ス。我が國民ニシテ若シ外交

(2)

經濟、實業、等ノ方面ニ於テ不幸。一着テ彼國ニ輸スルコトアラン乎。幸ニ戰爭ニ由テ贏チ得タル勝利モ。長ク之ガ充分ナル報償ヲ見ズシテ止ムノ結果ヲ來ス處ナキニアラズ。コレ我ガ國民ノ宜シク戒心シテ豫メ備フル所ナカルベカラザル所以ナリ。

此ニ於テカ現在及ビ將來ニ對スル設備ノ一端トシテ。吾人ハ先ヅ露國現下ノ實狀真相ヲ詳知スルヲ必要トシ。文學士堀竹雄文學士竹村尙次ノ二氏ニ託シテ研究累月其遺漏ナキヲ期セシメ。特ニ文學博士坪井九馬三氏ニ囑シテ嚴密ナル校閲ヲ經。以テ漸ク本書ヲ大成スルニ至レリ。本書一タビ世ニ出テ吾人希望ノ一部ヲ滿タスコトヲ得バ幸ナリ。茲ニ編纂ノ趣旨ヲ録シ以テ序ニ代フ。

明治卅七年九月

躬行會

凡例

- 一 本書は躬行會の囑託によりて編纂し成るべく論評に涉るを避け唯正確なる實相を紹介せんことを期す。
- 一 本書はコワレフスキ、編十九世紀末のロシア、ルロアボリウ著、ロシア帝國、ウオリス著、ロシア、現代の陸海軍、政治家年鑑、エンサイクロペデアブリタニカ等を基本として編述せり。
- 一 書中の固有名詞の稱呼は一に文部省が任命せる外國地名、人名の稱へ方書き方、取調委員の復命書に遵據せり。
- 一 度量衡の單位は卷末に對照表を掲げて勘合に便ならしむ、又特に了解を早からしめんが爲め概數を本邦單位にて示せる場合あり。
- 一 本書故らに歴史篇を置かざれども領土發展の梗概を知らしむるが爲め特に歴史圖を挿入せり、又産業圖はヨーロッパロシアを主とし餘は概況を示すのみ。

明治三十七年九月

編者識

露國の實相目次

第壹篇 地理

(1)

第壹章	ヨーロッパロシア	一
第一項	位置及人口	二
第二項	地形	三
第三項	地質	四
第四項	氣候	五
第五項	山岳	九
第六項	河流及湖沼	一一
第七項	生物	一八
第八項	人種	二三
第二章	シベリア	二八

目次

露國の實相

第貳篇 社會

第一章 貴族	五三
第二章 僧侶	五五
第三章 市民	六一
第四章 農民	六七
第五章 外國人	六九
第六章 虛無黨	八二

(一) 山岳	從二八
(二) 河流	……
(三) 湖沼	……
(四) 氣候	……
(五) 生物	……
(六) 人種	……
カフカズ地方	……
トルキスタン	……
カフカズ地方	……
行政區畫	……

第三篇 經濟

一 産業

第一章 農産業	九一
第二章 鑛業	九二
第三章 林業	九七
第四章 牧畜及漁業	一〇一
第五章 工業	一〇二
第六章 商業	一〇四

二 財政

第一章 經常歲入	一一七
第二章 臨時歲入	一二八

目次

臨時歲入	一二五
------	-----

第三章 經常及臨時歲出……………一三六

第四篇 交通……………一三五

第一章 道路……………一三六

第二章 河流……………一四一

第三章 海運……………一四八

第四章 鐵道……………一五〇

第五章 郵便及電信……………一五七

第五篇 政治……………一六〇

第一章 中央政府……………一六〇

第二章 地方政治……………一六五

第一項 州及地方の政治……………一六七

第二項 區の行政……………一六九

第三項 郡村の行政……………一七三

第四項 司法及び警察……………一七六

第六篇 宗教……………一八六

第一章 教會の組織……………一九〇

第二章 僧侶……………一九三

第三章 ラスコル及び諸別派……………一九七

第四章 異教……………二〇六

第七篇 教育……………二一一

第一章 一般教育……………二二二

第一項 初等教育……………二二二

第二項 中等教育……………二二五

第三項 高等教育……………二二六

第二章 專門教育……………二二六

第一項 工業專門學校……………二二〇

第二項 農業學校……………二二〇

第三項 商業學校……………二二三

第四項 軍學校……………二二四

第五項 教員養成學校……………二二五

第六項 醫學校……………二二六

第七項 宗教學校……………二二六

第八項 美術及音樂學校……………二二七

第三章 女子教育……………二二七

第八篇 軍事……………二二七

第一章 陸軍……………二三〇

第一項 軍制……………二三〇

第二項 軍隊……………二四〇

第三項 教育機關……………二四七

第四項 司法……………二五〇

第五項 雜……………二五一

第二章 海軍……………二五七

第一項 官制……………二五七

第二項 軍港及艦隊……………二五八

第三項 教育機關……………二六〇

第四項 雜……………二六二

第九篇 學藝……………二六四

第一章 文學……………二六四

第一項 古代文學……………二六四

(8)

露國の實相

第二項 近世文學……………二七五

第二章 科學及刊行物……………二九五

第三章 音樂……………二九八

第四章 美術……………三〇三

(一)繪畫……………

(二)建築……………

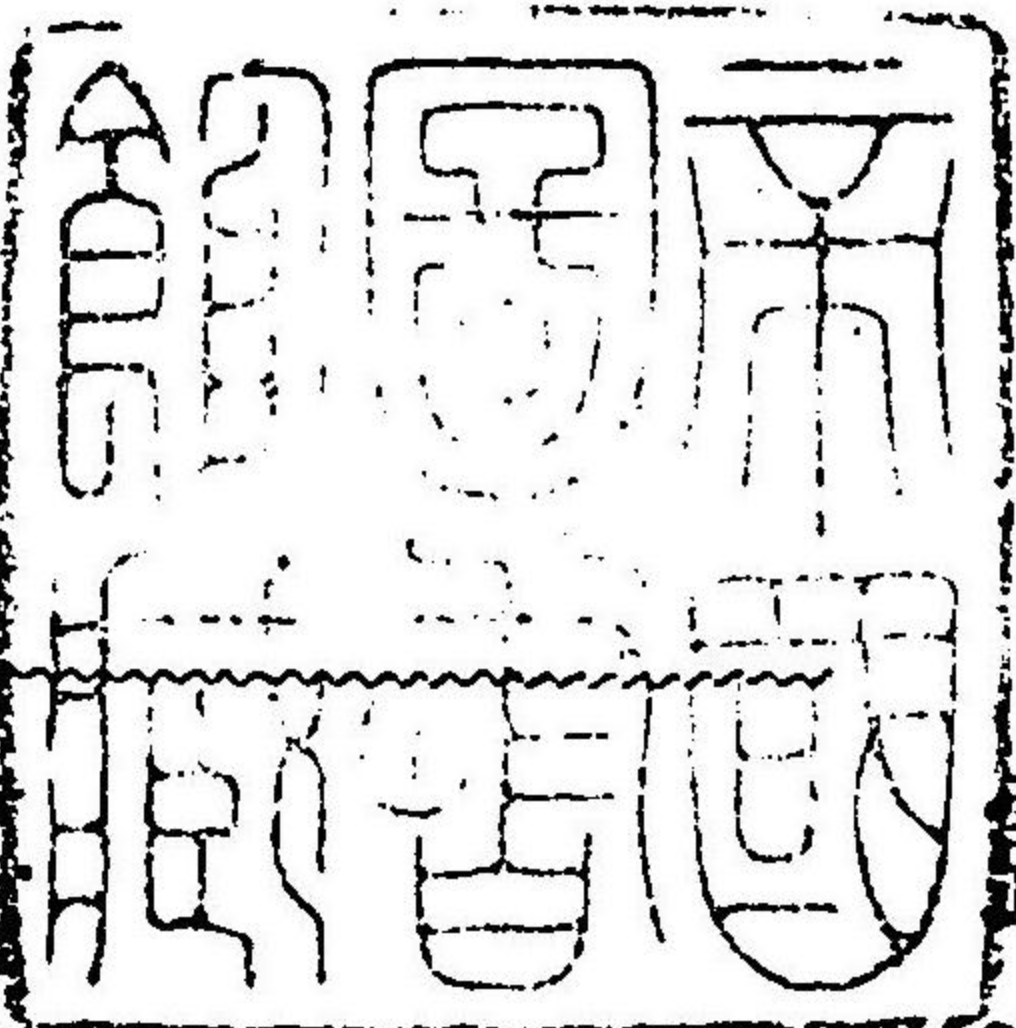
(三)彫刻……………

露國の實相目次終

露國の實相

第壹篇 地理

文學博士 坪井九馬三校閱
 文學士 堀 竹 雄 編纂
 文學士 竹村 尙 次



(1)

キオク汗の足下に叩頭せしモスクバ太公獨立を企圖してよりこゝに五百年
 ロシアの版圖は日夜四方に擴まり遂に宇内六分の一を占め人類の十五分の一
 に相當する民を有するに至れり加之其領土イギリスフランスの如く世界の各
 地に散在せず強固なる一團をなし從來の歴史に徴すれば攻むるに難くして守
 るに易く接壤の地西面の外畏るゝに足るものなく國家の中心は遠く外敵追劫
 の外に立ち天險皆無の平野なほ克く六十萬の大軍を塵にするを得たりと稱す
 其地や偉其民また少しく他に異なる所あり吾人の此篇ある所以なり

第壹篇 地理

(2)

百六十四萬方里の地、政治上、ヨーロッパロシア、ポーランド、フィンランド、カフカズ、トルキスタン、ステップ、シベリア、アムルの八大區をなす。人文、地勢等相異なるに因る。

第壹章 ヨーロッパロシア

第一項 位置及び人口

古へのサルマツト、スキタの國、いまはロシア人の根據地となり、今後も永く其中心たるべし。邊境の大半、海に瀕し、西方一帯は人為的境界多く、ドイツ、オーストリア、ロマーニアに接し、北にスカンデナヴィア半島あり、東はウラル山を以て、シベリアと境し、東方交通の衝たる、ベルム州、オレンブルグ州は、其管區半は山東に在り、ツラル下流は、ステップに連なる。其面積三十二萬二千方里、一方里二百五十五人、本邦は千七百七十人ばかりの人口を有すれば、通計一億六百二十萬となり、ポーランド、ドニエブルの中流最も稠密にして、黒土地方之に次ぎ、ボルガ河下流よりウラル西麓にそひ、北方國都に亘れる大凹形の地、稀薄にして常に平均數の下に在り。因に云ふ、現今ロシア國都附近は、ロシア人の村落を見れども、建設の當時に在り

位置

人口

ては、全くフィンランド人の居住地たりしに因り、一步國都の外に出づれば、全く言語風俗を異にし、外國に設けたる、ロシア居留地の觀ありしと云ふ。

第二項 地形

地形

此大國の中心に當り、バルダイの高地あり、諸河の分水點となり、ドニエブル、ドン、ボルガの三大流は、南に流れ、チウナ、ドビナ河は北海に入る。高地の北麓は、最も湖水に富み、ヨーロッパ第一のラドカ湖あり、其數またヨーロッパ第一位に在り。湖邊の風景多く、飄詠の材となる。其北はツンドラと云ひ、茫漠たる苔原、遠く氷洋に連なり、夏期三ヶ月間のみ人間の住居を許す。シベリアの苔原と其性質を同くし、互に相隣りす。ツンドラ以南は、土地自然に高まれども、高山の目を遮るものなく、針葉樹の大森林は、ドニエブル河の水源より、遠く東北ウラル山に達し、熊狐其間に棲息し、ロシアの特産たる野牛あり。

此森林以南は、即ち古代ギリシア時代以來、ヨーロッパの一部に供給せる、農産物の培養地たりし、農業地方にして、黒土地方その一部をなす。黒土とはボルガ上流地方より、西南に向ひ、バルダイ高原の南にそひ、ドニエブルの流域に出て、ロシア文

(3)

露國の實相

(4)

化の最古の發祥地たる、キエフに達し、カルパチア山の東麓に連れる、一種漆黒の沃土にして、二三尺より深きは六七尺に達し、肥料を施さざるも麥類よく稔り、近世ロシアの富源たりし地となす。ボルガドニエブル兩河下流の地は丈けに餘れる雜草繁茂し、なほ大古の狀を存す。是れロシア東方拓殖の一勢力たりし、コサックの根據地ステップにして、今日なほ開墾中の處多く、人口稀薄その狀況シベリアのステップと大差なし。其南部は即ち沿海地方にして、土地多くは鹵蕪、人文の發達に適せず。クリム半島は、古へのタウリ半島にして、オレーフ葡萄酒の産地たり。

第三項 地質

地質

地質はあらゆる地層をふくみ、北半部には、大氷原時代の遺跡あり。太古よりの地層整然重疊し、深谿高山みな斯學研究の資たり。しかも最も注目すべき特色は、工業用石材の缺乏にして、土壤は砂まじりの粘土、若くは細微の粉泥よりなる。地味不頁なるに非るも、氣候の爲めに林野たるところ多く、其面積耕地の二倍半に當る。今参考の爲めヨーロッパーシア全面積に於ける林野耕地を百分比例にて示さば左の如し。

耕地 〇、二一

森林 〇、三八

草野 〇、一四

湖沼 〇、二七

今日の狀況にては、黒土地方を中心とし、其南北に耕地の擴張せらるゝ傾向ありて、北方には、森林を伐採して、作られたる園圃年々増加し、森林と相交はりて、北方に連なれり。

かく耕地の面積多きにかゝはらず、農業國として、アメリカ合衆國若くはブラジルの如く、活潑なる發達をなす能はざるは、國民心理與りて力ありといへども、其進取的ならざるは主として、氣候の影響なりとす。

第四項 氣候

氣候

(5)

ロシアの氣候につきては、直にナポレオンの大軍をひきゐて、全く覆没せるを連想し、吾人をして絶對的に住む可らざる、荒涼の郷を想はしむるものあるも、さばかりの惡土ならば何ぞ一億有餘の民衆を養ふを得んや。然れども本邦若くは

(6)

カリフォルニア、イタリアの如き天然の樂土にあらざること、讀者次の數行によりて之を了解せらるゝならん。

ロシアは緯度二十六度の間に廣がれるにより、或は我占守島と沖繩列島の氣候の差を以て、其南北の差と比較せんと、不合理に非ざるが如し、然れども我國は大陸の影響比較的少く、海洋の調和により、氣候中和にして、人體に適すれども、ロシアはクリム半島、外カウカシア地方を除きては、殆んど南北に甚だしき氣溫の差を見ず、南北六百三十里の地、大抵同氣候たり、是れ主として東西に亘れる大山脈なく、黒海に起れる和風も、アジア大陸の熱風も、微少の障害をうけずして北に向ひ、氷洋を吹き暴れたる氷風は、北岸に上り來りて、ステップ地方を襲ひ、其間さらに氣候を左右すべき地物無きを以て、南北すべて吹き通しなり、さればヘルソンの夏は亦同時に、アルハンゲルスクの夏にして、其間唯土地の狀況により、細微の差あるのみ、氣候の變化急激なるとは到底吾人の想像にだも及ばざる所なり、四月下旬に至りて、雪始めて融け、一週日に満たざるの間に、銀世界洋々たる湖水と化し、百川盡く漲り、泥土脛を沒するに至る、かゝると一週日餘にして、原野は新緑

(7)

を以て掩はれ、森林は美花を開く、殊にリンゴの満開は、白蠟々たりしにあきたる人目をよるこぼしむ、此時百鳥悉く來り、蟄伏せるものも悉く地上に出づ、人間の亡靈もまた出て、屋外に至ると傳ふ、農夫は耕耘に忙はしく、氷上に櫛を御せしもの、忽にして舟楫を行ふ、かゝること旬餘、五月下旬に至れば、日益々長く、炎帝漸く威を加へ、六月に入れば、既に盛夏の狀を呈す、此時ペテルブルグにては、午後九時より、午前三時までを夜とす、此時南風しきりに吹き、炎暑たゆべからず、氣溫往々にして、華氏の九十五度に上り、都市の人士、多く暑を北方の海濱にさげ、農民は豫め屋をめぐりて、欄葉樹の小林を植え、樹陰に息ひて、漸く夜をひかふ、然れども、ロシアは元來雨量甚だ少き國なれば、若し風向にして、雨をさへぎることあらんには、萬里の綠野盡く枯れ果て、其悲惨なること名狀すべからず、かゝるときは、農民は收穫を失ひて、餓孚野にみち、其損害は容易に回復すべからず、是れ即ち、ロシア南部の地方に、幾百年の老木を有する森林なく、年と榮枯を與にする、雜草灌木の類のみより成る、ステップある所以なり、なほ六七月の交は、暴風しきりに至る、六七八の三月もよそかくの如し、九月は收穫の月にして、農民は刈り入れと、野菜の

(8)

ぬきとりとにいそがはしく、其勞苦いはん方なし、かくて彼岸の頃に至れば、初霜降り、鳥は二三朝にして、南に去り、草木みな凋みて、外界の活動全く絶えたるの觀あり。此に至れば、土にはふもの、皆土中に蟄した、鳥雀のみ、天空を専らにし、狼の枯林の間を徘徊するあるのみ。十月に入れば、初雪の候となり、是より五月に至るまで、河も湖も皆堅氷にとざれ、人馬其上を往來すべく、至便の通衢をなす。農民は此によりて、穀物を各地に轉送するなり。田園は雪中に埋まれ、糧を走らすもの、随意に其間を横行す。此時天常に雪あり、日光を見ることなく、日短くして夜長く、不快いふべからず。ロシア人の憂鬱なる氣象は、此間に養はるゝ所多しといふは、蓋し不當にあらず。寒氣最もはげしき時を、一二月となす。氣温常に華氏の零度以下にあり。此を以て、戸々みな窓を少くし、戸を重ね、暖爐を大にし、一家みな爐邊に蟄居するの狀は、恰も穴居の如し。室内朦朧として、晝なほくらく、屋外には樹木寒氣の爲めにさくる音しきりに聞え、戸をひらくことあらんには、外氣猛進し來りて、爐邊の諸物忽ちにして霜におほはる。蓋し氣温は屋外に在りては、零度下二十度附近にあればなり。此時屋外に在るもの、皆走る、凍死を恐るればなり。鳥忽ち

にして地におつ、之を捕ふれば、既に凍りて化石の如し。此間吹雪しきりにして、旅人の此が爲めに、行衛不明となるもの、年に幾何なるを知らず。かゝること七ヶ月にして、一陽來復すれば、忽にして沃野萬里の境となる。氣温の變化、一年を通算すれば、殆んど百三十度之を我國の中部に比すれば、其差實に驚くべきものあり。是れロシア人の、必然職はさるべからざる大障害にして、其國民の風習、一として之が感化を蒙らざるものなし。氣候既にかくの如く、不良なるに加へて、雨量は、僅かに一年間二尺有餘なるにかゝはらず、一ヶ年中、晴天漸く四十五日にすぎず。其他は雲霧常に日光を掩ふ。ロシアは、氣候既に前陳の如くなれば、温帶地方の中にあるといへども、四季の區別明白ならず。秋季は僅に夏冬の過渡旬餘のみ、沿海の地方に於ては、海洋の影響として、緯度高きにかゝはらず、寒暑の差稍々甚だしからざるものあり。新都の舊都に比し、氣候温なりといはるゝ職として之に由るなり。

第五項 山 岳

山岳
(9)

既に述べたる如く、中央には一帯の高原あり、平均八九百尺の高さを有し、是より四方に低下し、國境に近くに從ひ地表また隆起す。フィンランドは一帯の高地

(10)

にして、スカニアの連山に接し、カフカズ諸山は、アジア大陸の脊梁をなして、南境に聳え、チマン諸山は、ウラルの一支脈を成し、ベチオラ、ボルガ二流の間を分てり。中央諸丘は、地表の收縮によりて成れるものに非ず、たゞ水の浸蝕作用による。故に地層多く、水平線に相重なり、唯河流の沿岸より見れば、山岳の形をそなふるのみ。リウニアの内地に蟠まれる高山、また之に同じく、其高さ伯仲の間に在り。カルパチア山に近き地方また之と類似し、最高千百尺に上る所あり。

中央高原の北麓には、湖沼多く、其西方に出せる支脈は、ポーランドに入り、黒海バルト海の分水線をなし、此邊また湖沼に富む。カスピ海を去る北方二百哩までの地一圓は、世界最廣の低地にして、西北はボルガの低地に連なり、東はアラル海地方に連なる。

ウラル山は、ヨーロッパ、アジア兩大陸を分割する、有名なる山脈にして、北氷洋とカスピ海の間を亘り、ロシア人は、之を石^{カウカ}又は石^{カウカ}の帯^{カウカ}と稱し、南北凡そ六百里、其兩海に接する所頗る高峻にして、五六千尺に達する峯あるも、中央は、山脈の形を備へざる所あり。殊にシベリア鐵道の通路たる地は、高さ僅に千百八十尺にすぎず。山

河流

(11)

脈の中部殊にヘルム附近は有名なる鑛山地方にして、黄金白金等の産出少なからず。ノブゴロトの豪商ストロガノフ一家が、コサツクの會長をして、シベリアを侵略せしめたる源因實に此鑛山事業にあり。然るに東方に進入したるもの、次第にシベリア富源多きをとなふるにより、國內に志を得ざりしもの、次第に此容易なる通路をへて、オブ河の流域に出て遂にシベリア移住民となれり。

クリム半島は、黒海の北岸に聳え、最高點は、南岸に近く、四五千尺に達す。之をカイラ山と稱す。東及び北は緩傾斜をなし、ペレコプ地頸に因りて、大陸に連なる。北岸は即ちアゾフ海なり。

第六項 河流及湖沼

ロシア本部の地南北六百三十里、東西亦略ぼ之に稱ふ。然れども高峰の其間に聳ゆるなさを以て、河流本邦の如き急流をなさず。雨量僅少なるが爲め、夏期乾燥の際は大河往々にして乾涸し、船舶の交通殆んど停止すと雖ども、春期融雪に際しては、滾々たる緩流岸を洗ひ、百貨此に因りて轉送せられ、鐵道四通する今日といへども、なほ重大なる交通機關なり。且つ諸河上流の地は皆極めて接近せるが故

黒海傾斜面

アルト河

ドニエス
アル河

ドニエ
ル河

に運河の開鑿容易にして、黒海、バルト海、白海、カスピ海、互に舟筏を通ずることを得、ノルマン時代以前より既に東ヨーロッパの交通道路となり、其名廣く世に知られたり。

いま此等諸河の状況を、其盆地の順序に従ひ列叙せん。

バルカン諸國の一たる羅馬ニアとの境界たる、ブルート河は、源をオーストリア領ブコビナに發し、東南に流れてドナウ河に入る。ドニエス、アル河、其北に在り。また源をオーストリア領ガリチアに發し、全流の三分の二はロシア領を貫流す。舟筏を通ぜざる處なく、下流は蒸汽船の航通自由なり。また漁業の利あり。其東にありてロシア古代の中心を流るるものを、ドニエブル河となす。長さ五百四十餘里、其流域四萬方里余にして、十三州の水を集む。盆地の住民凡そ千六百萬、源を中央高原に發し、南に流れて黒海に入る。此川の交通路として最も重要なるは、其中流にして、無數の支流もまた交通の便母流に譲らず。エカテリノスラフ以下は、諸處に急灘をなし、ヘルソンに至りて海に入る。ヘルソンに近く、黒海に流入するものに、ブク河、イングル河あり。共に小流にして、云ふに足らず。黒海に入るものにして、

ドン河

カスピ海
傾斜面
ボルサ河

ドニエブルに次ぐをドン河とす。長さ凡そ四百六十里、二萬方里の水を合せ、舟を通ずること三百五十餘里なり。源をツラ州の東南に發し、ロストフに至り、十三流となりてアゾフ海に入る。北海もとトルコ領たりしが、アンナ、ペトロフ、ナ女帝の時遂に之を併呑し、黒海の關門茲に開かれ、ロシア南進の一起點となれり。ドン河は中流に於て、殆んどボルガ河に合せんとする所あり。其間約十七里、其支流に大河多く、右岸より、せるものに、ドネツ河あり。以上の四大河共に、黒海に注ぐを以て、其流域を合せて、黒海傾斜面と稱す。

此斜面の東にヨーロッパ最大の河流ボルガあり。長さ凡そ九百里、流域十一萬方里、本邦面積の約四倍にして、其沿岸の住民は、凡そ本邦の人口と等しく、現ロシア帝國の中心實に此に位す。源はロシアの西北トベル州のバルダイ高地に在り。オカ、カマの二大流と無數の小流を合せ、カスピ海に注ぐ。一年間河水の増減により、水量五十尺の差を生じ、兩岸の幅二里より六里餘の間にあり。夏期無雨の候は、河水乾涸し、處々河床をあらはすと雖ども、春期解氷の頃は、水量一時に増加するに因りて、此大差を生ずるなり。また上流より運び來る土沙は、下流に沈澱して、沙洲

(14)

をなし、アストラハン地方は、洪水毎に河身を變更し、カスピ海との交通屢々杜絶せらる。然れども之を利用する航運業は、極めて盛大にして、優に湖河航運の半以上を占む。其狀況後章交通の條下に述ぶる所あるべければ、茲に之を省く。此河はまた有用魚類の棲息を以て名あり。

其東に大小ウゼン河あり。カスピ海に達せず、湖水の間に消失す。通常ヨーロッパ、アジアの地理的分界となれる河流は、ウラル河にして、カスピ海北部の低地を流れ、キルギス曠野其東岸より起る。此附近一帯鹽積多し、地質學者の説に據れば、往古はカスピ海の一部なりしが、漸く乾面となり、今日の狀を呈すと。以上諸河の流域は之をカスピ海傾斜面と名づく。

ボルカ盆地の北界は、チマン連山にして、山北にベチオラ河あり。長さ四百餘里、優に一大河と稱すべけれども、寒氣強きにより、沿岸地農業に従事するもの少く、唯牧畜漁業狩獵者の所々に散居するのみ。運搬の貨物も上流よりは、殺類を下し、上り船には魚類生皮若くは氷洋地方の産物をつみて、カマ河の上流に至る。メゼン河其西に在り。木材の此川によりて、輸出せらるゝもの最も多く、二百餘里の

ウラル河

北洋傾斜面
ベチオラ河

メゼン河

ドビナ河

オチガ河

バルト海傾斜面
チバ河

ホルホフ河

(15)

小流にすぎざれども、經濟上頗る重要なり。北ドビナ河は流域凡そ二萬五千方里、上流の大河皆舟を通じ、亦運河に連なり、バルト海カスピ海と航通するを得べし。水流最も緩きが爲め、淺瀬の存在に拘らず、殺物魚類鹽木材等の貨物、河口のアルハンゲルスクに集まる。此港はバルト海邊占領以前、唯一の外國との直接貿易地たりき。オチガ河は、オロネツ州のラチエ湖に發し、オチガ灣に注ぐ。春季木材の運搬に至大の關係あり。又沿岸漁業の利少なからず。此等の諸流北洋に朝するを以て流域を合せて北洋傾斜面と名づく。

此西にバルト海沿岸の斜面あり。ラドガ湖フィンランド灣を連結するは、チバ河にして、國都ペテルブルグ其岸に立てり。僅々廿里に滿たざる短流なれども、河水常に岸に滿ち、政治上重大なる地位を保ち、イギリスのテムス河と共に世界に其名を知らる。ラドガに流入するものに、ホルホフ河あり。源をイルメン湖に發す。昔はノブゴロドの繁昌を扶けたり。此邊はノルマンの一部落たる、ソリアグを招き、國內を統制せしめたる、スラブ人の故地にして、ロシア史上最古の古蹟たり。此湖またムスタロバット等の小流を受け、ムスタ河は、運河により、ホルガに通ず。ラ

露國の實相

スピル
バ河ナロ
(16)

チウナ河

ウララ河

河ニエメン

ラウイ
スツ

トガ、オチガ二湖を連ぬるは、スピル河にして、マリ運河の一部をなし、ボルガの上流に連る、爲めに河上を往來する船舶甚だ多く水運の利最も大なり、ナロバ河は、ベイブス湖より出て、海に入る、河口にナルバあり、ベイブス湖は一にチウツコエと稱し、ベリカヤ河此に注ぐ、此水路昔は最も繁昌せしが、今日は其下流のみ航用に供せらる、チウナ河は一名南ドビナと稱し、長さ二百三十里ばかりトウエル州に發し、一萬三千方里の盆地を有し、多くの支流を併せリガに至りてバルト海に入る、ウララ河は、運河を以てドニエブルと通ず、急流なりと雖ともヒテブスク地方までは、船舶自由に通じ、穀物、船材、亞麻、ボタシ等は此に由る重要貨物なり、ニエメン河は一にメメル河といひ、ミンスクの北に起り、西北に轉流して、ドイツ領東プロシアに入る、其ロシア領内の長さ二百里、殆んど舟楫の通せざる所なく、此河によれる貨物、プロシア向の穀物、木材、内地用の魚類、雜貨、諸種の製造品等となす、上流にオキンスキー運河ありて、ドニエブル河と連絡す、ツイスツラ河はポーランドに在り、また重要なる大河とす、故ポーランド王國の根據此に位す、全長は二百五十餘里にして、一萬二千平方里の盆地あり、此河はオーストリア領ガリ

湖沼

ラドガ湖

オネガ湖

イルメ
ン湖
(17)

チアに起り、東流してサン河を合せ、ワルシワの附近を過ぎて、ブク河等を合せ、遂にドイツ國內を貫き、バルト海に入る、ポーランドの運輸は多く、此流れにより、河流の全部皆舟行の便あり、其水源に近く、ポーランドの古都クラカウあり、中流にワルシワあり、主要の大河は、凡そ上述の如し、是より少しく湖沼の狀を説かん、ヨイロツバ中、ロシアは最も湖沼に富めり、而して其最たるは、オロネツ、ノブゴロド、ベテルブルグ、ブスコフの諸州にして、ノブゴロド州には湖水の數三千二百、オロネツ州には二千以上あり、諸湖皆互に相通し、其極北のものは、其水面海拔三千尺に達す、南部は自然に低下し、其水面は次第に廣まる、ラドガ湖は、ヨイロツバ第一の大湖なるも、ロシア國內に於ては第五位に在り、此湖往古は更に大面積を有せしも、目下は六千方里の水面を有するのみ、深さは凡そ五十尋、表面は全四ヶ月間氷結し、氷の厚さは七十五尺に及ぶと云ふ、湖はネバ河を以て、フィンランド灣に連なり、オネガ湖等より、うくる水流を放射す、オネガ湖はラドガ湖に次ぐ大湖にして、深さは百二十尋に及べる所あり、湖水若くは河流によりて、ボルガ、フィンランド灣、白海等と連なる、ラドガに連れるイルメン湖は、甚だ浅く、三十尺をいはず、水ヲ

ドガに流出す。此湖の邊に最古のロシア商業市ノゴロドあり。湖水の險によりて、モンゴルの劫略を免れ、爾來久しく獨立の自由市たりき。イルメン湖の西にベイブス湖あり。またバルト沿海地方の大湖とす。湖の南邊にブスコフ市あり。以下無數の小湖あれども茲に省く。

第七項 生物

ロシア本部は大平原に位するが故に、其生物ヨーロッパ、アジア兩大陸の中間に立つべき性質をそなふ。而して其植物界の分布は、凡そ四區畫をなす。最北には氷洋の沿岸にツンドラあり。夏期極めて短かく且つ雨量に乏しく、しかも地表深く氷結するに因り、蘚苔羊齒の外、矮小なる灌木を生ずるのみ。其南に森林帯あり。オクカシハ北部に茂生し、斧斤未入の所、衆澤の滙集する所また卑濕なる牧場其間に在り。漸く南に進めば、シベリアマツ、カラマツ、カバ、マルバヤ、ナギ、ハンノキトネリコ、ヤマサクラ、ヤナギ等混生し、落葉樹森林の大部を占め、牧場と相錯せり。此森林一帯の風物亦遠東シベリアと殆んと異なるところなく、カムチアツカもポーランド附近も大體に於て相違を見ず。北緯六十四度以南には、リバと稱する

ベ、イフ
ス湖

生物
植物

落葉樹あり。翠深き夏の夕芳香をはなつを以て詩歌の題目となることおぼし。此より南に始めてカシハの茂生するを見る。樹科の植物は南に進むに従ひ、漸次其數を減じ、カヘデの種類之に代り、シデコブシの類、其間に混ず。植物の種類すべて七百七十餘種、尙其南に進めば増して千六百種となる。されば麥類を始めとし、禾穀よく稔り、人口の増殖するに従ひ、耕地北方に進まんとする傾向あり。ライ麥大麥の如きは今日アルハンゲルスク地方にも播種せられんとす。小麥は海岸の氣候調和を得たるにより、フィンランド地方の南部に産する所あるも、内地にては氣候寒烈なるが爲め、モスクバ以北に於ては、成熟せず。黒土地方を以て最適地となす。葉樹はフィンランド地方にては北緯六十二度の地までも實を結べとも、東方はリガ、ノゴロドの間を東に走る緯度を極北限とす。リンゴ、ナシ、サクランボ、ミは森林地方の大部に産すれども、アンズ、クルミの類は、ワルシヤ附近に成熟するのみ。

森林帯の南は、ステップ帯にして、アジア大陸より吹き來る乾風の影響等により、草木皆一年生たりといへども、土壤膏腴なるが爲め、生育良好にして綿密に調査す

れば、ノナクラ、ノアンズ又は深根の雜木等雜草の間に繁茂す。近ごろ其北部は次第に開拓せられつゝあれども、南部はなほ草ふかく野獸の其間に生息するあるのみ。草木の種類は北方森林地方に比し頗る多く、ボルガ以東はアジア種の草木相交はれり。

尙ほ一言せざる可らざるは、ステップの南方クリム半島の南岸に、地中海と同種草木の繁茂する一帯の存在是なり。是地北方に高山ありて、凜烈なる北風を遮ぎり、アゾフの灣入は益々氣温をゆるやかならしむるを以て、イタリアの南部と共にギリシア時代より樂土と稱せらる。グリ、オレーフ、ブダウの如きよく成熟し、ブナノ木ヒナスト松あり。人造園に於ては、ソロモン殿堂の壯麗と連想せらる。レバノンヒノキ、カリフォルニア松、ヒバ、ラウレルの如き常磐木も、生育極めて良好にして、花卉の種類千七百種に垂んとすといふ。

動物

動物の分布もまた大別して北中南の三地方とす。

北地方はツンドラにして氣候食物の制限あるが爲め唯レンシカ、ノネスミ、ヒバリ其他二三種の鳥類よく此に住居す。但し水禽は、夏期解氷の候群がり來りガン、

カモ、シギ等ツンドラを蔽ふ。中地方は森林帯の北部にして既に滅亡せる種族少なからずといへども、今日に殘留するもの頗る多く、レンシカは漸次其跡を絶たんとすれども、なほオロネツ、ボログダ地方には、野獸として生存せり。又イタチ、キツネ、ウサギは至る所に棲みオホカミ、グマ、キノシ、また此地方に在り、ノウシはペロベツア森林に繁殖し、シベリアテンは往時此地方の特産たりしも、今日は全く其跡を止めず。海狸、オットセの如きも、湖沼の邊に産し、ウヅラ、ヒバリ、シラハシカラス、コウノトリは森林耕地に住み、其數無盡なり。以上の外候鳥水禽甚だ多く狩獵の趣味いふべからず、之によりて衣食するの民亦少なからず。魚類の繁殖も亦頗る神速にして、種類少なからず。淡水漁業は又重要産業たり。

南帯とはステップに近き森林地方をいひ、黒土地方また此中に在り。ロシア名物たるクマは漸く其數を減じウサギ、キツネ、イタチの如き小動物は著しく増加す。此地方は小禽の繁殖に適し、エソライテウ、ライテウ、ノニハトリ、キジの如きは最も普通なるものとなす。また大河には水禽多く、其種類と數量とは、他に多く比類を見ず。されども近時、麥島の増加に従がひ、此等の鳥類其餌を失ひ、次第に減少し

有害動物の數、また著しく減少せり。然れども害虫の發生漸く多く農産物の被害増加の傾向あり。魚類もまた其の種族頗る多く、住民にとりて重要な副産物なり。

第八項 人種

人種

山河の形勢生物の分布他國と其趣きを異にする斯の如し。政治經濟の他國と傾向を異にするは、故なきに非ず。しかもなほ其發達を助くるに與て力ありたるものは、其地の人民にして、其の組織活動の如何は、深く研究を要す。然れども吾人は此問題に關し、後段特記する所あるべきを以て、本項に於てはその人種の大要を讀者に提供せん。

ロシア全國は世界屈指の多人種國にして、其細小なる區分をも算するときは凡そ二百餘種に出づ。然して其アジア領に住するもの多ければ、此等のものを除き、ロシア本部のもののみを列記せん。

古ロシアの住民

ロシア本部に於て、多種族の中心をなせるは言ふまでもなく、スラブ種に屬するロスなれども、既に述べたるが如く、ロスの外なほ多數の種族あり。而してロスな

展
ロス
の發

るものまた本來のロシア國土の住民に非ず。最古はアジア種に屬するフィン、此に住せしがスラブ人は漸次ドニエプルの盆地より東に向ひて、此等住民を驅逐し、フィンは遂に之に敵するを得ずして、ボルガ流域をすて一部は、フィンランドの高地に逃れたること、恰もシナ帝國に於ける苗人種の如く、また一部はシベリアに移れり。フィンなほロシア中原の地にありしころ、トルコ種もまたボルガ中流の地方を占有せしが、大ロスの隆昌に従ひ漸次中アジア地方に退き、一部は此地に土着してスラブ種と混合せり。

ロスの根據地につきては、種々の説あれども、ドニエプルの上流地方なるは争ふべからず。其史上に現はれたるは紀元九世紀の中葉以後にして、ロスと稱するはルスとして、赤を表はす語より轉ぜしなりと、蓋し皮膚眼頭髮の他人種に比し、赤色を帯ぶること著しきに因ると云ふ。此時代以後、モンゴル侵入以前までは、ロシアの中心は實に今日ロシアの西南に位するキエフ市に在り。十三世紀の初め、元の太祖ロシアを伐ち、太宗また之を征せしめ、遂に二百五十年間、ロシアに於けるモンゴル王朝を建つ。モンゴル種とよるるに及び、ロス復獨立し、ボルガ地方のモ

大ロス
小ロス
白ロス
異種族

ンゴル領をうばひ、餘勢北方の非スラブ種族に及ぶ、また西隣の同血族に屬するポーランドと、ロシア國土の覇業を競ひ、スウェーデンとバルト海の制海權を爭ひ、十八世紀の末葉にはポーランドを并呑し、トルコ政府の貧弱に乗じて黒海の要地をとり、ウラル山東に移住せるロスを綜合して、遂にシベリア拓植に着手し、中アジアをとりて將にインドを突かんとす。しかも其廢展の跡を考ふれば、自己の力よく異種を征服するに足れば進み、若し力足らざれば、其實力の充填せらるゝまでは決して占領に指を染むることなく、徐ろに時の至るをまち、易きを先にして難きを後にす。故に其進捗頗る遲緩なるが如きも、發展の階段多くは成功の歴史なり。是れロシア勢力膨脹の事實より得たる歸納說にして、其國是もまた之に過ぎず。今日國民の大部分を占むるものは、大ロス(ウエリコロス)種にして之に次ぎて勢力あるは、小ロス(マロロス)族とし、ロシア古代に於ては實に其代表者たりき。此二種族に比すれば、極めて少數なれども、ロシア史に重大の關係あるものは、白ロス(ベロロス)種にして、ニエメン川の流域之が中心地たり。ロシア國內の純スラブ種は、此三部となす。其周圍に無數の非ロス種又は非スラブ種族あり。最北

の地方にサモエド、ラップあり。共にモンゴル種に屬し、フィンランド地方にはフィン種あり。バルト海沿岸地方には、エスト種族あり。腓格サモエド、ラップと酷似し。エスキモーに近きものとす。是より南には、サンスクリットと最も關係ある言語を常用するリトワあり。人種學者或は之をスラブの一種となし、若くは其外におく。またレット人あり。サモキチアン種族あり。此種族の住地以南には、ロシア古代文化に影響を與へたるレヒ即ちポールあり。ボルガ下流の地なる新ロシア地方には、ドイツ人の移住せるものありて、今日もなほ移住當時の風俗を保つ。イスラム教徒たるキルキス部落は、カスピ海北部に住し、カルムク種は、ラマ教を奉じ、スタプロボル、アストラハン地方に散在し、オレンブルグ、ウフ州地方には、バシキル種あり。またロシア東部には、大ロスの間、に散在せるフィン種の遺族多く、ベルム、ボチアック、チエレミス、モルドウイン、チャバシ、等之に屬す。カザン地方には、モンゴル、タルの遺族なほ多く、風俗頗るスラブ種と異なり、人をして轉た往時を追想せしむといふ。クリム半島には、多數のタタル人殘留し、南方海岸地方には、チガンと稱する賤族あり。ユダヤ人の種、カライト種あり。ベサラビア地方には、モルダヴィア

人口

人あり。此等の諸族みな自己の風俗習慣を改めず、共にツールの臣民として一政府の下に立てり。尙邊境に於ては以上の外外國人の移住者多く、また都會に於てはフランス人、ベルギー人、ギリシヤ人等あり。人種の最も複雑せるはカタリナ二世以來占領したる、古トルコ領地ノボロシアといへる地方にして、ベサラビア、ヘルソン、エカテリノスラフ、タウリダ諸州之に屬し小ロシア人、大ロシア人、ロマーンニア人、セルビア人、ドイツ人、ギリシヤ人、フランス人、ポーランド人、タタル人、ユダヤ人等、各小部落となりて混住す。

最近の調査によれば、ヨーロッパロシア全部の人口は九千四百二十一萬五千四百十五人にして、平均一平方哩五十一人とし(一平方哩は一方里の五、九五五二分の一とす)モスクバ附近の百八十九人を最高としアルハンゲルスク州の一人を最少とす。ポーランドに於ては九百四十五萬五千九百四十三人の人口ありて一平方哩の割合百九十三人にしてヒトルコフの二百九十七人よりスワルキ州の百二十七人に至る。フィンランド大公國の地は二百四十八萬二千二百四十九人を有し平均二十人にして、ニールランドの六十一人を最多としウレアホルグの四人を最少とす。

増殖の程度

此等の人民がいかに増加しつゝありしかば、明白ならざれども、一八九六年の調査に據るときは、ロシア及びポーランドに於て、同年中百六十一萬千三百七十七人を増し、フィンランドに於ては三萬四千五百九十五人を増したりといふ。なほロシア領土全軀につきて計算するときは、約二百萬人づゝ年々に増加するを見る、(我國の約四倍)此人口増殖なるものが、即ちロシア國力發展の最大原因の一をなし、カフカズの侵略となり、中アジアの征服となり、シベリアの拓殖となり、遂にはアムル地方の經營となれり、また國力發展の無形的動機となれるは、ペテロ大帝以來の不凍港獲得方針と、十九世紀に始まるスラブ文化普及の主義是なり。現にロシア内に於て完全なる不凍港と稱すべきは、グールランドのリババ港と租借地の大連灣及びブラランドのコーラ港のみ。然れどもラブラントは國家經濟の到底之に伴ふ能はざるべければ、其發達如何ならんかなれども、リババ大連灣の二港は築港等の他完全なる設備をなさんには、ロシア第一の港灣となるべきは疑なき所なり。

吾人ほヨーロッパロシアの天然地理を叙したるを以て進んでアジアに於け

る領地の一般を叙せん。

所屬地

所領は現今は盡くアジア大陸にありて其地方の情況種々相違せるところありよりて之をシベリア、トルキスタン、カフガスの三部に分ちて説明せん。

シベリア

第二章 シベリア

シベリなる稱呼は、本來オプ河の支流イルチシ川上流を指すものなりしも十六世紀の末葉より次第に其範圍を廣くし、遂にアジア北部の全土に用ひらるゝに至れり。我等は此邊を説くにあたりステップ地方及びアマール地方をも併せ論ずるの便宜多きにより姑く之に従ふ。

山岳

(一) 山岳 シベリアはウラル以東の廣原にして、面積ロシア本國に三倍し、地勢自ら北方に傾斜す。此廣漠たる地方は山岳の形勢により、北洋に面する部分と大平洋に傾ける部分との二大部となり、其西部は即ち眞のシベリア地方にしてオプイエニセイ、レナの三大河并行して北洋に入る。オプ、イエニセイ二河の中流には、濕潤

の平野あり。風向によりて沼澤の滲水逆流し、オプ、トボル二河の間は、殆んど通行すべからず。此平野とロシア平原との間に、蟠れるはウラルの高地なり。

イエニセイ以東の地は凸凹頗る多く、且つ丘山連亘して、通過困難なるところ少なからず。其最高點は八千五百尺に達す。イエニセイ上流の地は、即ちイルクツク州の地にして、バイカル山脈其南界に横はり、山東にバイカル湖あり、イルクツク州の東北一半は、地勢東西に傾斜し、ビチム、レナの諸流は、ヤクーツク州に入る。オレンクマ、アルダン、ビチム三河の上流は、ヤプロノイ、スタノボイ山脈にして、太平洋北氷洋の分水嶺となり、十七世紀以來、ロシア移民の探險せる所とす。ヤプロノイ、スタノボイ山の南は、太平洋地方にして、西はバイカル湖よりアムルの北邊一帯、オホツク海の沿岸は、地理學者之を太平洋地方と稱す。バイカル湖東には、九千二百尺に達する高山シナとの境上に連なり、地概ね高さもヤプロノイ山脈は、臺地續にして、其最高峯も三千二百尺に過ぎず。太平洋沿岸には、カラフトの大島及びカムチアツカの火山半島ありて、オホツク海を包み、日本海沿岸には、シホタ山海岸に近く峙立せり。

(二) 河流 シベリアを貫流する諸河は皆世界屈指の大流にして、本流は多く北流すれども上流には東西に向へるもの少なからず。アムル河は本流東西に横はり支流の南北よりするもの多く、みな航運に便なり。

オブ河は源をモンゴリアの境に發し、イルチンと合して、カラ海に入る。舟を通ずる所凡そ二千餘里大小の支流多し。イニセイ河はバイカル湖より出づ。湖はモンゴリアのハラホリム地方を流るゝセレンガ河をうく。其ロシア領に入る所にキヤフタ市あり。レナまた三千里の大河にして北洋に注ぐ。アムル河はシナ境上に横たはり源を外モンゴリアに發す。モンゴル發祥の地其附近に在り。アルゲン河及びシルカ河是なり。二河合して後をアムルと稱す。東南に流れてスンガリ江を合せ、また東北に折れウスリ江を合せて海に入る。長さ千二百里盆地凡そ十三萬平方里。合流するもの無數。中スンガリ、ウスリ二江を以て最大とす。

(三) 湖沼 湖水の大なるもの淡水にてはバイカルを最大とす。長さ百七十餘里、幅九里より二十三四里に至る。水最も深き處七百五十七尋あり。其水面は海拔千五百六十尺。山南の地は最も險峻にして全山殆んど岩石のみ。バルカシ湖はセミバ

ラチエンスク州と中アジアとを分ち、イリ河此に注ぐ。此邊古代烏孫の地にして今日動もすればロシアの西シナ侵入の根據地たらんとす。

カスピ、アラル二海は共に湖水の形をそなふれども、其形式他の湖水と異なる所多し。アラル海はウスタウルトの東に横はり、アムシルの二河の水をうけ、東方にはキジルクム、カラクムの沙漠あり。北岸は平野にして處々入江をなす。水深がらず三十尋より十五尋の間に在り。湖上暴風の虞多きと船舶の寄泊地の欠乏せるにより、交通に益する所甚だ少なし。唯魚類に富むが故に漁業地たるのみ。此湖流出口なくして、然も年々其面積を増さざるは蒸發の度強きに因りてなり。カスピ海はベルシア、ロシア兩國の領有する一大湖にして、南部を除くの外大部ロシア領たり。其湖面は黒海より下れること八十五尺、面積遙に本邦より大なり。深さ二千六百尺より四千尺に及ぶ。此海はもと北洋に通じたる大海の一部なりしが、土地の隆起により連絡を失ひて今日の觀を呈せるなり。航運の便頗る乏しく水上には瀛車運搬の爲めに特別の裝置をなせる瀛船あり。バイカル湖に泛べるもの亦之に同じく列車は客車貨車を連結せるまゝ、船上に設けたる軌道上に運

次入れられ自由に目的地に輸送する装置をなす。バクトーは西岸の要地にして、海軍根據地となり、又商業の中心たり。ウズンアダ、クラスノボドスクは、東岸に在りて、中アジア鐵道の基點をなし、また中アジアと、ボルガ盆地との連絡點たり。

(四) 氣候 シベリアの地頗る廣大なりといへども、氣候大差を見ず。十月より翌年五月までは寒氣強くイルクツク州に於て十一月下旬より水銀凝結す。此より南部の地も多く之に類し、ネルチンスク、クラスノヤルスク等に於ては、華氏零度下十三度より十八度に下ることあり。比較的溫暖なりといはるゝ西シベリア若くはアムル河流域といへども、冬期は二度四分より零度下一度二分に至り、北方のヤクーツク、ベルホヤンスク地方に於ては零度下七十五度若くは八十五度に及ぶ。かゝる寒氣に際しては、大木も其中心まで氷り、河流も皆凝りて流れず。地氷結すること數尺雪其上を掩ひ時々ブーランと稱する吹雪の襲ひ來るが爲め、行旅の行方を失するもの歲に其幾百なるを知らず。南方高山地方は雪深く、バイカル湖邊殊に甚だし、五月初旬に至ればロシア本土と同じく四面忽ちに形をかへ、一年中最も愉快なる春季となる。日長くなるに従ひ暑氣漸く加はり、盛夏の候は北極

圈の下に於てもなほ暑氣を覺ゆ。此時禾穀豐熟し、八月下旬に至りて收穫せらる。十月下旬に至れば川流に氷を見、十一月初は堅氷徒渉するを得、雨雪の量は太平洋岸を除くの外一般に僅少にしてたゞ南方山地のみ多量の降雨あり。

(五) 生物 北方はツンドラにして有用の生物少く、南部は大平洋斜面を除くの外、一大森林をなし、其面積各州面積の半ばより九十九分に達し、アメリカ合衆國若くはカナダと同じく、森林破滅を開拓の一段とする所あり、其樹木の種類はヨーロッパロシアと異ならず、西シベリアは花卉に富み、ダウリア平野及びトムスク附近は其種類の多きこと皆人の驚く所たり。元來シベリアの地は、人跡未到の地少なからず、且つ交通不便なるにより、材木の如きは、其多量なるに拘らず、いまだ十分なる輸出物たるに至らず。

此に生息する動物は氣候及び周圍の狀況の變化に因り自から南北中の三帯をなす。北帯はツンドラ及び其附近にして、中帯は森林に相當し、南は山地に當る。北部地方には、レンシカ、イヌ、キツネ、ウサギ、オホカミ等あり。海獸よく繁殖し、候鳥群り來ること多し、土着の鳥類には、フクロ、タカの類及びカラスあるのみ。中帯は

(34)

クマ、アナグマ、アラヒクマ、イタチ族、カハウン、オホカミ、キツネ、ノネコ、モグラモチ、ハリネズミ、カハホリ、リス、ムサビ、ネズミ、海狸、ウサギ、キノシ、シカ、レンシカ、カモシカ、アザラシ等至る處に繁殖し、シベリアの共産物たるクマ、ジアカウシカ、エゾイタチ、シベリアテンリス等また山間にあり。トラも大平洋岸に止まらずバイカル湖東にも棲息す。哺乳動物の數五十七種鳥類二百八十五種、大部は歐州に産するものと同じく、我國に似たるものもまた少なからず。河湖また多數の魚類を産し、アムル河流のみにても七十種に上るといふ。アムル、スンガリ一帶の地方には、蚊の蕃殖甚だち多く、住民時々草原を燻きて之を焚滅す。東海の水面上には海鳥また多くして八九十種を下らず、南帯の動物は中帯と同じく、アムル河邊に於ては、シナに存在する種類と、シベリア特産動物との混合せるを見る。

シベリア地方の動物は、其種類西ヨーロッパの物と、大差なけれども、其體質の發達頗る良好にして、種類によりては、二倍の大きさを有するものあり。また動物が季節によりて、其住地を變更することは、一特色にして、或動物は一地方を限りて生息するものあり。またシベリアの或地方バイカル湖附近、イニセイ河口及び新

人種
ロシア人

(35)

シベリア諸島には前代のモンマス象の牙を産すること夥しく、ヨーロッパ、アジアに於て用ふる牙の一大供給場なり。

(六)人種　ロシア人は、ウラル山東より、オブ、イルチシの中流に出て、進みて中アジアに入り、イルクックに進み、ヤブロンイ山陰を迂回して、カムチツカに至る。またイルクックより外バイカル地方を拓殖して、東方アムールの上流よりマンチウリア地方に廣かり、シベリア最好の地點盡く其手中に在り。此等の住民は本國のものと多少其趣を異にすと雖ども、言語容貌大差なし。然れども本國を距ること遠き地、若くは土着すること久しき移住民は、國風を失ひて土人に化せるものあり。則ちキルギス部落に移住せるコサック種族若くはヤクーツクに住せるロシア人の如し。またイルクック附近に至れるものは、ツングース種と混じ、ネルチンスク、アルグン附近のもの殊に甚だしく、ブリヤット語を用ひ、其衣服の裁ち方すら之にならへり。されどもロシアより移り來れる多數のラスコルの徒は、全く國風をすてず、純然たるロシア人なり。然して其蕃殖の度甚だち多く、人口の年に増加せるは、皆新移住民によりてなり。土着の種族には、ウグリ族、ウラル山の東麓にあり。オブ河流域

には、フィン種に屬するオスチアックの部落あり。此部落はマルコポロの記行中にも見えれば、由來頗る古くロシア人侵入以前に在りては、更に南方に占居せしも、今日はロシア人、タタル人に慣ひて、其風俗を改め、人口僅に三萬にすぎず。天性溫和にして、技藝に巧なり。サモエド種族は、オスチアックに比すれば、分布頗る廣く、アルタイ山脈の西より、オプ、イニセイの流域に達し、北海の邊より白海に至る。其言語、フィン種に近く、我國の如く、テニハを用ふ。近ごろ著しく其數を減じ、一部はオスチアックと混淆し、南方に住するものは、タタル人の感化により、殆んど相區別するを得ず。現今其數僅に二三萬に過ぎず。以上の三種もとアジアの北部に廣まりしが、他人種と競争せる結果、其根據地を逐はれ、以て今日に至れり。

シベリアに残留せるタタル種族は、一時非常の大數に達せしが、今日は南シベリアよりバイカル湖邊に廣まり、ロシア人に接し競争に堪えずして、其地を失ひ、遂に東西の二部となり、バラバ、ヤクト種は、北方に他の諸族は南方丘陵に逃亡せり。ヤクト族は、レナ中流を占め、人口凡そ二萬ばかり、敏捷にして商業に従ひ、貨殖に巧なり。ロシア人よりて之をユダヤ人に對比し、アジアのユダヤ人と稱す。南

方に逃亡せるもの、また種々の名目あれども之を畧す。ヤクトを除くの外、大抵遊牧を業とし、時としては農業に従ふ。彼等のよく労働しまた信義に厚きは特色と謂ふべきなり。

モンゴル族は、東北の高原より、西シベリアに達す。アルタイ山附近には、カルムク種あり。セレンガ、ウダ河邊及びネルチンスク附近には、ブ、アトあり。外バイカルに住するものは、農業に従ひ、其他は牧畜業を營む。ゼーヤ河口より、下流のアムル左岸には、シナ人及びマンチ人あり。アムル沿岸の高地及び其盆地には、ツンクス種族ありといへども、年々ロシア人の爲めに、其地を奪はる。ツングース種族は、シナ人之を直毛種、斷毛種の二大別をなす。其アムルの支流ウスリの沿岸に在るは、斷毛種にして、往古肅慎といはれたるものもまた此に屬し、契丹、女真みな同族たり。實に今日のシナに君臨せる王家もまた其一支族たり。

シベリア東北隅には、所屬未詳の種族、チックチ、コリアック、カムチャトカ人あり。ギリアックは、アムルの下流、及びカラフトの北部に住し、アイヌは其南に在り。

附 カラフト島

カラフト島、一にサハリンと稱す、また訛りてサガレンとも云ふ。アムル河のマンチツ名なる、サハリンウラを島名と誤認して、ロシア人の本島に附したる稱なり。アムル河口より、正南にのびたる大島にして、面積我北海道と匹敵すべく、間宮倫宗幕命を奉じて、文化六年(一八〇九年)此地を探りて歸りしが、ロシア人また此島の拓殖をくはだて、漸く其北邊に渡來せり。時に本邦内外多事ならんとし、漁業の利多きに拘らず、此が拓殖に着手するを得ざりしかば、ロシア人南下して、遂に之を蠶食し、事實上ロシアの有となりぬ。よりにて明治八年(一八七五)ベテルブルグに於て條約を締結し、千島交換を條件となして、カラフト島はロシア領となれり。全島南北に長く、中央に脊梁山脈あれども、二千尺乃至五千尺とす。東南には、多少の平野あり。草木よく繁り、地質は完全なる實査を経されども、第三期の泥土、砂岩、灰岩より成る。石炭は島内何れの地にも發見せられ、炭質亦不良ならざるも、交通不便なるが爲め、經濟上いまだ有利の業たらず。石油、金礦も亦た近年發見せられたりといふ。海岸線は屈曲稍多く、南方のアニバ灣、幕府時代日本殖民根據地最も重要なり。他の諸灣は、港として利用するに難く、或は大に過ぎ、或は氷結の患あり。雨

量は頗る多く、湖沼川流從て多きも、住民之を利用する能はず。寒潮の影響により、寒氣酷烈にして、海上氷塊の流れ來るもの多く、六月に至りてもなほ流水あり。空氣は著しく水蒸氣をよみ、雲霧となりて天を蔽ひ、雨雪となりて地上に降下し、一年中晴天僅に三十九日より六十三日の間にあり。氣温平均アニバ灣に於て攝氏零度下三度一、クスナイに於て零度下一度七九、チエに於て零度下五分九厘とす。

植物は東岸は日本と大差なく、動物亦之に似たり。抑ロシア人の本島を知りたるは、一六四〇年以後にして、アムル地方の占領者ムラビヨフ時代までは、なほ一大半島なりと思考したりしも、一八五七年ヂエ、サルツンナイに屯住地を常設し、翌年にはクスナイを駐在地とし、囚徒をして石炭の採掘に従事せしめたり。十一年にして、始めて八百の囚徒をうつせり。之を本島への囚徒大輸送の嚆矢とす。本邦其領權をすて、よりクシンコタンを改めてコルサコフと稱す。

囚徒は政府の命に従ひて此地に來るや、一定の土地を頒與せられ、且つ家屋建築費をうけ、常に吏員に監視せられ、一定の期限をすぐれば、島内住居の自由を得、特

(40)

別の情状あるものはアムル地方に移住するを許さるゝといふ、また囚徒の逃亡を防ぎ、土着の念を生ぜしめんとし、一八八三年以來、囚徒をして家庭生活をなましむるが爲めに、女囚の重刑に處せられたるものを移し、囚徒と自由結婚をなましむ、翌年またシベリアを過ぐるの不便をさけて、オデッサより義勇艦隊會社の汽船により、インド洋をへてカラフトに至らしむ。

かくて漸く拓殖の業進むにより、一八九四年總督をよき全島の軍務民政の事をすべ、アムル軍區總督の配下に立たしむ。主廳はアレクサンドロフスク市に在り、軍事上全島を三大區畫となす。アレクサンドロフスク、チモフスク、コルサコフ是なり。一九〇〇年の調査によれば、人口約三萬、中ロシア人二萬六千、土人約四千あり、土人はギリヤク、ツングース、オロチエン及びアイヌにして、ロシア人は軍人官吏二千五百人、農民五千人、放逐農民三千人、流人七千五百、苦役者七千人とし、村落凡そ九十八、寺院八、學校二十八あり、中五校は二學級よりなり、他は皆單級制により生徒七百二十人を有す。

守備兵は、平時千二三百ありて總督の下に立つ。首府はアレクサンドロフスクに

して、人口一萬四千諸種の設備あり。海底電線は對岸のデスカトリに通ず。コルサコフは、良港の稱あれども、遠淺にして舟を寄するに便ならず。交通道路は、さまで不便ならず、四五里にして宿驛をおく。冬期は間宮海峡氷結するを以て、人馬大陸と自由に往來するを得。

農業は、極めて幼稚にして唯自家の需要を辨ずるのみ。麥、ソバを産し、蔬菜には馬鈴薯、ポタナ地味に適し、生育良好なり。牛馬も、近年政府の保護に因り、良種を産す。漁業は本島主要の生業にして、海魚の種類、我北海道に譲らず。世界屈指の漁場たり。産卵期に際して、海岸に集まり來るもの無數。サケ、カド、マス等最も多く、本邦人は、年々相當の借地料を拂ひて、漁業を營み、ロシア人と競争す。全島の産出年額三百五十萬ルーブルに及ぶ。其販賣地殆んど我邦に限る。

第三章 トルキスタン

トルキスタン地方一にロシア領、中アジアと稱す。其境域、カスピ海東岸に起り、北はウラル、ツルガイ、アクモリンスク、セミバラチンスク諸地方に連なり、アム、シル

トルキス
タン

地勢

(41)

氣候

二河の盆地殆んど皆之に屬す。南は、コベット山を以て、ベルシアと接し、アフガニスタンには、アム河を以て、相隣りし、地勢高地平野相半ばし、二萬尺より二萬三千尺に至る。高山南方に蜿蜒し、北方には、カスピ海の窪地あり、カスピ海とアラル海との間には、ウスチウルトの高地あり、アム河の沿岸に、チムル以來の獨立國たる、ヒバ、ブハラ之二屬國あり、面積二十五萬方里、人口七百五十萬、氣候一年間の温差、百三十三度、最高百十一度より、最低零度下二十二度に至る。蓋し大陸の中心に國するを以てなり、空氣乾燥甚だしく、北方一半は、概ね沙漠にして、歴史時代に於ても、其面積増加しつゝあるを證し得べし。アム、シル、共に今日よりも遙に多量の流水あり、相合して、アラル海に流入するも、年々其水量を減ずといふ故に、生物の蕃殖も、之に制限せられ、北部は、シベリア、西南より、ロシア本國に連なれる、大ステップの一部をなし、生物頗る少けれども、唯、春期のみは、嫩草もえ出で、四邊綠野となる。シル河は、古ヘヤクサルと稱し、シナ古書には、藥殺水質河、真珠河など見え、天山より出で、アラル海に注ぐ。其沙漠の間を流るゝの際、水量次第に減ずるは、蓋し主として、疏水縦横附近の沃野を灌漑するによりてなり。アム河は、バミル高原よ

河流

動物

植物

り出で、アラル海に注ぐ。中アツア最大の河流にして、長さ約千里、古へはオクス河といひ、シナ古書には、鳩水、烏澗水、縛芻河など稱せり。中流の地最も肥沃にして、ロシア領内、屈指の農産地なり。ブハラ汗國、古來此富源に據るを以て、最も富めり。動物は、ヒツジ、ノムマ、ノラクダ、クマ、ヤギ、ノイヌ、キツネ、タヌキ、テン、ノネコ、ヘウ等あり。トラはアム河の下流に在り。サイはステップに接する地方の特産物にして、群獸の畏るゝ所となる。ウサギ甚だ種類に富み、鳥類亦此に同じく、殊に食虫類を多しとなす。

植物はシベリア地方に同じといへども、平野は氣候の爲め繁殖不良なり。唯、南方山多き地は生育頗る良好にして、マツ、マルバヤナギ、カヘデ等は、山間に叢生し、四五千尺の高地には、カバ等をも交ふ。園藝頗る盛にして、重要な生産業たり。農産物には、小麦、燕麥あり、リンゴ、アズノの栽培盛にして、ブドウ、イチジク、スモ、サクロ、あり、ワタの培養日に盛に、南部のフルガナ、ホージンド地方には、カヤの林多く、外カスピア地方には、近日茶樹の培養を初む。蓋しロシア人の茶を用ふること多し。國内之を産せず、シナ、インド等よりの輸入品のみをまつを以て、國內に於て其

供給の幾分を充たさんとするによりてなり。礦産物としては、砂金多しと稱するも採取の利益はなほ疑問たり。銀、鉛、鐵の類亦多けれども、精煉に必要な燃料に乏しきが爲め、利益なし。其他石炭、石油等の有用礦物、貴重なる石材あり。また鹽城に富むといへども、鹽を輸入すること多し。此地方は、アフガニスタン、ペルシアの一部と共に、世界人類移動の衝たりしにより、今日も、モンゴル、イラン、トルコ、アラビアの諸族、互に混淆す。イラン人は農事にモンゴル、トルコは遊牧に従がひ、アラビア人は商業に従事す。トルコ種には、チャルクメン、キルギス、ウズベクの諸族あり。チルクメンは、比較的温和なるにより、キルギス部落の侵襲を蒙り遂にロシアの保護に頼れり。キルギス部落は、最も慍悍にして、其數三百五十萬、キルギスカザク、カラキルギスの二大支となり、ボルガ東邊より、シベリアのステップ地方に散在す。ウズベクは、昔のキブチャク汗、ウズベク國民の子孫にして、もとより、モンゴル、トルコの雜種なり。元來此地方の主權者たりしも、今は、ペルシア、モンゴル、キルギスの三部と混し、牧畜を業とす。サルト種は、もとイラン種なりし如きも、今日混淆したるか、言語骨格等、他の部落と大異なし。なほ

此地方には、多數のギブシ、コサック等あり。

附、ヒバ、ブハラ兩汗國、

兩汗國共に、アム河の流域に在りて、南北に位し、ヒバは外藩、ブハラは保護國たり。中アジア最良の區域を占め、其首府を、ヒバ、ブハラとす。ヒバは、チムルの大帝國瓦解以來、此地を占領せる、ウズベクの部落のたてたる汗國にして、ロシア人は、十八世紀以來之と交通す。一八七三年に至り、全く抵抗力を失ひたれども、なほ自國の汗をいたゞき、面積約四千方里、人口八十萬あり。地味蠶桑に適し、絹糸の産出頗る多し。ほく、また棉花を出す。國民は、イスラム教を奉じ、ウズベク、チャルクメン、サルト、アラビア人等雜居す。

ブハラは、アム、ザラフシャン兩河にのぞむ。氣候は、ロシア中最良地の一と稱せられ、十一月より翌年五月までは、寒氣強けれども、氣温の差は、他處に於けるが如く、激烈ならず。面積凡そ一萬三千方里、人口百二十五萬あり。地味豊饒にして、穀物、藥物、絹、煙草、大麻を主要なる農産物とし、ヤギ、ヒツジ、ムマ、ラクダを牧し、棉花の産出は、一年三萬二千トンに達す。黄金、岩鹽、明礬、硫黄を重要な礦物とす。此地また一八七

三年、ロシアの脅迫をうけてその保護國となり、ロシア人は自餘外國人の特許を得ずして、同國に入るを禁ず。蓋し領土インドに接するを以て、イギリス人の偵察を厭ひてなり。商品は盡く、ロシア商人の手によりて賣買せられ、ロシア鐵道は、國內を貫通して、サマルカンドに達す。此國また、ウズベク種の十五世紀に建てたるところ、現王朝をマングイト家といひ、十八世紀以來連綿たり。人民はダジク、ウズベク、エダヤ、アフガン、ベルシア人及びカルムクとなし、宗教はイスラム教を奉ず。此地方天産物の豊多なるが爲め、ロシア政府保護獎勵至らざるところなく、中アジア中最盛の地とす。

第四章 カフカズ地方

カフカズのロシア領となりしは前世紀以來にして經營前後八十餘年を費せり。地勢中央に高山あり、西北より東南に走り、北はクマ、マニチの低地を以て、アストラハン、ドンのコサック地方と接し、山南は黒海沿岸のバツーム附近より、東アララツト山の一部をふくみ、アラス河の上流より、河北一帶其域内の地なり。故に地勢は

山陰平野中央の山地山陽の盆地及び南山の四大部に分る。氣候は山の位地により、甚だしき差あり、面積凡そ三萬方里餘、人口九百二十五萬あり。山陰の地即ち内カウカシヤは、平原多く、氣候は全く大陸的にして、雨量僅少なれども、土地甚だ肥え、コサック人の來り住するもの、年々増加し、小麥の耕作は其主要の生業なり。中央の山地は廣さ十二三里より、五十三四里、雨量極めて多く、殊に黒海に近き南麓は氣候甚だ良好なれば、最も生物の蕃殖に適するも、マリアのの流行する所あり。山間の地は、古來諸人種の隱遁所となり、異血種の徒、小面積の地に群居するを以て、此地に入るもの、到底一國語に通ずる通辯のみを伴ひては、内地を跋渉するを得ずといふ。南部の平野は、外カウカシヤ地方中最も肥沃なる地方にして、人口最も稠密なり。リオン川、クル川、中央より東西に流れ、古來グルジヤ人の根據地たり。氣候は暑氣甚だしく、ロシア國內屈指の多雨地方にして、一年平均雨量八尺をこゆ。バクトーは其極東の都會にして、人口十一萬、石油の産出を以て最も名あり。南部高地は、山岳多く、アララツト山に連なり、氣候炎熱なれども、高地のみは寒氣頗る烈し。高原には多少の穀物畜類を産し、低地に於ては棉絹菓物を

産す。

カフカズ地方の住民は、年々増加し、一八九七年の統計によれば、九百二十五萬あり。うち南部カフカズには、十二萬五千、北部カフカズには、二百八十萬あり。これを入種によりて區別すれば、四十餘種となる。一々其名をあげ難けれども、三萬平方里の地にかゝる多數の入種を有するは、世界多く其比を見ざるところなり。土着の族は美貌を以て世に知られ多く農業に従ふも、遊牧入種また少なからず、農産物は、小麦最も多く、雜穀の産出また少なからず、タバコは南部カフカズの東部に出で、タバコ亦培養せらる。且つ氣候溫和なるが爲め、ブダウの産出頗る多く、蠶桑の業も漸く盛ならんとす。又近ごろ茶を植うるものあり。草野地方には、牧畜盛大にして、山地には銀銅マンガン等を出す。なほ此地の特産として、世に名あるものは、石油にして年々其額を増加し、坑脈バクト、テレク、クバン、チフリス、ダゲスタン等に連なり、殊にカスピ海西岸一帯を其中心となす。

第五章 行政區畫

以上ロシア地理の概要を叙したりしが、社會政治等に關しては、次章以下に於て記述すべければ、其政治區畫を記して本章を終らんとす。さて是に先だちていふべきは、ロシアの都會にして五萬以上のもの凡そ五十七、三千以上の聚落を合計すれば、其數三千五百二十七、住民千六百二十八萬あり。村落は其數七十二萬四千六百四十五にして、(フィンランドを除く)一億一千有餘萬の人口を有す。此等の分屬する諸州の名稱、面積及び人口、密度等は、次表の如し。面積は方哩を以てす、之を我が方里に換算するには、數字を五、九五五二を以て除し得たる數を方里とすべし。(一八九七年調による)

州名	面積 (方哩)	定住口數	密度
アルハンゲルスク	三三、四〇〇	三、四七五、九	一〇
アストラハン	九三、三	九、九四七、五	一〇
ベサラビア	一七、六	一、九三三、四	一一
チエルニゴフ	二〇、三	三、三九〇、〇	一六
クールランド	一〇、五	六、七二六、四	六四
ドニ地方	六三、三	五、七五八、八	九一
エカテリノスラフ	二四、八	二、二二五、五	九〇

州名	面積 (方哩)	定住口數	密度
エストランド	六、八	四、三三三、四	五九
グロドノ	一四、九	一、六七八、五	一〇
カザン	一、九	一、八七三、六	九七
カザン	一、九	二、九〇五、八	一五
キエフ	一、九	三、七六三、五	一九
コスタロマ	三、四	一、四九三、二	四四
ノヴゴロド	一、五	一、五九四、四	一〇〇

第壹篇 地理

州名	面積	定住口数	密度
アソフ海	1,450,000	—	—
ロシア全部	1,910,100	9,422,542	5.0
カシ	4,323	8,467,919	1,959
ケルチ	3,877	7,337,426	1,916
ロムシ	4,677	5,457,611	1,166
リッリ	6,510	11,594,633	1,781
ビートル	4,779	10,900,000	2,280
プロツク	4,000	8,567,877	2,142
ラド	4,737	8,203,333	1,731
シドレ	5,533	7,733,333	1,398
スワキ	4,846	6,000,000	1,238
ワシ	5,633	1,933,333	341
全ポラント	4,915	9,455,915	1,924
オホビエルホル	9,333	4,010,910	428
クオビ	1,699	3,051,636	1,796
ニウランド	4,584	2,733,333	598
サンミカ	8,119	1,846,766	227
タワステ	8,334	2,851,611	343

州名	面積	定住口数	密度
ク	1,737	3,967,767	2,284
ハル	2,101	3,509,811	1,670
リウ	2,733	3,733,333	1,366
ヘン	1,858	3,000,000	1,615
ミウ	3,533	2,233,333	632
モギ	1,851	1,700,010	918
モス	1,959	4,000,000	2,042
ニッ	1,977	1,600,000	809
ノゴ	4,333	1,333,333	308
オロ	1,801	3,637,111	2,019
オレン	7,816	1,000,000	128
ベル	1,937	1,491,215	770
ベム	1,811	3,000,000	1,657
ボド	1,633	3,051,555	1,870
ボリ	1,915	3,000,000	1,567
ボタ	2,733	2,733,333	1,000
ボス	1,636	1,333,333	815
リッ	1,633	1,827,542	1,119

露國の實相

面積

定住口数

密度

州名

面積

定住口数

密度

露國の實相		州名		面積	定住口數	密度	州名		面積	定住口數	密度
チフリ	ス	一五三〇六	一〇四九四	六	カスビ	一六九六一	一四八二五	五			
サクタリ	リ	一五〇二	一〇四九四	六	全中	一四八二五	一四八二五	五			
外カウカシア	ア	九四八二	五五二二九	六	トボル	五五九六九	一四八四四	三			
全カフカズ	カ	一八〇八四	九四八六五	五	トム	三二一五九	一四九〇三	六			
アクモリンスク	ク	二九六〇九	六八八九七	三	西シベ	八七〇八	三六五五	四			
セミバラチンスク	シ	一八四六三	六八五九七	三	イルク	二八〇六二	五〇五七	二			
ツルガイ	ガ	一七六二九	四三三二	三	外バ	二二六六八	六六四〇	三			
ウラルスク	ウ	一三九二六	四三三二	三	ヤク	一五三三九	二六七二	〇			
アラル海	ア	二六二六	六四〇〇	四	イニ	九七七八	五五九〇	一			
ス テッ	ス	七五七三	二四二七	三	東シ	三〇三三	一三三三	〇			
サマルカンド	サ	二六二七	八七七八	三	アム	一七三四	一八五〇	〇			
フェルガナ	フ	三五六四	一五六〇	四	沿海	九二五八	三三〇七	〇			
シルダリア	シ	一四八五	一四七九	七	カ	八八八〇	三三九一	〇			
セミレチエンスク	セ	一五二八〇	九九〇七	七	ラ	二九三六	二八二六	一			
全トルキスタン	全	四〇九四	四八八三	二	シ	四八三四	五七三〇	一			
外カスピア	外	二二四三七	三三三三	二	ベ	六五四七	三三九七	一			
					リ	六五四七	三三九七	一			
					ア	六五四七	三三九七	一			
					領	六五四七	三三九七	一			
					等	六五四七	三三九七	一			
					在	六五四七	三三九七	一			
					住	六五四七	三三九七	一			
					者	六五四七	三三九七	一			
					及	六五四七	三三九七	一			
					海	六五四七	三三九七	一			
					員	六五四七	三三九七	一			
					等	六五四七	三三九七	一			
					計	六五四七	三三九七	一			
						八六〇九五	二九〇四	一			

第貳篇 社會

國民の大部は農民にして、其數凡そ八割以上を占む。此に次ぐものは、メシヤチア
 ネと稱する市民及び商人にして、一割弱に當り、軍人は六分強、貴族は一分三厘、僧
 侶は一分弱、外國人二厘、區分不明のもの五厘に當る。
 外國人の階級は姑く措き、一億有餘の大人を有するロシアは一言を以て之を
 蔽へば相調和せざる分子の集合なりといふを得べく、其史實及び法制の發展は、
 益々此不調和を増進せしめたり。されば近來に至り、其差別を調和せしめんがた
 め種々なる方策を講ずるものあり。即ち政治家は國家的見地より、社會論者の一
 派は、極端なる理想より何れも皆弊害の交際につとめつゝあるなり。ロシアの社

(54)

會は表面より觀察すれば頗る共和的なるが如しといへども裏面より望むときは却て貴族的の個所多く表裏殆んど正反對なる觀ありされば研究者は往々正反の意見を有し甲のいふ所全く乙の説く所と矛盾して適從する所に苦むことあり是れロシアの研究をなし或はロシア研究に關する書籍を讀むものゝ常に遭遇する難問にして讀者は説者根本意見の何れにあるかを察せざれば此疑問を解するを得ざるべし。

茲に本問題に入るに先だち豫め讀者の注意を要すべき點はロシアは建國の古きに關らず今日もなほ百般の事物に就て新開國たる性質を有することはなり。ロシアの國史は他のヨーロッパ諸國と殆んどその原始時代を同うすといへどもその社會は今日もなほ發展の第一歩に在るものにしてその國家も或る見解によれば實に今日より立脚點を變んとしつゝあること本邦の現狀に異ならず農業國として重きをヨーロッパになしつゝありしもの今や進んで商工業國の列に入らんとして事物に種々の變動を加へたれば舊來の習慣に甚だしき震盪を與えたり而も之を顧みざると頗る我國に似たり政府之を意となさず國民もまた

之を咎めず是れ實に奇なるが如しといへどもロシア人としては毫も怪むに足らず極端なる社會主義の行はるゝにかゝはらず國體は專制君主制たるを失はず最も開進せる上流社會を有すると同時に最も世に後れたる農民あり實にロシアは百般の事物に於て根本的に矛盾せり蓋し勢の已むを得ざるに出づ。

第一章 貴族

ロシアの社會は名義に於ては殆んど共和的にして古スラブの遺風により農民土地を共有すと稱すれども事實に於ては奴隸の制度行はれ無智の民衆は貴族豪族の下に立ち又た法律に於ては社會の階級をみとめずと稱するも實際に於ては嚴然たる區別あり是れ蓋しロシア國史の與て然らしめたる所十三世紀中葉より十五世紀に至るまでロシアを従へたりしモンゴルの威壓を脱れんが爲めにあらゆる方策を廻らし平民は甘じて貴族の用をなし貴族は同胞の利害の爲めに太公の命を奉じたり既にしてモンゴル破れモスクバ太公國ロシアの中心たるに至り太公はツァールと稱し東ローマの公主を娶り双頭の鷲を以て自家

(55)

の徽號とし、ローマ皇帝の後嗣を以て自ら任じたり。是に於て地方豪族の嫉視漸く加はりしもツァールよく之を制し、國民を率ゐて親からたすけ、ペテロ大帝に至り、大に貴族の權をそぎ、之を以て軍隊を組織し、遂にもと同等たりし諸家をして帝室に叩頭せしめたること、江戸幕府の諸大名に對せしが如くなりき。貴族はもとムジクといひ君若くは家長の義より來る。其階級を稱してツボリアンストボ(官仕への義)と云ふ。仕付けのよきものは是なり。今日は君主の手先となり其意志を遂行するの具となる。大部は舊家なれども、まだ國家に功勞ありしもの此階級に加へらる。終身のもの世襲のもの、二級あり。西ヨーロッパより課局政治の風渡來するに及んで上級の職官はみな此等世襲貴族の手に歸しぬ。一代貴族の子弟もまた國人より尊敬せらるゝといへども其權勢は到底世襲貴族に及ぶべからず。世襲貴族は陸海軍及び政治の要職を占め、農民僧侶商賈の列に入らず。其數はすべて六七十萬にして、遍く國內に散居す。外貌は一般人民と異なる所なきも唯國都附近に於て特別の表章をなすは、近來ヨーロッパより輸入せられたる形式にして古スラブの習俗として貴族に公侯伯子男等の區別なし。蓋し、ロシアにプエ

一代貴族
と世襲貴族

オド組織(俗に封建制度と云ふ)なかりしによる。是れロシア貴族の著しく我國のと異るところなりと雖ども其君主の恩顧に浴するに至りては殆んど相同じ。貴族の最上級をクニアーズとす。親王及び古代スラブの諸侯之に屬す。其他特別の取扱をうくるものみなポヤールと稱し、ドイツ風の影響をうけて後始めてグラフ(伯)をよき、尋てまたパロンをよく。此等の新爵をうくるものみな拔群の功を立てたるものなれども國民の此を視ること重からず。貴族にして、ペテルブルグに住するものは、皆君側に侍するの徒なりといへども、もと外國より歸化せるもの其半を占む。其血統より云はゞ、タタル、グルヂヤ、ギリシア、ウラキア、リトワニア、ポーランド、スウェーデン、ドイツ等の歸化人あり。またフランス、イギリス人も混合せり。みなよく皇帝に仕へ貴族の中堅たり。是れ實に國民の精華にして皇室の藩屏たるもの、吾人の目を以てすれば最もロシア血統の神聖なるものなるべきに、其教育まで外國風なりとは最も奇異の思ひをなす所なり。クニアーズ(公爵)はルーリク、ブラデミルの子孫と稱するも、眞に九世紀より十六世紀の間此より出てたりとするを得べきものは、僅に六十家に過ぎず。數百年の間舊家斷絶せるもの其爵を

失へるものありしはいふをまたず。而も此勢を馴致せる原因はロシア建國の原則と其家族制度に在りといふべく殊に其家族財産制度の關係最も與て力あるなり。ロシアにては古來子孫に父祖の財産を分配するに當り諸子同權を認め、貴族の子は采邑を分配し、其家格著しく劣等となりしかば後に至り、長子相續制を輸入し、若くは次三男を寺院に入れて一家の繁榮を圖りたるとありしもなほ貴族の威嚴を維持するに苦み名門の子弟にして職業をとるものありき、然れども土地を所有し、政治の要路に當るは此階級の特權にして其下にポヤールなるものあり、皇帝直參の武人にして貴族に従ふものをツルジナとす、御料地若くは貴族の食邑を分ち與へられしが、その一部は今日ボメシチニキなる團體となり、農民貴族の間に立てる中等社會を形成せんとす。

ペテロ大帝はロシア貴族政治の不備なるを察し從來嚴然たる階級をなしたるポヤールを廢して新貴族を置き諸官職を其の中より任命せり、是に於てロシアにはチンと云へる獨特の組織起り皇帝の恩命によりて此社會に入るを許され、政教の要職に當れり、なほ此階級に入るものは官尊の氣風の盛なるロシア國

内に於て社會上重要な地位を占む初めチンの階級に十四級あり、此に入るものは門地の如何に關らず初級に入り種々なる事務をとり成規の年限により進級す、まゝ專制君主の詮衡により不次の陞任をなすものあり、而して一たび此に入るときは、特別の事情あるに非れば其稱號を褫奪せらるゝことなきにより或は參議院議員の肩書を名刺に附するものにして其現職に止まらざることあり、是れロシア官吏社會の一特色にして、有爲の人物みな此に入らんことを競望す、さて其補足をなすが爲めに國家に於て種々の機關を設け、人才の養成を圖り、大學及び各種の高等専門學校に於て青年の教育をなさしめ、其卒業生を以てチンの一に數ふ、之を以てロシア大學の卒業試験は青年登龍の第一門にして大學に入學するは既に此階級に進むの第一歩たるなり、現今は名門の子弟といへども、此チンの中に入らざれば功名をなし尊貴なること能はざるが故に競ふて大學に入り以て仕官の途を求めんとす、また中流以下の子弟にして聰敏の資を有するものは非常なる苦學をなして最高の學府に入り、以て將來の榮達を期す、然るに社會の需要と大學の供給する卒業生とは互に一致せざる事とほく、幸運のもの

のみチンの階級に入るを得他の多數の學生は、特別なる功績あるに非ざれば、社會より受くる報酬極めて僅少なかるか故に自ら不平の徒となり、遂には革命の張本人と化せんとするものあるに至る。ロシア近年大學生の暴動を耳にするもの、其因て來るところ此邊に在りて存す。

貴族の特

貴族の特權は自己一身に關するもの、貴族全體に關するもの、二種あり。皆國民一般の承認により、若くは祖先以來の因習により享有するに非ずして、一に皇帝の特許に因る。其貴族一般に關するものは、さまで大ならざりしが如く、僧侶商人等と同じく、兵役人頭税及び鉢刑を免ぜられしことありしも、一八七六年の徵兵令發布以後は、盡く兵役の義務を有し、また鉢刑に處せられず。アレキサンデル三世は、人頭税を廢したるが爲めに、前代の特權盡く消滅し、平民と共に一定の地租を徵收せらる。然れども其負擔は一般の人民より輕きは争ふべからざる事實とす。貴族は一八六一年の土地附農民解放前にありては、土地人民を私有するを許されたりしも、土地制度の改定と與に、此特權を失ひ、今日はたチンの階級に入るに、多少の便宜を有するのみ。貴族全體としての特權は、さまで大ならざれども、

僧侶の種
類とその
事業

地方に住するものは、地方の行政司法に參與し、牧民の業に與る。また虛無黨の發生以來、一時破壊せられし貴族の團隊、再び組織の運に向ひつゝあるも、到底多大の特權を得ること能はず。今日ロシアの情況より察すれば、純然たる貴族政治の存在を認むるを得ず。また其成立を望むを得ず。貴族と稱するも、少數を除くの外は、手元不如意のもの多く、恰も我幕府時代の高家公家に類すと云ふ。貴族の中心皇帝にありと稱するも、其間親密なる血統の關係なく、皇室は社會の外に立ち、國民尊敬の府となり、全ロシアの統御者たり。

第二章 僧侶

宗義の監督僧侶の任免一に皇帝の方寸に出づといへども、僧正及び主教は宗内の事務を視、僧侶寺院の事みな其監督の下にあり。

僧侶は黑白の二派に分るといへども、その服色の異なるにあらず、律僧牧師みな長髪にして美髯を蓄ふるを以て兩者の間更に外容の區別なく、唯婚姻の一事兩者の差別をなすのみ。黒僧は皆獨居し、白僧は必ず結婚せざるべからず。但し一た

び妻に死に別るゝことあらんには再婚を許されず、かゝる二派の僧侶を有するはひとりロシアのみに非ず、すべてギリシア正教の弘通地方の習慣たり、元來ロシアは宗教家の最も權勢ありし國家にして、今日といへども諸所の律院モナステリに其名残を止め昔をしのぶの端とならしむ、ロシアの僧侶は本邦の行基空海等が外國文化の輸入國民の啓發に力を盡したるが如く、建國の當初ギリシア文化を國內に布及せしめたる非常の功績あり、ロシアの寺院は實に荒蕪開拓の中心となり、國家に代りて社會の發展を扶け寺院の門前は最も繁盛の市場となり、また國內最も壯麗なる地となり莊嚴目も眩きばかりにて敬虔なる國民巡拜の地となり、然してその古代に最も影響ありしは寺院散在の状況を觀れば直に了解せらるゝが如くモスクバ、キエフ、兩ノブゴロド、ブスコフ、トベル、ブラヂミルの地方は最も早く開けたるものにして新開地たる黒土地方及び南方ステップ地方には今日律院の少きを見れば古代に寺院がいかにばかりの勢力ありしかを知るに足らん、之に反し、シベリア、カフカズ、中アジア、クリム等には於ては國家にて經營せる寺院多く、僧侶みな此に住し、殖民及びロシア文化の普及につき、屈竟の便宜を與へ

たり。

然れども僧侶の性質に至りては多數なるだけに千差萬別にして寺院に入るものには貴族の子弟あり、農家の俊才あり、軍陣に出入せし武官の果てあり、簿冊堆裡に世を送りし世捨て人あり、之を以て知識の程度品格の差異實に甚だしく、間々煩雜なる社會の情實をいとひ、比較的確實に榮達の途を得んと欲して出家せる傑物なきに非ざるも發心の動機安んじて衣食するを得るに在るもの概ね十中の八九に居り、宗教家品格の下落は、宗教制度の比較的強固なるにも拘らず誠に一驚を喫すべきものあり、然も一般の人民は舊習の惰力により僧侶を尊信すること甚だ厚く其威嚴は到底吾人の想像にだも及ばざる所なり、且つ一般教育普及せざる故に、ロシアの僧侶は天堂の鎖鑰と世間的知識の蘊奥とを兼井して第一流の社會をなす、さればその權勢頗る重けれども本來必ずしも適任のもの其職にあるに非らずして却て多くは生臭キス僧サウなればその墮落は殊に甚だし、從て信徒の辛勞になる喜捨の淨財或は政府の支給金の如きも布教の用に使用せらるゝこと少く、大抵高僧なるものゝ口腹の慾に充てらるゝを常とす、又た此淨

財を資本とし商人と伍して商業の利を縦にするものあり。或は寺領の財産多きに乗じ之を賣却して莫大の所得をなすものあり。要するにロシアの僧侶は到底純潔なる細索の徒を以て之を目的とせず。ロシアの人民は一神教徒たりと雖も種々の迷信に陥り且つ自己の信念甚だ淺きを以てかの中世末期に於けるヨーロッパ諸國民の如く迷信甚だ深し。されば聖者の遺物を信ずれば或る種類の災害を免れ、或る寺院の聖像を拜すれば自己の心願を達すと稱し、争て此に賽するが故に之より得る収入は實に寺院維持の上に少なからざる關係を有し。僧侶は種々の口實を設けて其収入の増加を圖るを常とす。是により寺院の寶物は一變して賽錢を集むる呼物となれる奇觀なきに非らず。又國內至るところに尼寺あり。尼は僧侶と異なり、布教に従事する義務なく、隱遁の間種々の手工をいとなく作品を慈善事業に供し、寺院に寄附して其莊嚴を助く。尼衆また直接に諸種の慈善事業に従事し、病者の看護、殊に戰時に於ては傷兵の治療に盡力す。

黒僧の外に白僧あり。妻帯を強ひらるゝが故に身を僧籍にゆくも俗人と異るとなし。子孫相うけて堂宇の別當となり。もし他の職業に従はんと欲せば其筋の特

許を得ざるべからず。常に地方の寺院に在住して直接に人民の教化に従事し、寺院の相續は大抵前住の女を娶りたるもの其推舉により僧正の認許をうく。是を以て前住後住の間意氣相通じ教化のこと至極便利なり。又此派に入るべきものは布教僧のみに非ず。寺務僧、唱歌手、鐘つきなどあり。みな一地に定住して容易に移住を許されず。教育は一般の農民より高きが故にバチウシカ(教父)として尊敬せられ子女みな多少の教育をうくるを得。僧侶の子弟の爲めに設けたる特殊の教育機關あり。而して此教育部内に於て種々なる議論をたしかはすものあり。往々學校騒動となり。果ては警察官の干渉を蒙り或は人望なき長上に爆發物を投ずるものさへあり。蓋し寺院教育に於ては新舊思想の衝突常に絶ゆることなく。遂にかゝる兇暴なる手段を以て目的を達せんとするに至るなり。教育機關は相當に具備せりといへども、此派の僧侶の常識を闕くこと意外に甚だし。其原因は主として衣食の資潤澤ならざるに家族をも養はざるべからざるにより。心ならずも専ら精神的事業に従ふ能はず。衣食に奔走してあらゆる仕事に精根を勞し世人をして貪慾なる徒を誣して僧の如き眼を有すと言はしむるに至れり。

然れども白僧も人民よりみれば亦一種の官吏にして決して同等の階級に非ず。吾人は白僧教育の不備を認むといへども其知識はロシア農民より數等の上にあるものといはざる可らず。白黒の僧侶は精神的慰藉を民衆に與ふるの外社會に對し關係殆ど絶無なるは一は僧侶の位置然らしめ、一は教育をうくるに一般の人士と所を異にするに基き、又其上流社會と血族の縁絶て存せざるに因るもの多し。かくて社會の上に超然たるべきの却て社會嘲笑の目標となり、僧は酔ひ十字架は木片のみとの謔を生ぜり。又確定の収入なきを以て妻帯の僧侶恒の心なく、品格を保つに苦むこと尋常ならず。其子弟も將來の活路の爲めに少なからざる辛苦をしのぎ、大部は普通の社會に出づ。されば白僧は其利害多く世間と一致しヨーロッパ諸國の如く、僧侶は一團となりて自己の利益を主張すること稀なり。之に反して農民の教育をうけたるものは自己の地位を自覺するや忽ち革命的冀望を起し現在の國家を覆さんとする危険を醸すを以て、政府は遂に僧侶をして之が防禦の任に當り寺院をして宗教的學校を開き以て此趨勢を未然に除かしめんとせり。宗教家此に由りて修身を國民に授け其効果頗る觀るべきも

のありしかば社會は一般に此を歓迎し宗教の威嚴も亦大に加はりたるが如し。

第三章 市民

僧侶の階級は他國に於けるよりもなほ社會に缺くべからざる機關たるは前段に於て述べたれども西ヨーロッパに於て國家の原動力となれる市民はロシアに於てはなほ確に認定せられざるが如し。近頃統計の示すが如くは都會の住民は年と與に増加し國家經濟の基本は農業より漸く商工業に移らんとす。蓋しロシアの新國是は殆んど本邦と相前後して確立せられたるものといふべく民衆は農民の自由を得てより後ヨーロッパ各國に比するに足るべき國民となり。國家は宗教人種の如何をとはずして自由なる市民を出さんと企圖しつゝありといふを得べし。古來ロシアの市民は國家より特別の待遇をうけたり。其由來は市民もと外國より來りしものにして客と稱し在住地方の貴族をたすけて外交の事に與りしにあり。歴代の君主は貴族の強大なるを惡み市民を保護して之を味方としベテロ大帝カタリナ二世の如き市民の摸範をイギリス、オランダにとりし

も國民いまだ之が運用に慣れざりしかば市民は甚だ奇怪なる團體となり丁ぬ。この後市民全體は五六の階級に分れ一級また二組となる。階級の最上位に在るものは即ち問屋にして古來最も優遇を被れり。其下に小賣人及び各種の職工あり。此等みな各組に分るれども唯名義を異にするのみにて資格を異にするには非るなり。以上の諸組合に比し貧困なる市民は多く職工にして商業組合員となる。最下級をなすものは即ち組合に入る能はざる市の住民にして一定の職業を有せざるものとす。市民の代表たるものはいふまでもなく第一級のものにして名けてメシチャフニンと稱す一階級をなし大商人たる財産をも有せざれども組合の保護によりて生存せざる可らざるが如き状況にも非ず。大抵五六千ルブルの財産を有し獨立して衣食するものなり。然れども生活費用の逐次高まるに從ひ市を去り他郷に於て生活の途を發見せんとするものあり。此等の都市住民は、往々農民の都會に集まれるものと混住するが故に其差別に苦むことあり。メシチャフニン(町人)は市民の大部となり日夜營々として衣食の爲めに奔走するあり。さまざま地方の農民に比して一段人生行路の難きを思はしむ。是に於て農民の

列に伍し若くは市にありて遊食の徒となる傾向著しく、誠に好ましからざる現象たり。彼等は信仰感情より服装舉動の末に至るまで毫も都人の風なく全く村民と異るところなし。

ロシアは法律上市民を分ちて上下二級とし甲は眞に貿易の事業に従ふもの乙は尋常の市民となす。甲はクブツイ(商人)と稱し一定の財産を所有するもののみ限り、特別の權利を享有し種々の組合に分れ組合員にして特に功績ありしものは名譽市民の稱を下賜せらる。而て名譽市民たる期限に終身世襲の差あり。彼等近頃ヨーロッパ風を尙ひ起居飲食みな西國にならんとする趣あるも間々長髯にしてカフタンと稱する長外套に身をたくみ長靴をうがてる古風の商人なさに非ず。新教育をうけたる青年は所謂ハイカラにして外國語に巧に尙古の老翁は質朴にして外國を知らず。其狀よく我國の商業社會に似たり。

第四章 農民

(69) 國民の八割以上は農民に屬す。現今ロシアの農民は土地の私有を許されざるも

而も政府の保護により耕すべき土地を有せざる農民なく、國家の中堅となり或る意味に於て非常なる勢力たり。今その現状を叙するの順序としてロシア古代の社會組織の一般及び其沿革をのべん。

古代の事は逸として詳細を知るを得ざれどもロシア地方の住民は三級より成れり。社會の最下級は他の諸國に於けるが如く賤民にして其數最も多く、戰爭若くは他の原因よりして自ら賤民の列に加はれるものなりしにより此階級の數は常に増加の趨勢ありき。此等のものはいふまでもなく一身の自由なく持主の財産として身命に對する法律の保護なき最も可憐の階級たりき。此級の上に立ちたるものは自由労働者にして僱主の有無若くは労働の關係上一定の地に永住する能はず。我國の渡奉公人の如く住所不定の一群なりき。此二級は共に他人の爲めに犬馬の勞に服するは一なれども其労働によれる所得は毫も自己の利得とならざるなり。此等と全く性質を異にして比較的優等の地位を占むるものを農民とす。農民に二級あり眞の土地所有者若くは或他のものより土地の使用權を與へられたるもの及び農民の團體となす。農民の團體とは一地に住する若

干の農民組合を作り協同して耕作牧畜其他の生産事業に従ひ所得は組合全體に平分する組織にして共同の財産として或る面積の土地を所有するか若くは貴族領寺領等を借用し小作をなし若干の所得を領主に納付し殘餘を組合に平分するものなり。但し小作料として納付するものは金錢作物若くは勞力等相互の合意によりて定まるものにして決して一定の制あるに非ず。然れども之が爲めに小作人が自己の自由を束縛せらるゝが如き事實はなかりき。故に所定の契約を履行すれば他に毫も地主に對する特別の義務なきなり。或ロシア記事を見ればロシアの農民は全く國初より自由民にして毫も地主其他の有力者と主従の關係ありしに非ずと稱するは原始の情況或部に於てかくの如くなりしが故に汎く説を立てたるものにして後世に起れる經濟上の變動に伴ひ社會の階級に變化を來したるを忘れたる言なりとす。以上をロシア建國即ち九世紀の中葉以後より十二世紀頃までの情況なりとす。

然るに十八世紀に於けるロシアの農民社會を觀れば前に述べたる諸階級は全く其跡を絶ち六百餘年の歳月中社會の下層は根本より其性質を改めたり。され

ば賤民出稼農民及び農民の區別は消えて土地附農民と稱する一階級となり皆地主若くは特權所有者の私有物と化し、領主は此等農民を一人づゝ若くは其一族を引まとめて土地と共に買買せしこと毫も牛馬に異ならず、政府は之を觀て改革の意なきに非ざりしも情實に纏綿せられて斷然たる所置に出でず、加之農民の疾苦を訴ふるをさまたげ土地附農民にして領主を訴ふるものは笞刑に處し若くは外バイカル州に放ちたり。

實にロシア農民は原則としては自由民なりしも貸借の關係より遂に富豪の所有物となるに至れり、而て古代の貸借法規は甚だ嚴酷にして假借する所なく返濟の義務を怠るものには忽ちその自由を剝奪せしかば農民は唯逃亡して債權者の催促を免れんとしたり、人口稀薄なる昔時に在りては新開地に於て此等の逃亡農民を歓迎したれば農民は却て之を幸福となしたりき、既にしてモンゴル亡びて内政漸く整ひ舊諸侯は勢力を失ひモスクバ太公獨り政權を掌握するに及び農民自由移動制の甚だしく治安に妨害あるを覺り遂に農民の恣に移動するを禁じ政務多端にして費用多きにより人頭税の徵收を抑め地主をして領内

の住民を監督せしめたり、是より地主は領内居住の農民を所有物視する端をひらき、政府も亦人民の監督を容易ならしめんが爲めに逃亡人及び地主の命に従はざるもの、所分權を地主に假したり、是に於て地主は住民を全く私有物視し人民は地主の威壓にたへず所在事をあげて地主を倒さんとす、ペテロ三世乃ち農民の自由解放を斷行せんと欲せしも事成らずして弑せられ、人民は政府の依頼するに足らざるを察しコサックと相結び將に大に爲す所あらんとし、遂に遂げざりき、カタリナ二世も農民の疲弊を知ると雖もいまだ根本的革新を加ふるに及ばずして止み、其後をうけたる、パウロ一世アレキサンデル一世みな農民の困厄を救はんとせしも、機いまだ熟せず、たゞ地主の無道なるものを捕へて遠流に處するに止まりき、十九世紀の初に至り土地の大半は皇帝直轄地となり、其住民はゴス、イダ、ルスト、ウエンヌ、イニエ、クレスチアーネ、上の公民たりき、當時土地附農民は(一)國有地に屬するもの、(二)貴族及び大地主に屬するもの、及び(三)皇帝御料地のもの、三種に分れ、モスクバ地方を中心とし四方に散在し、國民の三分の二以上の大數を占む、當時の土地附農民の領主に對する義務としては勞役、土納金

及び作物の三種を提出すべく、領主の命に従ひ夏期は耕作し冬期には糧を利用して農産物を市場に運搬せざるべからず、若し地主にして此等勞役を不用とするときはオブロクと稱する一定の年金を納む、小作人は、此義務を終るときは自ら土地より得たる所得を自己の所有となし、また始めて己の欲するまゝに出稼をなすを得地主にして若し土地附農民をして耕作せしめざらんと欲せば其土地を附近の農民團體に貸付け之を耕作せしめて小作料を納付せしむ、當時小作料として地主の所得に歸したるものに(一)盡く勞力を以て支拂はるゝもの(二)勞力金銀相半ばするもの及び(三)小作料金額を金納せしむるもの都合三種ありき、而て勞力を以て支拂はるるものみに對し政府は相當の制限を設けて農事を妨ぐることをなからしむるを得たり。

事情既にかくの如し之を以て農民の多數は毫も餘裕を有せず、其情狀誠に憫べきものありしも肉食者流は一向意に介せず、晏然農民の膏血に飽食せり、然るに博愛主義自由主義の聲漸く波及し新進有爲の士内外の農民を比較し自國農民救済の急をさげび詩文論說等あらゆる方面に其改良意見を發表せり、而してク

リム戰役は全くロシアの敗軍に終りてナポレオン一世の覇業を覆したる國民的自負心は根本より打破せられ、國力復興の念禁ずる能はざるに至り遂にアレキサンデル二世の敕令に依り一八六一年二月十九日の農民解放の舉あり、二百年にわたれる希望は茲に始めて貫徹せられたり。

其勅令は茲に掲ぐる能はざれども其内容は

- 一 土地附農民は勅令發布以後公民權を附與せられ従來地主の行ひたる命令其他の諸行爲は組合自治團體をして之を施行せしむべし。
- 二 組合自治團體はなるべく多くの土地を收用し其代價として舊地主に相當の辨濟をなすべし、但し其方法は年賦若くは勞役を以てす。
- 三 政府は地方自治團體をして舊地主に對する債務を辨償せしめんが爲め相當の年限を以て貸下金をなすべし。

の三條に歸すべし、是より先き農民は自由解放農民救済の事あるべきを豫知し、只管自己の地位の改良と扶助とを競望したりしか、寺院に於て解放の勅令を讀みさかざるゝに及んで事の意外に、どろき甚だ失望せしが、貴族は自己の利益

の豫想せるほどに減殺せられざりしに意外の感をなしたりといふ。而して無智の農民は此勅令發布の後直ちに地主に對する義務を解除せられたるものとなし。難件從て叢生せしも幾もなく調和委員の設置あり其盡力により勳もすれば反目に流れ易き地主農民の關係圓滑に歸しロシア國數百年の積弊始めて一掃せられたり。此時の統計によれば農民にして解放せられたるもの九百七十五萬人。中七百五十萬人は一八七五年までに所定の金額を納めて自由の民となり從來の土地私有制度に代ふるに團體共有制度を以てしたり。是れもと寺領耕作に用ひられし方法にて政府は之にならひしのみ。則ロシア特有の所謂ミル式の土地耕作法にして一村を一團體若くは數團體に區別し各團體は一區域の土地を國家若くは貴族より借用して之を耕作し收穫を見るに及んで政府には一定の地租を上納し貴族には地代を納付す。而して其餘の利得は一團體の共有物として團内の各個人に平分す。各個人は通常一家を代表する男子にして若し男子なき場合には女子も亦一家の代表者となるを得。團體として耕地以外に牧場山林等の使用をなすことあるときは團體の長（通常長老其地を檢し團體内の各員

に抽籤を以て平分す時として不同を生ずることあるも毫も各個人間に争ひを生ずることなく互に相譲る。是れ吾人がロシア人平日の國際的行爲に照して了解するに苦む所の一なりと雖ども決して争ひをなさざるは事實なり。若し甚だしく不公平の事あるときは多數協議のうへ不満のものをして和談せしむ之を以て不平者は其恨をすて決して再び争をなすことなし。ミル内の多數決の聲は農民の耳には神の聲と同様の効果を有するが故に毫も此に抵抗を試むものなし。ミルは亦た國家徵税の單位となり農民より直接に納税することなし。故にミル内各個人の勤惰はミル全體の休戚に大なる影響を及ぼすを以て相互間の制裁甚だ嚴格にして各々皆その業をはげむ。元來ロシア農民は惰農にて衣食住に要する最低の費用を以て勞働の最高標準となし。餘りあれば燒酎（ワッカ）に酔ひ路頭に横はり遂に寒風に凍死するものもありといふ。ミルの組合は此等惡習を匡正するに多大の効果あるべきなり。ミルは時々集合を催し村内の長老議長席につき村内の事務耕地の割り付け等を議す。又この社會に於ける輕罪を處断する權能を有す。

ロシアの農民はみな此法によりて其土地を耕作す。しかして彼等が最も多忙なるは融雪より初冬までの時期にして殊に收穫に際しての彼等の勉強は實に非常にして西ヨーロッパ人は之をベテルブルグの官吏が皇帝に上るべき日限付きの報告書調製前に比す亦趣味ある比較といふべし。然れども彼等は生活に對する競争の西ヨーロッパに於けるが如く甚だしからざると氣候の關係により規則正しき事業を營む習慣を有せず。されば往々不利益を覺り農業を廢する地主あるに至る。耕作は主として小農的方法による。ステップに近き新開地に於ては往々大農法により新進の器械を使用するものあるもなほ全國に行はれず。其家屋は柱を土中にほり立て之に材木を横さまに并列すること我奈良地方に残存するあぜ倉の如く、しかも床なくして直ちに土間となり此に板をならべ材木の間隙は草若くは苔を以て密封し窓は小にして出入唯一方よりし、屋根は藁若くは茅を葺き烟突若くは破風を設けず。暖爐は最も巨大にして其構造の精巧なると經濟的なる吾人想像の外に在り一家温をとるの所また厨爐の用に供せらる。冬期には一家悉く其上に眠る。之を以て往々家庭の秩序を紊亂するとあり。

床下は多く穴藏となる。冬期食物を此に貯藏す。家畜は多く棟を別にすと雖ども或は人畜同居することあり。家屋木造なれば火災屢起りまた礎石を用ひざれば腐朽すること速にして最も古建築と稱するもの八十年を出づるは稀なり。是れロシアに古建築なき所以なり。近世ヨーロッパにならひて家屋を建築するものあり。かのベテルブルグの市街の如きモスクバのクレムルの如きは宏壯西ヨーロッパに劣らずといへども大部の市街はみな木造の矮屋櫛比すること本邦の村落に異ならず。モスクバの大火も建築の多く木造なりしより起りしなり。

今日の首府若くは新開市の西ヨーロッパ風あるは眞のロシア町にあらず。ロシアを最もよく知れる一人との稱あるイギリスのウォリスはベテルブルグを以てロシア國民に不相應なるものとなし之をエジプトの三角塔と對比せり。蓋し何れも實用に遠きを以てなり。

農民と貴族とをとはず家長の權頗る重く、此か配偶たるもの専ら家庭の整理をなし、男子は田野の耕耘家畜の監督等をなす。老を敬び幼を育み、外客に對して款待至らざるなきはロシア特得の美風なり。こは同胞に對してしかるのみに非ず。

外國人に對する禮の如きも其厚きこと全く吾人想像の外に在り其客を遇するや家を擧げて此を待ち酒食を豊かにして宴を張り客の酔て己を失ふを視始めて其意に滿ちたるものとなす夫婦の關係は恰も主従の如く男子に對しての婦人の地位は西ヨーロッパの如くならず又家屋の構造氣候の作用等により往々醜聞を耳にすることあり兒女の出生頗る多けれども氣候の變化激烈なるにより生育頗る難く五歳以下の死亡者著しく生存に堪へたるものはみな強壯なる體格をそなふ男子長して弱冠となるや多くは父母の膝下をばなれ都會又は新開地に移り或は軍に従て要塞を守る女子は母をたすけて家事を擔當し相當の配偶者を求て此に嫁す婚儀は必ず僧侶の立會を要し寺院に於て之を擧ぐ財産は多くは各子平分法に従ふといへども例外なきに非ず生活の程度ひくきか故に富者多からず殊にミルの農民の如きは本邦若くは西ヨーロッパに比すれば其知識生活の程度頗る下れるを見る然れば依頼心甚だ強く宗教家從て無限の勞力を有す冬長く夏短きか故に家族間の關係親密にしてまた室内娛樂の發達を促しカルタ遊びかけ事飲酒等最も農民の歡迎する所なり且つロシア人の座談

に巧なるは旅行家の常に稱讚する所妖怪を説きて飽かす昔物語りに夜を徹するか如き無邪氣の快樂は唱歌舞蹈と相ならひて彼等を樂ましむ是れロシア小説に往々旅人の談話體を用ふる所以なりロシア人はまた紅茶を用ふること夥しく茶器は多くコップを用ひ對座の間數碗を傾く煎茶の釜名づけてサモバルと云ひロシア人の發明にかゝる蓋し喫茶は防寒に補足あるを以てなり服裝は防寒を主とするを以て毛皮の需要夥しく千金を抛て一裘を購ふの風あり近日ヨーロッパ風都會に行はるゝも農民はいまだ古風をすてず男子は寛濶の窄袖を着し股引をうがち長靴を用ひ蓬頭垢髪みな美髯あり女子の服裝はヨーロッパと大差なしといへども裁縫頗る雅ならず色も極めてはてなるを尙ひ裝飾また甚だ野鄙なり彼等の多くは頗る因循にして然も厭世的なるか故に殆んど外國を知らずといへども教育あるもの能くフランス語を操つるは十八九世紀朝廷の用語たりしを以てなり

之を要するは西ヨーロッパより入りて始めてロシア人に接するときは貴族も僧侶も皆齊しく至極悠長なりと觀ゆるもシベリア鐵道に由りて之に入れば其勤

勉を稱せざるを得ず、以てロシア人のいかなる地位に在るかを察すべし。

第五章 外國人

ロシア在住の外國人はユダヤ人ドイツ人最も多數を占む、甲はロシアの金融機關を司り、乙はロシアを文化に導きたる功績多しと稱す、然れども俱にロシア國民の好意を得ざる種族にして并に排斥せらる。

ユダヤ人

ユダヤ人はもとポーランドより移り都市村落に散居し、固有の宗教と言語とを有しまた特別の團體を作りてロシア人と雜居せず、彼等の多くは質商取引業に従事し殆んど商業を壟斷して専ら農民の需要品を供給す、また諸種の工業をいとなみウツカ醸造業の如き石油精製業の如き殆んど獨占の姿あり、而して金貨業は最も普通の業務なり、彼等は大抵富裕にしてロシア國民と混せざるが故に動もすれば生命財産を奪はれ國外に追放せられんとす、ユダヤ人は同人種の消滅を恐れ自己の宗教を奉じ、自國語を以て新聞雜誌を刊行す、ロシア人も亦甚たしき害毒を流さざる限りは其存在を忍容し其富力を利用せり。

ドイツ人

ドイツ人は國境地方に住居し、或るものはナポレオン一世の亂後ロシアに歸化したるものにて其數約五十萬とす、而してカタリナ二世の招きにより移住したるものはボルガ地方に散在す、元來ロシア人は西ヨーロッパより來れる移住民を同化する力最も弱きが故にドイツ人の如きは依然として今なほドイツ氣風を存す、移住民の都市に住居するものは商工業に従ひ、其實業界に有する根柢は動かすべからず、シベリアの如き僻遠の地方に於てもドイツ人の居住せざるものなく、ドイツ語を操れば鐵道地方の旅行に不便を感ずること少しといふに至る、その他學術文學工藝の用語にして語源のドイツ語より出づるもの頗る多きを見れば、其影響の如何に大なるかを知らん。

此等諸種の外國人以外にアルメニア人、フランス人、ベルギー人の如き多少の勢力なきに非ず、又中アジアに於けるイスラム教徒の如き、毫も一身の自由を奪はるゝことなく、又信仰の自由を抑へらるゝことなし、是れ畢竟イスラム教徒の勢力強大にして容易に正教に改宗せしめ難きと、且つは異教徒懐柔の政策は信仰自由を與ふるの必要殊に大なればなり。

第六章 虚無黨

(84)

虚無黨

外國人に對しては極めて強硬なる態度を粧ひ、先づ威壓して後に懐柔するは國境に於けるロシア人の行動なりといへども、其本國に於ては恐るべき一流の風潮絶えず人心を侵蝕しつゝあるなり、之をニヒリズム主義の運動とす、虚無黨と譯するものは是なり、ニヒリズムとは前世紀の大文豪ツルゲネフが一八六二年に出したる小説親と子中に用ひたるロシア學界の一風潮の名稱なり、ツルゲネフは大學、高等學校等の高等なる教育機關内に一種の舊物破壊主義の存在するを認め之をニヒリズムと呼べり、語根はラテン語にして、物を無にする主義の意なり、然るに其ツルゲネフの眼に映したる頃は唯舊慣をいとひ形式をすて質朴の社會を立てんとする、現状不満主義にして其因て來る所は十八世紀に起りたる革進文學主義に在り、ホルテール、ルソ、モンテスキュー等の哲理に因りて社會を改造せんとするの主義に交ふるに、ヘーゲル、シュリング、ブネルの如き精緻なるドイツ哲學者の思想を以てす、之を奉ずるもの主義の表章として殊更に社會に逆

第一期

第二期

(85)

行せんことをつとめ、男子は髪を蓄へ女子は之を斷ち奇異なる服裝をなし言語舉動の細末に至るまで唯現社會と反せんことをきそひ以て自ら高しとし、美術文學遊戲の如きは社會に害あるものとなして排斥し、之に従事するものを以て無用の人物となし、シニクス、ヒアゲーテの如きも一良工に及ばずとなす、然れども彼等の理想とする所は社會の改良民福の増進に在るが故に、遂に轉じて當時識者間に行はれつゝありし内治改革の意見に投合し、將に其目的を貫かんとせり、此時代は虚無黨の第一期にして唯政府がとれる思想檢束策に反對したるのみにして政治問題に立入りたるに非ず、然るにクリム戰役の後ロシアの弱點一般の承認するところとなり、諸弊芟除の聲四方に響しく、ニコラ一世さへ保守的態度をすて、急進主義をとれり、是に於て一八六四年バクーニンはシベリアをのがれてロンドンに至り、當時國外に在りて國內の改革黨に聲援を與へつゝありしヘルツェンと結托し、ニヒリズムの風潮茲に一變せり、バクーニンは乃ち機關雜誌「コロコル」を出だせしが、スラブ種族の壯年みな争て之をよみ、激烈なる手段を以て急速なる改革に従事するの已むなきを認め、政府、財産、法律、特權の如きは盡く

根本より破壊するに非れば新社會に適合すべき制度を作る可らずとなせり。彼等はなほ之が實行を計らんが爲めに一八六九年スウエスのパーゼル府に虛無黨員の大集合を催したり。されど其主義遂に極端に流るゝによりヘルツェン直に脱黨したり。ヘルツェンは實に當時少壯有爲の士を指導し。内治改良の已むべからざるを主唱せる學徳兼備の大人物なりしも。激烈なる手段をとるを喜ばざるにより遂に身を退き暴を以て暴に代ふるを辭したるなりき。是に於て改革黨員はチエルニセフスキーをあげて自から援けたり。

此等の論者の意見によれば。内治の改良は政府の手に委ねるも到底十分なる結果を收むべからず。國民自から手を下すべきなりとし。ロシア國史の原則に反抗する主義を立てたり。國內の學生等乃ち之をむかへ職工を説きて自己の黨となし。産科學校の女生徒にして改革意見の鼓吹者となり。ヨーロッパに於て今日女學生の最も多きはイギリスにして之に次ぐを普通教育の不完全なるにかゝはらず。ロシアとなす故に當局者は女學生處分問題につき少からぬ苦心をなす。都會のみならず地方にも遊説し社會主義の論述をなせり。是に於て政府は其取締方

を嚴にし治安に妨害ありと認むるものは容赦なく刑に處したりしかば。社會論者之に反抗し六十一年より六十四年に至るの間廿餘回の暴動をくはだてしも。政府の威力大にして常に目的を達すること能はざりき。是に於て警察官は改革論者の怨府となり。ひきて政府攻撃となり。遂に一八六六年には皇帝を弑せんとするものあるに至れり。然れども政府の監督十分なりしかば大事に至らずして四年を経たり。此間チエルニセフスキーの獄中の書何をなすべきかは一般社會に愛讀せられたり。其説く所全く西ヨーロッパの社會主義をバクレーニンの現社會不満の思想に加味し。労働者に財産を平分し以てロシア新社會の基礎を立てんとせるなり。一八六九年平民救護會なるもの成立し。單にロシア國內に止らず外國の社會主義論者の援助を借り。殊に一八七一年ナポレオン三世の後をうけたるパリーの社會論者の成功は甚しき刺激をロシア社會論者に與へバクレーニン等の主張せし溫和漸進主義によらず。猛烈理想に到達せんとせしも猶ほ眞の暴動に依頼せずして目的に到らんとせり。然るにトルコ戰役一八七七年七八の結果遂に改革の尋常手段にては到底行はれず。國內の整理益々急なるを見るに及び

て改革運動は遂に非常手段に訴へたり。彼等はベテルブルグの軍醫學校を中心として暴動を起し、諸大學の學生女生徒等其群に加はり所在の官吏をたほし以て國民の福祉を發展せしめんことを企てき。之をニヒリズムの第三回の變化となす。政府は初め暴動者に對して強硬なる鎮壓策をとりしも其功なきによりアレキサンデル二世は穩に改革論者を調和せしめんとして遂げず。一八八一年三月弑に遇ひたまへり。アレキサンデル三世立ちて暴動を鎮め一方には種々の弊害を除き以て民望の一端を納れば爾來虛無黨は全く其影を納めき。今日虛無黨なるもの存在せずといへども、改革主義は隱然最も有爲の人物を集むる學生間に行はる。元來ロシアは本邦と同じく、西ヨーロッパに於ては修養の時代たるべき年輩に於て實務の局に當り、比較的遠大なる思想と勇氣とを以て將來を計るが故に改革論の中心常に大學學生に在り、而して一昨年以來彼等がとり來れる極端なる手段は甚しく社會に害毒を及ぼすものとして識者の間に排斥せられつゝあれども、ロシア識者の愛國心は常に何れかの手段により蠢々たる農民を啓發し、社會の弊害を除かんとする風潮到る處に行はるゝが故に、活動に富める國

アレキサンデル二世の暴崩
 虛無黨影を消む

民は其社會の何れかの方面に向て之をもらさんとするは蓋し疑ふ可らざるの數なり。
 實にロシアは其曆の西ヨーロッパより後れたること十三日なるが如く文化制度みな西ヨーロッパの轍をふみつゝあり。或る方面より觀測すれば其國家は恰も一世紀以前のヨーロッパに酷似す。故にロシアは國外に對すると同時に國內に於てなすべきの事業無限なり。果してムハメッドにひきゐられたるサラセンの如く國內の整理をなし得るや否や此を將來にまたざるべからず。
 因にいふ、ロシア曆は紀元前四十六年よりローマに行はれたる古太陽曆を襲用す。吾人今日使用する太陽曆は一五八二年グレゴリオ十三世の改正を経たる新曆にして其間今世紀に於て滿十三日の差あり。

附 囚 徒

虛無黨と相關聯して話頭に上るはシベリア謫居の罪人なりとす。シベリアに罪人を送れるは十六世紀の末に始まり、十七世紀の末スツレルチーの事をあげたる頃より急に増加を來し、國事犯者、國內不逞の徒及び宗教に従はざるものも亦

其中にあり、今世紀の初めにはポーランドの叛民をうつしたり、當時交通いまだ便ならず、慘狀筆紙につくし難く、轉たロシア人の殘忍を想はしむ事はヘルツンのシベリア紀行に詳なり。アレキサンデル二世また虛無黨の疑あるものを移す。此等の移民の大部遂にシベリアに土着し、今日の移民の一部となれり。然れども現今交通の便ひらくるに従ひ、其狀況次第に良好となり、或は放謫を利用して生物礦物の研究をなし、學界に功を立つるものあり。ケンナンの紀行中には、其慘狀目も當られずと書するものも、或る部分までは眞理なるが如きも、終身牢獄に呻吟するに非ず、二十年の歲月を経る時は、半自由民となり、農商の業に従ふを得べし。ロシアはエリザベタ女帝以來、軍律を除きては極惡の罪人と雖ども、死刑に處することなく、之れをシベリアに輸送し、以て外バイカル、カラフトの拓殖に従事せしむ。獄舎の如きは、今日多少整頓しつゝありと稱するも、一局部に限られたるものなり。

第三篇 經濟

一 産業

ロシアはその版圖ヨーロッパ及びアジアの二大陸に跨り、實に世界全面積の六分の一を占むるも、ロシア本部及びシベリア北陸一帯の地方は所謂ツンドラ地方として、唯レンシカの畜養に適する不毛の苔原のみ、又たシベリア中アジア一部の如きは、地域甚だ廣大なるも、殖産發達に望なき荒野も亦た尠からず。然れどもロシアは近代頗る強硬なる保護政策を行ひ、以て内國の産業を奨励せしかば、諸種の産業は一般興隆の氣運に向ひ、殊に二三の産業に至りては、獨りイギリス及び合衆國と肩を並ぶるに足るのみならず、實に之に凌駕するものあるに至れり。近代ヨーロッパ諸國は、概ね自國の産出すべき原料に定限あるを以てつとめて、諸外國より原料品を輸入し、之を精製品となし、再び世界に販路を求むるの傾向を呈

せり然るにロシアはその版圖尨大にしてその内に無限の天産物を蓄藏すれば若し諸種の企業を完備し自國産出の原料を以て諸工業の需用にあて之を精製したる後ち外國に輸出するに至らば恐くは世界市場の一大供給國たるを得ん然れども現今ロシア産業の設計及び規模は之をイギリス又は合衆國等に比するにほ幾段の遜色あるを免れず請ふ我等は本篇に於てロシアは如何なる産業が最も有望にして又た幾何の程度まで進歩せしか或は如何なる種類のものは尙ほ不振の状態にあるやを説かん。

第一章 農産業

現今ロシア産業の首位を占むるものは實に農業なり。蓋しロシア本部の地たる極北一帯の地はツンドラと云ひ藜苔の茂生する卑濕の寥野にしてたゞレンシカの牧養に適するのみ。ツンドラの南に連なる第二帯は樹木藪蒼たる無限の大森林地にして木材薪炭の無盡藏たり。その南方は能く農作に適し漸く南進するに従ひて地味いよ／＼肥を氣候も亦た漸く緩和す。殊にボルガドン及びドニエ

農業國として
のロシア

ル諸河源の交錯する近傍一帯の地域は所謂黒土チオルノシオム地方とて土壤最も諸種の農耕に適し實にロシア農業の中樞をなせり。その南及び南東の二面にはステップありて土地乾燥するが故に農業には適せざるも他業によりて巨大の收入を來たすものあり。而てロシア人は夙に西南方より黒土地方に據り特種の社會を構成して専ら農耕に従事せしかば農業は古代よりこの國唯一の生産業たりしなり。然れども十九世紀の中頃に至るまで一般の農民は土地所有權なく多くは大地主附屬の小作人として祖先の遺業を繼續せしのみ。されば彼等は概ね貧困無智にして農具の改良若くは播種培栽の法を講ぜず唯舊慣を墨守するのみなりしかば地域の廣大と土壤の豊饒なるとに比してその産業は振はざりき。然るに一八六一年時の皇帝アレキサンデル二世は農政に大革新を行ひ土地附農民をその地主より解放し年賦により地代を地主に償却せしめたり。是に於て多年地主に苦役せられし農民は新に自由の民となり嘗て土地の所有權なかりし者も茲に始て一個獨立の農民たるに至りぬ。さればこの改革は政治及び社會上に偉大の影響を與ふると與に全國の農業にも亦た一新局面をひらけり。爾

露國の實相

後開拓耕耘の區域は年ごとに擴張せられ近年ロシア本部のみにも耕作區域は實に七千四百六十餘萬町歩に達せり。又たポーランドは國內到る處に沃野あり連りて諸種の農産物に富む。この外シベリア、中アジア及び内カウカシアの如きも已墾の地域頗る廣く以上四地方を合算する時は一千三百四十九萬餘町歩に及べりと云ふ。吾人は茲にロシア全帝國の農地を總計する時は實に八千八百十四萬餘町歩の廣土を占むるを見る。世ロシアを稱して世界の農國と云ふ。蓋し至評と云ふ可し。

ロシアは氣候の變化激烈にして殊に南方及び南東の二方面は農作に必要な雨量の不定なるが故に豊凶もまた時によりて極端にはしるゝとあり。然れども各地は一般に穀物の生育に適し中部諸州はライ麥と大燕麥の産地として其名高し。就中ライ麥はその收穫の多量なること諸穀中の第一にして實に全ヨーロッパの大半を占むと云ふ。小麥は黒土地方十州の特産にしてその收穫はアメリカに及ばずと雖も總計尙ほ約三十三億貫目に達し盛に之を西ヨーロッパ諸國に輸出す。然れども小麥の耕作區域に對する收穫の割合は之をポーランドのもの

	小麥	ライ麥	大燕麥	大麥	其他各種	合計
ロシア本部	七九六、六八〇、〇〇〇	一、三五六、九〇〇、〇〇〇	七五八、八〇〇、〇〇〇	三、五三六、八五〇、〇〇〇	三、四四四、五〇〇、〇〇〇	一、〇一、〇九五、三〇〇、〇〇〇
ポーランド	三、八〇九、三〇〇、〇〇〇	一、〇七〇、一八〇、〇〇〇	五、五九七、七〇〇、〇〇〇	二、九四八、八〇〇、〇〇〇	一、六六六、四七〇、〇〇〇	四、七九、三三三、〇〇〇
内カウカシア	一、二八〇、四六六、〇〇〇	一、三三三、二〇〇、〇〇〇	一、四一七、七〇〇、〇〇〇	四、七三三、五〇〇、〇〇〇	二、四一〇、九〇〇、〇〇〇	二、七、三三〇、二〇〇、〇〇〇

第三篇 經濟

のに比する時は著しく劣れるを見ん。是れ一はロシアの氣候がポーランドよりも寒くして然かも變化の多きに因ると雖も亦たロシア農民が傳來の慣習に満足して農具の改善或は耕耘の勞を怠るに基因せずんばあらず。ポーランドは氣候ロシアよりも温かにして地味また肥えたれば麥類の産出甚た多し。その他内カウカシア、シベリア及びステップ地方の諸穀之に次ぐ。此の如く毎歲帝國の各處より收穫する穀類は寔に莫大にして常に海外輸出品の第一位を占む。この點に就きてロシアは合衆國と共に世界に於ける穀類の二大産國なりと云ふべし。仍て我等は茲に一九〇二年に於ける帝國各地の主要穀物の産額を掲げてロシア農産業の盛況を證せん。

露國の實相

方	ステップ	地	シベリア
シベリア	五、一六五、七〇〇	五、七九〇、二〇〇	三〇、一九六、六〇〇
シベリア	三、六四二、二〇〇	三、九七九、七〇〇	一一、〇一九、六〇〇
シベリア	三、四九二、七〇〇	三、三九八、八〇〇	三、二五二、七〇〇

亞麻はバルト沿海諸州、ヤロスラフ、コストロマ、及び黒海地方に産しその品質良好にして産額の多きこと世界に冠たり。一八九九年には百六十四萬餘町歩の耕作地は約三千五百石の種子と九千六百六十萬貫の亞麻とを産せり。その輸出も年々増加し大抵輸出品の第三位を占め帝國歳入の重大なる一財源なり。大麻はバルト沿海諸州及び中央ロシアの各地より産す。その産額は亞麻よりも劣ると雖も尙ほ六千九百餘萬貫の收穫あり。木棉はトルキスタンのフルガナ、ブハラ及びヒバ地方の産なり。その品質はアメリカ産には及ばざるもインド或はベルシア産のものよりも勝ると云ふ。近年ロシア本部に於ける綿布製造業の勃興に伴ひ棉花の需用益々増進せるを以てアメリカの種子を移植してその改良を圖りしかば現今木棉は同地方の名産となり毎年ロシアに輸送する量少からず。即ち前述の諸地方より一九〇二年には合

亞麻

大麻

木棉

他の主要なる農作物

金

石炭

計約七十五億貫を出せりと云ふ。ブダウはベサラビア、クリム及びカフカズ等の如き黒海沿海地方に栽培せられその大部は醸造して葡萄酒となす。その他クバン、外カウカシア等の煙草、トルキスタンの米、ハルコフ等の甜菜、バルト沿海諸州及びポーランドの馬鈴薯の如きは皆農産物中の肝要なるものにしてその産出頗る多し。

第二章 鑛業

(一) 金 金はシベリアのアルタイ及びアムル地方とウラル山中のイェカテリンブルグより出づ。ウラルの金は嘗ては世界屈指の名産なりしも近年少しく衰へたり。シベリアの金鑛は頗る有望にして毎年の採量甚だ豊富なり。即ち一九〇二年に於けるウラル鑛より得たる金は僅に二百三十萬貫に過ぎざりしもシベリアの金は實に八百五萬貫に及べり。

(二) 石炭 十九世紀の中頃までは採掘法の完からざるが爲めに一八六〇年に

(98)

は僅に八千十餘萬貫の産出に過ぎざりしも爾來諸工業の發達は益々石炭の必要を促せしよりその發掘も亦た從ひて進歩し一八九〇年には一躍して十六億餘萬貫となり一九〇一年には四十四億六千五百餘萬貫に達せり。

石炭の第一の産地はドン河の支流なるドネツ路なり。その地域は一萬五千方マイルにわたり良好なる泥炭と無煙炭とを産す。採掘はこの地の附近に鐵道の敷設せられしより著しく發達せり。第二の産地はポーランドのドムブロフにしてモスクバ南方の炭山之に次ぐ。この他ウラル、カフカズ、中アジア等にも亦た良好なる炭鑛あり。各處の採掘はいよゝ盛大なりと雖も尙ほ内國の需用をみたすと能はずして外國より輸入する年額少からず。

白金

(三) 白金 白金は殆んどロシアの特産にしてウラル山の西より出て實に世界産額の九割五分を占む。白金は獨り貴金として尊重せらるゝのみならず近年之を電氣及び化學用に供するを以て國人の採鑛に従事するもの年を逐ふて増加しその業益盛大に赴けり。

石腦油

(四) 石腦油 石腦油は外カウカシアのバクター地方より出づ。一八七三年以後の

穀

鹽

(99)

二十五年間に於ては平均産出額僅に九百六十八萬餘貫に過ぎざりしも一八八七年より同九十八年の間には遽に膨脹して一億三千萬貫を超え今日に於ては合衆國と與に世界の二大産國となれり。而て石腦油より精製せる副産物中石油は日常燈火用として世界に使用せらるゝを以て盛に之を海外に輸出すること穀類木材及び亞麻に次ぐ。

(五) 鐵 鐵は帝國の各地より發掘せらる。最も有名なる産地はドネツ及びフィンランドの二鑛にしてウラル、モスクバの南方ツーラ及びカルガ地方之に次ぐ。而して製鐵に最も必要なるは石炭にして、かのドネツ鐵鑛の如き石炭の産地に近きものは之を精煉する事自ら容易なりと雖も石炭の供給不充分なる地方に於ては良好なる結果を得ること能はず。製鐵業は近年頗る發達せしもその産出額は未だ内國諸般の需用を充たすに足らず。年々外國より輸入する額尠からず。

(六) 鹽 食鹽には岩鹽より得るものと鹹湖或は海水より精製するものとの三種あり。而て黒海及びカスピ海沿海諸地方に於ては鹹湖及び海水の製鹽業甚だ盛にしてウラル山中のベルム等よりは岩鹽を出す。而て近年の産額は大抵平均

露國の實相

其他の礦 (100)

四十億三千万貫を降るとなきを以て又た帝國の有力なる財源なり。此他マンガン、銅及び亜鉛の如きはその産額は少量なれども毎年増加するの傾向あるに反し銀と鉛とは近年著しく減退せり。茲にロシア礦産の有量なるものを掲げて一九〇〇年より一九〇二年に至る迄の産量を示さん、但し表中に線のみを劃するものは未だ産量の調査を経ざるものなり。

主要なる金銀の産出額

	一九〇〇年	一九〇一年	一九〇二年
金 (未精金)	三六六九九 キログラム	三九五五三 キログラム	
白金	五三三三 キログラム	六二二三 キログラム	
石炭	一六、一七〇、〇〇〇 トナ	一六、三〇六、〇〇〇 トナ	一五、九四一、〇〇〇 トナ
石油	九、六九七、〇〇〇 トナ	一〇、三三六、〇〇〇 トナ	
食鹽	一九八、〇〇〇 トナ	一六六、〇〇〇 トナ	
鐵	一八六、〇〇〇 トナ	一八五、〇〇〇 トナ	一、〇〇〇、〇〇〇 トナ

第三章 林業

ロシア本部の森林

現今世界最大の森林を有するものはイギリス領カナダにして合衆國之に次ぎロシアは第三に位す、而てロシア本部に於ける有名なる森林地方はウラル、ベチカラ及びドウナ河附近及びフィンランド等にしてその總面積は凡そ二億二千五百萬町歩に達す。

ロシア人の家屋は概ね木造なれば木材の需用甚だ多く且つ燃料として使用せらるゝ薪炭の需用甚だ莫大なりと雖も無限の森林はこの需用に應じて尙ほ餘あり、されば之を採伐するに當りては先づ河流に近き地方より始め已に採伐せるものは之を河水によりて運搬し器械装置を以て木材となしたる後ち之を外國に輸出するなり、ロシア北邊のアルハンゲルスク及びその附近の地方は殊に良好の樹木に富み且つ水運の便あるを以て採伐の業夙に開け斧鋸を加へたるものはドウナ、ベチカラ兩河より之を白海に致して西ヨーロッパ諸國に輸出す、ロシア本部及びシベリアの森林は殆んど無盡藏なりと雖も氣候寒烈にして採伐に

(101)

森林の收入

容易ならざると交通不便にして運送に費用を要するとにより未だ林業充分に發達する能はざるなり。然れども最近十年間の統計に據れば年ごとに收入を増加し一九〇一年に於ける材木の純益は四千七百二十餘萬ルーブルの巨額に達し又た海外輸出品として第二位を占むるに至れり。さればロシアの森林業は現今に於ても農業につぎて帝國歳入の要素たるのみならず未着手の森林區域尙ほ甚だ廣大なるを以て將來益々望を屬すべきものなり。

第四章 牧畜及漁業

牧畜

ロシアの東南ボルガ河流域には馬羊等の家畜の牧養に適する地方あり。又たトルキスタンには馬羊駱駝の類蕃殖す。ヨーロッパ、アメリカ諸國の家畜飼養の目的は食用の肉若しくは牛酪乾酪等を得んとするにあれどもロシアに於ては皮革及び脂肪を得るを主眼とす。而て中央政府には飼馬局ありて馬匹の蕃殖と改良とを圖るか故に諸種の家畜中馬の産出の多きことヨーロッパに冠たり。されば一九〇〇年に於ける全國の産出頭數は

馬	二五、九六一、七〇〇頭
有角獸	四三、五八六、九〇〇頭
綿羊及山羊	七〇、六四七、〇〇〇頭
豚	一三、九二四、五〇〇頭
その他の獸類	三六、九〇〇頭

二千五百九十六萬餘頭に及びその輸出額は五百十六萬五千ルーブルとなりぬ。その他同年に於ける家畜獸の産數を擧ぐれば左の如し。

漁業

ロシアの漁業は他の産業に比する時は著しく劣る所あり。ロシア本部の北岸なる白海附近に於ては鱈海豹及び鯨の獵あり。又た黒海及びカスピ海沿岸并びにボルガドン諸大河の河口も亦た漁利多し。シベリアの東岸オホツク、ペーリング二海に於ては海狸、鰻、鱒、鯨の外鱈等の漁獵頗る盛なり。然れども内國の需用多きを以て以上諸地方の漁獲も不足を告げ年々巨額の魚類を外國より輸入す。

第五章 工業

十九世紀に於けるヨーロッパの風潮は各國民をして一面に智力界の人たらしむると與に他面に於ては亦た物質界の人たらしめき即ち機械の發明と交通の發達とは益々實業の進歩を促がしかの平和の戰爭なるものは日一日と激甚ならんとす。されば古來ヨーロッパの僻陬に蟄居して農耕牧畜を唯一の生業とせるロシア人も次第にこの風潮に感染し爾來諸種の製造業は徐に興れり。而て政府は内國の工藝を振興せしめんが爲に保護政策をとり或る外國産の造製品に重税を課せしより二三の工業は頗る發達の氣運に向へるものあり。されば一八九七年ポーランドとフィンランドとを除きたるロシア本部には三萬九千餘の工場ありて約二十一萬の職工を役するに至れり。この内最も多きは食料品の精製場にしてその數一萬六千五百十二に及び冶金工場之に次ぐ。又た織物、革皮、陶器及び木材の四工場の如きも二萬三千より四萬四千戸に至る。是によりてロシアの製造業は主に農産物、毛皮類の如き天産物の精製に關するものにして機械若

ロシアの工場數

綿布

しくは雜貨の如き種類の工業に至りては尙ほ甚だ幼稚なるを知る可し。

綿布の製造業は近年最も長足の進歩をなせるもの一なり。一八九七年にはその産額四億三千萬ルーブル以上ののぼり現今ロシア工業の首位を占む。而てその原料たる木棉は多く中アジアの産を以て之にあつるも尙ほ不足を告ぐる。故に年々合衆國より輸入する額亦た莫大なり。而してヨーロッパ諸國は大抵イギリス及び合衆國産の綿布を珍重するが故にロシアは之と競争することを避け近年頻にベルシア、トルコ、及びアジア諸國に販路を擴張せり。國中この業の最も盛大なるはモスクバ、ブラヂミルの二市にしてロシア全國生産額の半數以上を出し、ロヅ、ペテルブルグ、コストロマ等之に次ぐ。

麻布及び絹布

亞麻の精製業は綿布につける重要な産業にして中部ロシア諸州、ブラヂミル、コストロマ等之に従事し毎歲海外に送致する額尠からず。又た絹布の機織業はモスクバ及びその附近を中心とす。十九世紀の中頃フランス人の此地方に移住して製造業に従事せしより内國産の原料は勿論遠くイタリア、シナの生糸を輸入して各種の精巧なる織物を出だすに至れり。

機械

農産物の
精製業の

機械の製造は一八七〇年より同八十年頃の間には尙ほ幼稚にして外國の輸入を仰ぎしが一八九六年の頃に至りて頗る進歩し諸種の機關は製造せらるゝに至れり然れども内國の諸事業か要する機關は甚だ莫大なるか故に今日に於ても外國よりの輸入盛にしてその金額は五千一百餘萬ルーブルに達せり。又た甜菜煙草及び馬鈴薯の産出頗る多きを以て砂糖煙草の製造と酒類の醸造とは近年頗る發達せり殊に砂糖製造業の如きは一八九五年には約八十七萬トンを製造せしか一九〇三年には全國に二百七十四の製造所ありて三億千七百四十餘萬貫を供給し酒類の醸造の如きも同年全國に二千三百五十八の醸造場ありて百八十四萬餘石の酒類を醸造せり。この他紙玻璃陶器等の製造業もやゝ進歩し年々生産額を増加するに至りたれどもこは主に内國の需用にあつるのみなれば未だ外國輸出品中主要なる位置を占むる程に進まざるなり。

第六章 商業

前章に述べたるが如くロシアは世界屈指の農業國にしてヨーロッパ第一位と雖も工業は比較的近世の勃興にして方今盛に従事せらるゝものは唯農産物と綿布の製造業とのみ。ロシア工業の現状尙ほ幼稚なるとその國の北方に偏し氣候の寒烈なることゝは内外の商業に影響を與へ今日に於てはかのイギリス及び合衆國か世界市場を支配するが如き隆運に至らざるなり。商業國としてのロシアは前程甚だ遠遠なりといふべし吾人は本章に於て先づロシア内國商業の特徴たる定期市のことを略述し次に海外貿易の發展を叙して現狀に及ぼさんと欲す。

定期市

ロシアの諸市中には一定せる取引期日ありこの時には内外の商賈四集して各地の物産を賣買するものあり之を定期市と云ふ。一八七八年には全國に凡そ六千五百の定期市ありしも十二年の後には増加して一萬六千六百以上に及びき。而てこの内ニジニノブゴロド、ハルコフ、ポルタバ及びキエフとシベリアのイルビトはその名殊に高し、就中ニジニノブゴロドの定期市は毎年八月に開かるゝを常としこの時にはヨーロッパ、アジアの商人はこの市に輻輳して盛に貿易をな

しその取引額は實に七千萬圓に達すと云ふ、而て取引品の著名なるものはロシア産の諸貨物シベリアの鐵器、中アジアの木棉、ベルシア、ブハラ、タシケンドの絹等なり。

ロシア地方外國貿易の起源は實にキリスト紀元前より始まり、當時南方ロシアに居りしスキタの諸族は黒海沿岸に植民せるギリシア人と貿易を開き、殺類毛皮、家畜等を以て自己が要する貨物と交換して、東ローマ帝國時代に及べり、然るに九世紀にノルマンのルーリク始めてロシア王朝の基礎を鞏め、ノブゴロドに君臨せし後も依然として南方貿易を繼續せしか、又たバルト海方面に於てもゴトランド、リヴォニア等と交通せしかば、北方貿易は此の時より始めて盛なり、十三世紀より十五世紀に至る迄、ロシアはモンゴル統治の下に立ちしかば、南方貿易は之が爲に萎微せしも、獨りノブゴロドとブスコフとはハンザ同盟に加はり、その位置の要勝なりしたため、ヨーロッパ、アジア貿易の中心となり、多年繁昌を極めたり、後ちハンザ同盟の衰ふるや、ノブゴロドも亦た衰頹して、海外通商の要關はバルト海のナルベと白海のアルハンゲルスクとに移れり、かのペテロ大帝はバ

ルト海沿岸に新領土を得て海運を興さんと欲し、之がために久しくスウェーデンと戦ひ、遂に宿志を遂げてバルト沿海諸州を獲たり、而て大帝は帝都をペテルブルグに奠さし、よりロシアの貿易は殆んどバルト海に移り、リガ、レバル、ナルバの諸港大に興れり、さればペテロ大帝の治世一七〇三年、ロシアの諸港に入れる船舶の總數は僅に百十三艘に過ぎざりしも、その末年には四百五十三艘となり、き、次てカタリナ二世が貿易獎勵の結果、同女帝の末年には更に増加して二千四百三十艘となれり、爾後歴世の皇帝は概ね保護政策をとりて通商を擁護せしより貿易業は次第に隆盛となり、積年の大農國たるロシアは今や一轉して商工業國たらんとす、即ち近年ロシアは銳意内國交通の便を圖り、鐵道敷設のために投下する年額は實に莫大なり、殊にシベリア鐵道若しくは東清鐵道の如きは巨億の支出を吝まずして、短日月の間に竣工せしめたるは、軍事外交の必要上より來れること論なきが如し、雖も亦た兩大陸の交通を容易敏活にし、以て極東貿易に飛躍を試みんとするの素願に基因す、請ふ我等はロシア開港場を畧叙せる後、ち更に進んで最近五ヶ年間に於ける海外貿易の趨勢を説かん。

(110)

貿易港

黒海沿岸の諸港は農産物の輸出最も盛にして殊にオデッサは製粉精糖醸酒及び機械工業を以て鳴り南中及び西南ロシア産の穀類は概ねこの港より輸出せらる。實に南方ロシア第一の要港なり。ニコライエフ港は主に穀物石油を取扱ひドニエプル河口のヘルソン港は穀物木材革皮の貿易に従事す。この他セバストポリ、ベルヂャンスク、マリッポール、ロストフ及びカフカズのバツームも亦た黒海沿岸の要港なり。

バルト海第一の貿易場をペテルブルグとなす。ペテルブルグは綿布毛布等の製造業頗る盛にして主に穀物木材を輸出し諸原料食料及び奢侈品を輸入す。リガ港は麥類及び木材をレバルは酒類を輸出す。

白海のアルハンゲルスクは半炭以上は堅氷に鎖され交通全く杜絶すと雖も木材と麻類はこの港の重要な輸出品にして多くは之を北西ヨーロッパ諸國に送致す。又たカスピ海に於てはカフカズのバク、港は有名なる石油の産地なると與に黒海と中アジアとの交通の要衝に當れるを以て商業最も繁昌しボルガ河口のアストラハンハベルシヤとの貿易港なり。

輸出入額の對照

(111)

太平洋岸のウラヂポストクは一八七二年より極東唯一の開港場たりしもその地は北方に偏し且つ結氷の期長きが故に貿易業は意の如くならざりき。然るに明治三十年末ドイツは事を以て急にシナの膠州灣を占領するやロシアも亦た辭柄を設け翌年三月に至り嘗て我國に干渉して還付せしめたる遼東半島の一部を租借せり。爾後ロシアは巨額の資本を投して大連灣にガルニを旅順には軍港を築造し甲を以て東洋に於ける貿易場とし乙を以て海軍根據地となさんとせり。且つマンチリアを貫通して以上の二港とシベリアとを連結せる鐵道も已に開通せるを以て極東の局面茲に一轉せんとせり。

茲に一八九二年以後の貿易を比較するに輸出額は常に輸入額に超過するのみならずその超過金額は年々増進するを見る。今左に一八九二年より昨年に至る貿易表を掲げて貿易發達の一斑を示さむ。

至自	輸 出 總 額	輸 入 總 額
至自 一八八九 一九〇七	五七、〇〇〇、〇〇〇	四三、〇〇〇、〇〇〇
至自 一八九七 一九〇七	六四八、〇〇〇、〇〇〇	五二二、〇〇〇、〇〇〇

第三篇 經濟

露國の貿易

一九〇二年	七八三、〇〇〇、〇〇〇	四八三、〇〇〇、〇〇〇
一九〇三年	九〇二、〇〇〇、〇〇〇	五四〇、〇〇〇、〇〇〇

又た一九〇二年に於ける貿易品を四大別して各項の輸出入額を對照すれば左の如し。

食料品 原料及半製品 獸類 製造品	輸出金額	輸入金額
食料品	五二六、一八九、〇〇〇	八一、四〇九、〇〇〇
原料及半製品	二五八、二六七、〇〇〇	二九五、四八三、〇〇〇
獸類	二一、五五八、〇〇〇	一、四〇三、〇〇〇
製造品	一九、二六三、〇〇〇	一四八、八〇〇、〇〇〇

前掲諸項の第一位を占むるものは輸出食料品なり。即ちその金額は五億二千六百餘萬ルーブルに達し之を同項の輸入額に比するにその超過額は約四億四千五百萬ルーブルなり。加之之を他項に比較するも巔然として頭角を顯はせり。吾

重要なる輸出品

人は先に本篇第一章に於てロシアの農産業は實に同國唯一の産業にしてその生産貨物はヨーロッパ市場を左右する旨を述べしが讀者は今や親しく本項を檢するに至りて我等が誇張の辯を弄せざりしを知らん。又た第二項の原料及半製品を對照するに輸入額の超過する所以は諸種の製造の原料たる木綿、羊毛、生糸及び石炭等の輸入莫大なるを以てなり。又た第四項を對照するに輸入超過額は約一億三千萬ルーブルに及べり。かゝる超過を來たすは主にロシアの機械若しくは雜貨類に關する工業の不振に因るものにして一面に於て一般の工藝の未熟なるを證するに足らん歟。

一九〇二年に於ける輸出入品に就きその價格一百万ルーブル以上の項を擧ぐる時は輸出品に二十七項輸入品には十九項あり。然れども吾人は茲に特に一千万ルーブル以上の諸項を摘出して之を五年以前のものと比較して讀者が對照の便に供し後ちロシアの主要なる取引國を擧げて本篇を終らん。

輸出部

露國の實相

貿易國と取引額 (116)

又た一九〇二年に於けるロシアの主要なる貿易國とその取引額とを示せば次の如し

取引國名	輸出	輸入
ドイッ	二〇三、五九六、〇〇〇	二〇二、八八六、〇〇〇
イギリス	一八八、七七五、〇〇〇	九九、三〇七、〇〇〇
オランダ	五五、一五八、〇〇〇	二六、二八四、〇〇〇
フランス	四八、八八五、〇〇〇	九、二一三、〇〇〇
イタリア	三五、七〇一、〇〇〇	二三、五〇六、〇〇〇
オーストリア	一〇三、〇一三、〇〇〇	一一、三三七、〇〇〇
ハンガリア	四、四一三、〇〇〇	三九、一五〇、〇〇〇
エジプト	九四四、〇〇〇	一九、四四六、〇〇〇
合衆國	六、七九二、〇〇〇	一五、〇八二、〇〇〇

二 財政

豫算案

ロシアの豫算編成法は一八六二年始めて制定せられたるものにして現制は之と多少の相異なるに非ずと雖もその綱領に至りては相異なる所なし。即ち各省及び宗務院の如き諸大官廳は來年度に於ける收入と支出とを豫算して歳計表をつくり大藏省はこれ等を綜合して帝國歳計豫算表を編成す。而てこの豫算案を精密に調査するものは參議院にして同院の財務局は各項目を審査したる後始めて之を參議院の總議に付す。若し全院之を可決せば之を皇帝に上奏して親署を仰ぎ翌年一月一日を以てこの豫算案を發表す。

歳出入の種類

(117)

各省及び諸大官廳は各年度に於て實際に出納せる項目を明確にし之を會計検査院に提出し同院はこれ等によりて歳計決算表を調製し之を參議院によせて前年度の歳計を報告す。而て歳出入はその性質に従ひて(一)經常歳入(二)經常歳出及び(三)臨時歳入(四)臨時歳出の四種に分つ。吾人は本論に入るに先だち以上四種は如何なる性質の項目を包括するかを知るの必要あるを以て茲に各項目の内

露國の實相
容を説かん。

第壹章 經常歲入

經常歲入は臨時歲入とは異り比較的固定せる收入にして次の九項に分る(一)直接國稅(二)間接國稅(三)登記料(四)官業(五)官有財産(六)官有地拂下(七)地代償還(八)雜收入及び(九)此外の諸收入是なり而て以上の九項は更に若干の目に細別せらる。

(一)直接國稅 地租營業稅及び資本に對する五分稅の三目に分る。地租は皇室の御料地を除き總て州區會が地方稅を徵收する全土に課す。政府は各州に地租を分課する時は各州會は毎歲稅律を定めて之を區會に區會は更に郡村會に遞賦す。然れども帝國中州區會の組織をなさざる地方に於てはその地方の官廳之を執行す。

營業稅とは遍く全國の營業者に賦課するものにしてその收入は年々増加するの傾あり。今日に於ては經常歲入の要目となれり。

資本に對する五分稅とは公共團體の營造物より私人の企業に至る迄その名義

と性質との如何を問はず總て投下資本より生ずる利益の五分を納むるものなり。然れども小規模の會社等の如き政府より同稅免除の許可を得たるものは此限にあらず。

(二)間接國稅 間接國稅は官業及び官有財産と共に政府歲入の三大財源にして關稅の外に酒、煙草、砂糖、石油、早付木の如き消費貨物に課するの稅なり。

帝國の關稅を經る貨物の課稅は主なるものにして此外にも港稅の如き諸收入を包括す。而て課稅の率は大抵一八九一年に規定せるものに據れども又た臨時規定の稅率に従ふことあり。近年外國交通の隆運に伴ひて關稅の收入は年ごとに増進し最近三年間に於ては實に經常歲入の第三位を占むるに至れり。

酒稅は釀造又は販賣業者に課せしものにして嘗ては政府の收入極めて莫大なりしも二業は近年次第に官業となるに從ひ著しくその收入を減ぜり。又煙草稅はその製造販賣の二營業人の納稅と輸入煙草の關稅とを含む。酒と煙草とは最も不生産的の消費物なるを以て政府の監督は殊に嚴重なるも年を逐うて消費益高むが故に二稅も從ひて増加せり。この他砂糖、石油及び早付木類もそれと

規定の課税あり。

(三)登記料 この税は印紙税、相續税、旅行券及び鐵道税等を包含す。

印紙税とは政府に提出する願書或は他の證書に貼付すべき印紙及び個人間の貸借若しくは契約關係の如き總て政府の承認を必要とする爲に用ふる印紙税にして我國の收入印紙に相當するものなり。印紙に數種あり、用務の性質に従ひて規定の印紙を使用す。又た各相續人は讓受價格の四分を官に納む之を財産相續税と云ふ。

外國人にしてロシア内地に滯留又は旅行せんとするものは政府に一定の税を納めて旅行券を求むるを要し、又たロシア臣民の六月以上外國に行かんと欲するものも特種の旅行税を納めざるべからず。此の外官有鐵道の乗客及び運輸貨物も一種の鐵道税を徴收せらる。

(四)官業 鑛山造幣遞信業は政府の營業にして酒の專賣も亦た近年施行せらる。

鑛山業に官民の二業あり。官業の純益は當然政府の利得にして民業に對しては

相當の税を徴す。又た郵便電信及び電話は政府の經營する所にしてその收入尠からず。

酒の政府專賣は實に經常歲入の最大財源にして一九〇一年七月ロシア本部の全土に施行し翌年七月更にシベリア及びカウカシアの七州及び地方に及ぼせり。されば酒の專賣より生ずる收入のみにては實に巨額に達せり。若し之に鑛山造幣等の官業をも加ふる時は他項の歲入は到底之に及ぶこと能はず。

(五)官有財産 官有地貸付料は政府より人民に土地、牧畜、漁業場等を貸與しその貸付料を徴するものなり。皇室御料林も亦た政府の大切なる財源にして木材薪材の如き牧場枯草の如き總て森林に附屬する諸收入を含む。

官設鐵道は近年政府の最も苦心經營せし所なりしか。今日に於てはその効果顯はれ、收入の巨大なること酒類專賣の收益につぐに至れり。

前述諸目の外に尙ほ皇室所屬の鑛山又は官立工場より來る諸收入あり。

(六)官有地拂下 官有地の公賣に付すべき所ある時その都度皇帝の裁可を経る。當局者之を賣却せる收入なり。

露國の實相

(七)地代償還 一八六二年全國の土地附農民を解放して自由たらしむるに及び政府は從來大地主が所有せし土地を悉く買収して之を農民に貸與しその地代は農民をして四十九年賦を以て政府に償却せしめたり爾後農民は政府より貸與せられたる土地に對して毎年その一部分の地代を返納するものは即ち地代償還にして經常歳入の要項たりしが近年に至りては漸次減少するに至れり

(八)雜收入 雜收入とは皇室及び官有鐵道の負債又は都市より奉る政府への補助金等を云ふ。

最近五年間の平均比較

(九) 此外の諸收入 前述八項以外の諸收入を包括するものなり。
吾人は己に經常歳入の種類と性質を述べたるを以て茲に一九〇〇年より一九〇四年に至る五年間の經常歳入中五千萬ルーブル以上のものを掲げて帝國收入の發展を講究せんと欲す但し一九〇二年以前の歳入は現計なれどもその以後のものは豫算額を示すものなり。

官有鐵道	一九〇〇年	一九〇一年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年
	三六、六五、三〇〇	三六、六六、九〇〇	四〇、七二、九〇〇	四二、七三、五〇〇	四二、七三、五〇〇

第三篇 經濟

前掲の表につきて各項を比較するに國家最大の財源をなすものは實に酒類の專賣に在り即ち一九〇〇年には約一億一千八百萬ルーブルなりしが翌年には一億六千三百餘萬ルーブルとなり經常歳入の第四位に居たりしもの一九〇二年には急に膨脹して第一位にのぼり其金額は四億一千餘萬ルーブルに達せり爾後政府は酒類の專賣を帝國の各地に實施するを以てその收入は今後益々有望ならんとす。

官有鐵道は政府が巨大の資本を投じて銳意計畫せる結果として年收も一九〇二年には四億餘萬ルーブルとなり今年度の豫算に據れば四億一千萬ルーブル

酒類專賣稅	三六、八〇、七五〇	三三、八七、二八八	三九、〇四、四一七	三九、五九、〇〇〇	二七、九三、五〇〇
關稅	二〇、九六、三九四	二九、九〇、〇〇〇	二四、九〇、〇三三	二六、一七、〇〇〇	二八、五二、〇〇〇
營業稅	一七、九三、三三三	一六、三六、七六三	一八、四三、七九三	一四、七三、〇〇〇	一四、七三、〇〇〇
砂糖稅	六、八四、〇〇一	六、八三、三六八	六、五三、三三三	六、一三、三六〇	六、七五、一〇〇
皇室御料林	六、三三、五七四	七、七五、二二八	八、一七、七二二	七、八四、〇〇〇	七、九三、〇〇〇
御料農民納付金	五、五七、八三六	五、六八、二三四	五、八二、八九三	六、一三、二九〇	六、〇四、〇〇〇
	五、五六、八六〇	五、一〇、二八六	五、〇七、八〇七	五、〇三、四五六	四、八八、八九三

以上に達し現に經常歳入の第二位を占む。

關稅は比較的固定せる歳入にして常に第三位に居り最近五年間に於ては約二億四百萬ルーブルより二億三千萬ルーブルの間を上下せり以上の四項は他の經常歳入項よりも遙かに巨額にして一億乃至五億ルーブルに達す實にロシアの爲めに最も有力なる財源なりと云ふ可し。

關稅に次ぐものは砂糖税なり同稅は一九〇〇年に於ては六千三百餘萬ルーブルに過ぎざりしも二年後には約八千百萬ルーブルとなりぬ營業税と皇室御料林の收入は現今殆んど固定の状態に在り然れども茲に以上諸項の傾向と異り年を逐うてその收入額の減少するものあり酒税及び地代償還の二項是なり前者は一九〇〇年及びその翌年に於ては常に歳入の第二位として三億一千二百萬以上の收入ありしが一九〇二年には遽かに減縮して約三千九百萬ルーブルとなり今年豫算に據れば一層低落して約二千八百萬ルーブルとなりぬ是れ政府が官業として酒類を醸造酤賣するに至れるが故にその結果として著く民業を縮殺せるに因るものなり又た後者は農民が次第に地代の償還を終るも

の、多きに困れり。

吾人は唯收入五千萬ルーブル以上の諸項が最近五年間に如何なる發展をなせしかを討尋せるのみなれども五千萬ルーブル以下の諸項も亦た年によりて増減なき能はず然れども經常歳入全額として考ふる時は一九〇〇年以降歳ごとに増進するを認む。

第貳章 臨時歳入

臨時歳入とはロシア銀行への無期預金、國債、官有財産の賣却等の如き臨時の諸收入を云ふ。

臨時歳入は前述の諸項を總括するものなれども一九〇〇年以後臨時歳入の殆んど大部を占むるものは實に國債なり即ち一九〇〇年の臨時歳入總額は三千二百五十餘萬ルーブルなりしがこの内二千八百九十餘萬ルーブルは國債なり而て一九〇一年には急に増加して一億五千七百萬となり翌年には更に約二億ルーブルに上れり又た昨今兩年の國債は果して幾何なるや未だ明かならざる

もロシアが積年募集し來れる内外の國債は實に莫大にして之が償却は將來最も財政家の苦心すべき所なりと云ふ。

第三章 經常及臨時歳出

經常歳出は諸省及び宗務院の如き大官廳の經費と國債の償却を含む。而て一九〇〇年以後の歳出中五千萬ループル以上の支出をなすもの凡そ六項あり。陸軍、逓信、大藏、海軍、内務五省の經常費と國債償却金はなり。

最近五年に於ける重要項目の比較

五千萬以上ノ歳出	一九〇〇年	一九〇一年	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年
陸軍省所管	三二一,五四〇,五〇四	三三六,〇〇六,〇〇六	三三三,二二一,二六六	三三九,九三三,八〇六	三六〇,七五八,〇九三
逓信省所管	三三,九六五,二六三	三八,八五一,四〇五	四四,三三八,七五	四五,六二八,四〇六	四七,三七四,六一
大藏省所管	二八〇,九三三,〇一〇	三〇八,四九〇,三九	三三三,四〇九,三三六	三三三,三三三,四一四	三三三,三三三,四一四
國債	二六,九八八,五三三	二七,五五〇,〇五	二九,〇三八,五三三	二六,九八八,五三三	二八,九三九,一八三
海軍省所管	八八,五六〇,八五九	九三,〇四六,二四	一〇〇,四四,四四	一六,三三三,四二	一三六,三三三,四二
内務省所管	八七,四三六,八二六	八七,八三三,五三六	九三,九四八,八五六	九三,九三三,三三三	一四七,七七〇,七八
司法省所管	四九,九三三,四三二	四六,〇五八,二二六	四七,二三三,九三三	四九,六四三,四二	五二,〇八二,九三六

この内陸軍逓信大藏三省と國債支辨とは經常歳出中の四大支出にして實に二億六千餘萬ループルより四億七千萬ループルに及べり。是によりてロシア最近の經營はいづれにあるやを推知するに足る可し。而て通信交通に關する歳出は一九〇〇年には約三億二千萬ループルなりしが爾來益々交通の完全と普及とを圖りしかば二年後には四億四千六百餘萬となり今年の豫算に據れば一層膨脹して四億七千萬ループル以上に達し今や帝國歳出の第一位を占む。この項に次ぐものは大藏省の經費なり。即ち一九〇〇年には二億八千餘萬に過ぎざりしものが爾來益々擴張し來り五年後の今日に於ては竟に三億七千餘萬ループルにのぼれり。陸軍はロシアの多年最も經營せる所にしてその規模は遙かに海軍よりも大なり。されば一九〇〇年には歳出の第一に居り三億三千餘萬なりしが後ち逓信大藏二省の事業勃興するに及び陸軍の經費は二省のものよりも少額となりたるも尙ほ三億六千萬ループルを下らず。ロシアの國債は莫大なるを以て之が元利の償却も亦た從ひて増進せり。即ち五年前に於ては二億六千餘萬なりしが今年の總算に據れば約二億八千萬ループルとなれり。又た海軍内務二省の經

露國の實相

臨時歳出

費は一九〇〇年にはいづれも八千八百萬ルーブル内外なりしが後ち次第に擴張せられ今年度に於ては皆一億千萬ルーブル以上となり司法省の歳出も今年に至り始めて五千一百萬ルーブルを越ゆるに至れり。前述の比較は唯五千萬ルーブル以上の諸項に止まれども經常歳出の諸項を合計して考ふる時は經常歳入が一年と増額するが如く經常歳出も亦た同一の傾向を呈せり。

臨時歳出は鐵道若しくは國家不慮の事變に關する臨時の支出なり。臨時歳出に就ては統計未だ完からざるが故に全體を批評し難きも鐵道に關する經費は繼續せり。即ち一九〇〇年には約六千萬ルーブルなりしが二年の後には急に一躍して一億六千餘萬ルーブルとなりき。又た一九〇〇年北清事變の起りし時ロシアは軍をシナに派遣したる爲め前後凡そ一億一千五百萬ルーブルの臨時支出をなせり。然るに今年わが帝國と干戈を交ふるに至り軍團の動員糧餉の運搬の如き總て北清事變の時よりも規模頗る大なるを以て臨時歳出は極めて巨額に達す可し。

又たロシアの國債は一八五六年頃には凡そ一億四千四百萬ポンドに過ぎざり

しが一九〇一年には五億萬ポンドとなり翌年には六億八千四百五十餘萬ポンドに達せり。

吾人は前頁に於ては唯經常及び臨時歳出入の要項に就きてその隆替の如何を叙せしのみなるを以て茲に一九〇〇年度の決算表と今年度の豫算とを擧げて各項目の發展を明らかにせんと欲す。

(甲) 經常歳入部

		一九〇〇年度現計	一九〇四年度豫算
(一) 直接國稅	地 租	四五、九七八、九二三	四九、〇一一、〇七七
	營 業 稅	六九、八四〇、〇〇一	六七、五四一、一〇〇
	資本に課する五稅	一六、九一〇、五八五	一八、五八六、三〇〇
(二) 間接國稅	酒 稅	三二六、八〇七、五五〇	二七、九四三、五〇〇
	煙 草 稅	四一、一九五、九〇四	四六、二五八、五〇〇
	砂 糖 稅	六三、二九五、七七四	七九、二二〇、〇〇〇

露國の實相

總計 一、五五五、四二七、六三三

總計 一、九八〇、〇九四、九四三

乙) 臨時歳入部

ロシア銀行無期預金	一九〇〇年度現計	一九〇四年度豫算
國債	二、五四六、二三五	二、七五〇、〇〇〇
其他ノ諸收入	二八、九五〇、〇〇〇	
	一、〇七二、七四八	
總計	三三、五六八、九八三	總計 二、七五〇、〇〇〇

丙) 經常及臨時歳出部

諸國大官廳費	一九〇〇年度現計	一九〇四年度豫算
	二六六、九五八、五三二	二八九、二九九、一八三
	三、二二四、九九六	三、五二九、一一一

第三篇 經濟

宗務院	二九、三三一、八九〇
宮内省	一六、一二七、九二〇
外務省	六、四一七、七九〇
陸軍省	三六〇、七五八、〇九二
海軍省	一一三、六二二、四二六
大藏省	三七二、一二二、六四九
農務及御料地事務省	四九、八二九、一〇二
内務省	一一四、七二七、〇七八
文部省	四三、六七七、四五二
逓信省	四七三、二七四、六一一
航海及諸港費	一六、五四七、四六六
司法省	五一、〇八二、九三八
會計検査院	八、九九三、八〇九
飼馬局	二、一一六、七三五

露國の實相

其他諸支出	總計 一、五五五、四二七、六二二	一九〇〇年現計	一九〇四年豫算
	二、〇〇〇、〇〇〇		一五、〇〇〇、〇〇〇
	總計 一、九六六、四五八、二五一		

鐵道新設車輛增加	一九〇〇年現計	一九〇四年豫算
鐵道公債	一〇二、八九三、七六四	二二〇、一七八、八〇四
北清事變	八五、八九四、七三七	
其他諸支出	六一、八四三、四三五	
	八三、一五六、五七九	二、〇〇〇、〇〇〇
總計	三三三、七八八、五一五	總計 二二二、一七八、八〇四

前掲の表によりて吾等は一九〇〇年とその四年後の今年に於ける歳出入の詳細を比較し得たるを以て茲にその總額を調表して對照に便ならしめんと欲す。

第四篇 交通

經常歳入	一九〇〇年度	一九〇一年度	一九〇二年度	一九〇三年度	一九〇四年度
臨時歳入	一七〇、四一三、五〇六	一七九、四七五、一五五	一〇五、五〇〇、〇四三	一八七、〇三三、六六六	一九〇、〇九四、九三三
經常歳出	三三、五八八、八八三	一六三、九二五、九五	一〇二、四八三、三三六	二、五〇〇、〇〇〇	二、七五〇、〇〇〇
臨時歳出	一五五、四三七、三三三	一六四、八八七、三三二	一八〇、二〇〇、〇三九	一八八、〇四五、三三九	一九六、四四六、三三二
臨時歳出	三三、七八八、五一五	三〇九、三六九、八〇八	三六五、〇〇五、六三七	一九一、三六三、三三三	三二一、七八八、〇〇〇

地理の章に於て述べたるが如くロシアは土地平坦なれば道路の開鑿意の如くなるべしとは何人も想像するところなるべけれど事實は全く之に相反す是れ

主として其氣候に因る所多くロシア人は常に陸地を以て交通の最大障害となし距離は敵なりとの謗すら起れる程なり然れども經濟上軍事上の必要は此大障害を排して何等かの交通法を發見せずんば已まざらんとす是に於て必要は古來ロシア人をして何れの國々よりも結構なる通路を使用せしめたり即ロシア國內を縱横に流るゝ河流にして俗間に河は文化の父なる語を生じたるも偶然に非ず然るに近來鐵道の發明ありてより國內到る處に布設せられ土地平坦なる所多きにより遂に東西兩洋を連結する大鐵道の完成をも見るに至れり今少しくロシア國內の交通が如何の狀況にあるかを略述せん。

第壹章 道路

道路は既に冒頭に述べたる如く氣候の不良なるより如何程の工事を加ふるも如何ともなし難きものあり又道路修築に要すべき材料甚だ缺乏し加之地方自治團なるもの富裕ならざるにより政府より委任せられたる道路修築の責任を全くするを得ず爲めに汽車旅行家の記するが如き道路は到底都會以外何れ

の地にも發見すると能はずさりながら交通圖を見るときは磚道、驛路、大路、中道、村道の五種嚴然存在するを見るべければ誠にヨーロッパの強國たるにはちざる道路を有するものと思はるゝも内地に立入ればとても道ある國とは思はれず無道の一言よく村落間の往來を表明せり殊に春季氣候變轉の時節に於ては泥濘を没するのみならず河水汎濫して四面湖の如く霖雨期に遭遇すれば到底跋涉するを得ず此時陸上の交通斷絶す然るに冬期に入りて地面氷結し雪其上を掩ふときは處として楯を通せざるなく所謂そり道、冬の道なるものを生じて河表は一面の氷と化し人馬の往來自由なりさればいかばかりの費用を投じて道路を脩むるも僅に五ヶ月の用にたふるのみ貧村之が脩繕を負擔するを以て其放任主義なるは推して知るべし又所在の河流も要衝に當れるものゝ外は橋梁至て稀にしてみな渡船を用ひ磚道驛路の如き稍整頓せるものといへども河邊に至れば皆船によるの外なし大道坦々駟に鞭うつが如きは僅少なる時期と局部とに限られ唯バルト海の沿岸地及びウイッスラ以西の地方は土着人民の苦心により西ヨーロッパに於て見るが如き磚道あるのみ又カフカズ地方はロシア、

シベリヤ
及び中
アフリカ
道路

政府頗る意を軍事に用ふるが故に道路最も整頓し羊腸たる大道カフカズの半腹にかゝれるが如きは世界の偉觀といふべし。シベリヤも鐵道開通前に於ては専ら軍道を使用せしかば其設備も西ロシアにまさり五里十里にして必ず宿驛あり。若し強ひて西ロシアに於ける良道を求むればペテルブルグ、モスクバ、キエフ、ニジニノブゴロド、ハルコフを連絡する道路を擧げ得べきのみ。

今少しく詳かにシベリヤ及び中アジアに於ける重要なる道路をのべん。特に此地方の事を説くはロシアが東方に於ける活動と最も密接なる關係あるに因りてなり。ロシア東方の驛路はオレンブルグに起る。此より東してウラルの上流オルスクに至れば、道二つに分る。南するものはツルガイ州を横ぎりてシル河口のカザンスクを経シル河にそひてタシケントに達す。此地方に入らんとするにチムケンドをすぎ、此よりカラタウ山脈を横ぎり遂にイリ河の盆地なるベルニイに至る。此より東すれば即ちシナ帝國のクルデアに出づ。此邊は嘗てロシア軍の占領したる地方にして陸路ツルファンを過ぎてシナの甘肅省に入るの要路に當れり。ベルニイよりアラタウ山を回りバルカシ湖の東をすぎ、セルギオボルを

經てイルチシの上流セミバラチンスクに至る。セミバラチンスクの上にウスチ・カメノゴルスクあり。此より道二つに分れ、甲は北してバルナウルを經てオプ市に至り、乙は東南高地に進み復二つに分れてアルタイの南北麓にそひ外モンゴリアのゴブドに至る。此邊シナ境上に至る支道頗る多く外モンゴリア、新疆地方は指呼の中にある。

タシケントは中アジア鐵道の一終點にして其本線は東アンチチアンに起りサマルカンド、ブハラ、メルフ、アシウカバッドをすぎカスピ海のクラスノボドスクに至る。アンチチアンは驛路新疆省のカンガルに連なりフェルガナ地方の要地たり。

トルキスタン地方にてはアム河にそひ鐵道を横斷せる驛路遠くアフガニスタン領のバルクに通ず。

セミバラチンスクより西北イルチシ河にそひ大道オムスクに至る。此よりこの盆地を北にトボルスクよりオプ河下流に連絡せり。此附近また二三の驛路あり。東部シベリヤに於てはバイカルの北麓レナの流にそひて大道遠くヤクトットク

に至り分れて四道となる。一は北ベルホヤンスクに至り一は東アルダンスクをへて沿海州に入り復分れて二道となり。一は東してアナヂル灣に達し一はカムチツカのビオトロバウロフスクに至る。

アムル河沿岸地方はバイカル湖東ベルフニウヂンスクを起點とし北東東南南の四道あり。南道はキフタより賣買城をへて北京に通ずる道路にしてシナとの最古の交通道路たり。又東するものはチタに至りて止まり復ストレチェンスクに起りアムルの北岸にそひアルバジンをすきブラゴベシチェンスクを貫きハバロフスク邊に於てアムルを渡り河南にそひマリインスクに至りて止まる。

此等の道路はロシア人が多年の辛苦經營によりて成りしものなり。近年鐵道貫通してより或る部に於ては其用を失へるものありといへども或る方面に於ては其功用漸く今日より現はれんとする勢あり。新疆省及びモンゴリアを壓する大道の如きは蓋し其最たるものならん。此地方の道路費はみな國庫の負擔する所にして其費用の渾大なると規模の宏大にして目的の悠遠なるとは舌を卷くべきものありと云ふ。

第二章 河流

陸路の不便なるに反し舟筏の通ずる所四萬餘里十七萬一千キロメートルに及びヨロップ、アジアロシア殆んど相半ばす(ヨロップロシア八萬二千八百廿五キロメートル、アジアロシア八萬八千二百九十二キロメートル)然れども此等の大河は一ケ年中六ヶ月より八ヶ月にわたりて一回に氷結し且つ河々は多く北洋に向ふを以て、外洋との交通に便ならず。また雨雪の量少きにより夏期乾涸して雨少き時は減水甚だしく到底舟を通ずべからざること、既に地理籍に述べたるが如し。

河流最も船舶の往來頻繁なるは五、六月の交にして大平原を掩ひし雪一時に融解し大流はいふまでもなく小流溪谷みな舟を通ぜざるはなく其便利の大なること我等の想像外にあり然れども急灘のあるありて舟筏の通過をさまたぐるもの亦なきに非ず。例ばドニエブル河の瀬、ボルホブ川の急流、ナロバ河の瀧、ムスタ河支流のボロビチ河の如きはみな多少の障害ありて舟行自由ならず。シベリ

露國の實相

アの諸流もまた急流の危険少からず、アンガラの瀬殊に甚だし。ロシア本國は大山脈の水流を妨ぐるなきにより運河の開鑿極めて容易にして鐵道の布設前已に前世紀の初期に於て處々に大工事を起して河水の連絡を計れり。そのヨーロッパロシアに於ける重要なものはカスピ海、バルト海、白海、黒海を連絡する運河にして長さ四百里に餘れり(千六百八十九)。アジアに於てはオブ、イニセイニ河の間に四十里弱(百五十八キ)の運河あるのみ。ヨーロッパロシアの運河は二大區に分たる。甲は東北にあり、ボルガ、ネバ、北ドビナの三盆地を連絡するものなり。乙は西にあり、トニエブル、南ドビナ、ニエメン、ウイヌツラの諸流域に通ずるもの是なり。ボルガ河はネバ河と連絡するにビシネボロツキ(百四十四キ)チフピンスキ(百九十五キ)マリインスキ(七百五キ)の三運河あり。またドビナ河との間にアレキサンデル、ウルテンベルヒ運河あり(九十五キ)トメル。

ドニエブルは三運河を以てバルト海に通ず。南ドビナに通ずるものはベレデナ運河(百十キ)にしてニエメン河に連るはオギンスキ運河(百六十二キ)ウイヌツラ

河と通ずるはドニエブルグの運河(二百十一キ)とす。西方に於ては、ニエメン河、ウイヌツラ河と連なる運河の長さ百一キロメートルにしてアウグスト運河と稱するもの是なり。運河の全長を通算すれば無慮五百餘里一萬一千二百キロメートル(天然の河流にして利用)河流の全長に比して一分三厘三毛に相當す。河流の通船距離の通計四萬餘里内二百五十里以上の大河にして最も重要なもの十四之に泛ぶ船舶多大なるを以て、ニジニノブコロド、ベルム、モスクバ、ペテルブルグ、フィンランド等に造船工場多く海外の製作にかゝれる船舶の輸入も亦た少からず。年々艦装をおへて業務に従ふもの帆船六千艘其建造費八百萬ルブル。蒸氣船の數百五十艘其價格七百萬ルブルに上れり。なほ諸工業品の産出額逐次増加するが故に河水運搬の業益と活潑とならんとす。いま最近十年間の船舶數の増加を示さん。

動力	年次		乗組員
	船數	馬力	
蒸	一八八四	一二四六	七二〇五
第四篇 交通			一八七六六

露國の實相

力	汽	蒸	非	力	汽
一八九〇	一八二四	一〇三二〇六	二五八一四	一八九〇	一八二四
一八九五	二五三九	一二九七五九	三二六八九	一八九五	二五三九
一八八四	二〇〇九五	五九三七〇〇噸	九四〇九九	一八八四	二〇〇九五
一八九〇	二〇一二五	六五七八〇〇	九〇三五六	一八九〇	二〇一二五
一八九五	二〇五八〇	八六三八〇〇	九五六〇八	一八九五	二〇五八〇

また一八九五年諸河の出入船舶数を示さば

河	名	蒸 汽 船 數	其 馬 力	通 常 船 數	其 噸 數
ボルカ		一三九二	八六七七五	七六〇〇	五五〇五 <small>百噸</small>
ネバ及び附近の湖水		三六二	一一八八三〇	七一〇二	二〇五六
北ドビナ		一二四	四〇八五	九八五	二二三
ドニエプル(プグの瀧まで)		一二二	六七〇〇	一〇三三	二三四
ドニエプル(プグの瀧以下)		一六四	六四一〇	八四四	二〇四

アジア地方の諸大河に用ひらるゝものを擧ぐれば

河	名	蒸 汽 船 數	其 馬 力	通 常 船 數	其 噸 數
南ドビナ		一〇四	二四九三	六七三	三三
ニエメン		一七	四四三	四九二	四六
ウイッスラ		三七	九五三	四二五	五三
ドン		一六七	八六九一	五一六	一九一
ドニエステル		一一	四七九	三二九	五九
ナロバ		二六	四七九	四五八	三三
他の諸河		一三	四二一	一一三	二
合計		二五三九	一二九七五九	二〇五八〇	八六三九

第四篇 交通

河	名	蒸 汽 船 數	其 馬 力	通 常 船 數	其 噸 數
イニセイ		二六	一八八六	一九〇	二六五八七
オプ		一一四	七四八八	三六九	二五三二一五

露國の實相

年次	レナ	アムル	アム	計
一八八二—一八八六	一五	一一六	四	一三六
一八八七—一九一〇	六三二	七七六五	三九〇	八四七〇
一九一〇—一九一四	一〇六	一四五	八	二六九
一九一五—一九一八	九三三八	三六六七四	六八四	三七三〇六
計	一一一五	四七六五	三九四	一五三〇四

アジア地方に於ける船舶の中オプ、アムル二河の航運最も著くアムルの船舶は益増加の傾向あり。
 なほロシアに於ては筏の使用甚盛大にして年々之によりて運搬せらるる貨物船舶によるもの、三分の二を占む、今兩者の輸送量を示さん。

舟筏の輸送貨物の輪

年次	船舶によりしもの噸	筏によりしもの噸	合計
一八八二—一八八六	四〇六五六〇〇噸	二八七七〇〇〇噸	六九四二六〇〇噸
一八八七—一九一〇	四七九一八〇〇〇噸	三七九〇〇〇〇噸	八五八一八〇〇〇噸
一九一〇—一九一四	六四三二八〇〇〇噸	四四七五四〇〇〇噸	一〇九〇八二〇〇〇噸
計	一五二九六四〇〇〇噸	一〇九八七〇〇〇噸	一六三九五一〇〇〇噸

貨物

年次	穀物	鹽	石油類	鐵油	木材	薪	雜貨	合計
一八八二—一八八六	二九五	三三三	二五五	一九三	五七六	二八八	二九三	一三八八
一八八七—一九一〇	三三三	三六二	六三七	二八三	七三三	三九五	二六三	一七一五
一九一〇—一九一四	三六二	五三三	一七〇	四〇二	八八三	三六九	三六三	二二八
一九一五—一九一八	三六二	六九八	三〇七	五四六	一〇八一	三九〇	五二四	二七六〇
計	一三五	一五二	一〇七	一四一	二一六	一三二	一四一	一〇八〇

其數量年々増加の傾向を呈するは表の示す所の如し。いま通運貨物と其數とを擧げんに個人の手によるものは統計を得ること難けれども通運諸會社に於て取扱へるものは毎年の報告により之を明かにするを得。
 此等の數はみなヨーロッパロシアに於ける統計を示しアジアロシアに於ては、いまだ十分なる統計なし。
 十四大河の中に於て最も重要なるはボルガにして其流域に出入する貨物は實に河流による貨物全體の七割を占む。以て其ロシアの文化にいかばかりの關係するかを察すべくロシアの母と云はるゝ亦其謂なきに非ず。

露國の實相
河上の通運至極便利なるにより貨物の運賃極めて低廉にして天然物は一トン、一キロメートルにつき一コペクに上ることなし。

第三章 海運

ロシアは北洋海岸線甚だ長きも氣候寒烈なるにより冬期氷結し唯スピートノス以西僅少の海岸のみ終歲船舶の出入を許す。バルト海の沿岸もまた十一月より四月下旬に至るまで交通を杜絶せられ唯クールランドのリババ港のみ周歲氷を見ず東洋のウラヂボストク、黒海のオデッサまた同じ不自由にあひたる近年租借せるダルニイ、タレンワン(即ち柳樹屯)のみ東方に於て冬期の碇泊地たるを得るなり。

然れども海上より輸入せらるる貨物甚だ多し。イギリス船によるもの殊に多くして一八九七年には全輸出入貨物の三割三分を占む。之に次ぐものはドイツ船にして一割一分八厘に當りデンマルク船は一割二分を占めスウェーデン、ノルウェーまた一割に居りロシア船は僅に一割より八分の間を上下せり。蓋しロシア

商業は主として受動的にして其商人は外國人の國內に輸入せんとする貨物を埠頭に於て購求するを例とすれば、かゝる現象を生ずるなり。且つ航海業の發達は頗る近年の事に屬しロシア人はヨーロッパ人中最も海をさらひの稱ありて海上の經驗最も淺ければ從てイギリス、デンマルク、ドイツの如き先進國と競争するを得ざるは數の固より然る所なり。

ペテロ大帝海運をひらきたりといへども乗組員の主力は常に西ヨーロッパ人にして真にロシア人を以て航海業を起したるは近くクリム戰役以後の事たり。其以前に於ては僅に近海を通航するにすぎざりき。一八五六年ロシア人相集まり資本を投じて航運會社を組織せしが漸次盛大におもひきオデッサ、ベテルブルグ、及びバルト海沿岸諸要港との間に定期航路をひらき遂に黒海を根據として太平洋に出づるに至り有力なるロシア航海會社となれり。

また一八七五年義勇艦隊なるもの設立せられ平時はオデッサ、ウラヂボストク間の輸送を爲し戰時には船舶を政府に提供して巡洋艦其他の任務をとる。一八八六年以來は政府との關係殊に親密となり年々六十萬ルーブルの補助金を得益

其業を勵む。

以上二會社の外ロシア人等にて營業しつゝある汽船會社をあぐればアルハンゲルスク、ムルマン海岸(コラ港附)間の北洋汽船會社あり。又カスピ海の航運を目的とするカフカズ、メルクリ會社あり。オデッサ、ドナウ河邊の諸港間に往來するドナウ黒海汽船會社あり。なほ近時極東に於てシナ、日本とシベリア諸港とを運搬する一會社設立せられたり。政府が此等の諸會社に與ふる年々の補助金額は二百五十五萬六千ルーブルの巨額に達し航海業の前途甚だ有望なり。

第四章 鐵道

河流沿岸の水運並に便宜を與ふる莫大なれどもいまだ鐵道の如く或る程度まで天然を無視して交通の便を圖る能はざるなり。鐵道一たびひらけてより遠隔の地有無相通じ僻陬の寒村一二年にして屈指の大市場と變ぜんとし消費者生産者の間接に蒙れる利益殆んど量るべからず。ロシア政府此に見るところあり。斯の利器を用ひて國富の増殖をはかり本國の地鐵道線路網の如し。

いさ少しく其敷設の歴史を叙せん。

一八三〇年イギリスのリバプール、マンチェスター間に鐵道開通せらるゝ、やロシアも之にならひ國內に鐵道を敷かんとせしも資本を得ることの難きと技術家の不足せるとにより計畫遷延せしが一八三六年始めてベテルブルグ附近に少許の鐵道僅かに七里弱を布設せり。後オーストリア、ドイツの諸線と連絡せしむるが爲めワルシア附近の工事に着手し一八四五—四七大藏省また資本を投じてモスクバ、ベテルブルグ間の大工事を起し一八四三年より歳月を費す八年にして成りぬ。此鐵道設計に關し當局苦心の際時の皇帝ニコラニ世親から筆を以て圖上兩地間に一直線を書き之に依りて起工せしむ。技師命に従がひ山林湖沼をとはず人烟粗密を顧みずして工を起せしが當時の技術は尙ほ未熟にして諸般の準備不用意なりしにより莫大の費用を要し一キロメートルの經費は實に十萬ルーブルの巨額に達せり。

然るにクリム戰役起るや鐵道不足にして輸兵の事困難を極めしかば鐵道速成の急を説くもの多く遂に鐵道局設置せられニジニノブゴロド、モスクバ、ベテル

ブルグ、ウルシア、フイアゲバルレン間の工事に着手せり。爾後の進歩頗る見るべく穀物の輸送はいふに及ばず外國品の輸入、内國品の積み出し等之によるもの漸く増加せり。されば鐵道會社は着々として事業を進捗し、又た鐵道材料供給につきては少からぬ苦心をなしたり。しかば遂に國內の工場に於て多くの供給をなし得るに至れり。政府もまた深く鐵道事業に注目し、會社の投下資本に對し、利子補給の途をひらき、尙ほ一八七五年以來は官線布設の方針をとりてドネツよりクリボイログに達する線路の工事を開始せり。されど程なくトルコ戰役（一八七七—一八七八）起るに會ひ、一時事業を中止せしも、一八八一年に至り再び工事を始め、遂に首尾よく列車の通行を見るに至れり。爾後工事の熟練するに従ひ、費用大に節減せられ、官線鐵道は四方に通じ、一八九一年よりシベリア鐵道の工事に着手したり。此鐵道開通の計畫は一八六六年、我慶應二年、ボクタノビチ將軍のアレキサンデル二世に上れる書の中に見え、たれども當時國內いまだ十分の鐵道なく、遠大の計畫を立つるに遠あらざりき。一八九〇年に至り、ウラル山東のチエリャピンスクより東イルクツクに出で、バイカル湖をまはりてストレチェンス

シベリア
鐵道中アシア
線路

クをへて、アムル河の北にそひハバロフスクに至り、ウスリ河にそひてウラヂボスクに至る鐵道布設の計畫をなし、線路を十區に分ちて日夜工事を督し、其進歩をいそぎたり。一八九六年當初の計畫を變じ、バイカル湖の東カイダロフより南に折れ、シナ領マンチリアを通過してウラヂボスク及び租借地旅順口に達する東清鐵道線路布設の特許をシナ政府よりうけ、二億ルーブルの資本を投じ、一九〇二年を以て全線の工事を了れり。なほ近時バイカル湖東ベルフニウヂンスクよりキアフタを過ぎ、シナ領外モンゴリアのウルガに出で、コピ砂漠の東を横ぎり、張家口をへてペキンに至る線路の布設を計畫し、機を見てシナ政府の特許を得んと欲するが如し。

中アシアは、カウフマン、スコベレフ等の掃蕩以來、傑悍なるチルクメン部全くロシアの命に服し、綏撫の法また備るに及び、メルブ投降の翌年一八八五年四月アレキサンデル三世勅令を以て、カスピ海東のウズンアダよりメルブに至る軍事鐵道布設を命ぜられ、アンネンコフ工事を監督せり。アンネンコフ即ちロシア本國及びカフカズ地方より鐵道隊を召集し、カスピ海の海水を漑きて、沙漠の流沙

を固定し藜科の灌木ハロクシロンを線路の左右に密植して防砂林を作れり。而てこの地方には飲用水なきを以て内スピ海より蒸溜水をとりによせて日用に供し。技師以下一同は二階列車に宿泊し、チャルクメンを役使して工事を助けしむること。十四ヶ月にしてメルブに達せり。後ち更にサマルカンドまで線路の延長を企て工を續くる四ヶ月にしてアム河の左岸に達し一八八八年五月遂にサマルカンドに至り嘗てチムルの主都たりし地は茲に始めてカスピ海に通ぜり。蓋し砂漠鐵道の嚆矢たり。元來此鐵道はメルブよりヘラットカンダハルをへてインドに南下する目的を有する軍隊輸送鐵道なりしがイギリスも亦此に備ふる所あるを以て姑く此を殖産の專用に供せり。乃ちアム河右岸地方の肥沃なるを利用し、て農業植民地を起し盛にタタを植付けしがアレキサンデル三世の世を終らるゝ頃には棉花の産額頗る増加しモスグバの紡績場は從來用ひたりしアメリカ棉花をすて、専ら此地の産品を用ふるに至れり。ロシア政府又之を幹線としてメルブより南方アフガニスタンのヘラットに通ずるクシク鐵道を起しサマルカンドよりアンデヂアンまで鐵道を架しシナの新彊省を壓しまたヂザクより北

方タシケントに至る一線を通じ又ウズンアダより延長してクラスノボドスク港に至る。此地方の鐵道はカスピ海西海岸に産出する石臘重油を以て燃料とす。なほロシアは外カウカシアを迂回して中アシアに出づるの時間を要し且つかスピ海渡船の不便をほきが爲めボルカ中流のサマラよりオレンブルグに出てエンピンスクをすぎシル河の流れにそひてタシケントに達する線路の開通を計畫しつゝあれば遠からずして中アシアは一層ロシア本邦と連絡を密にするなるべし。

渡船につき一言すべきはシベリア鐵道の未完成點バイカル南岸山地線の代用をなす。バイカル湖汽車専用の渡船なり。此渡船は甲板に數組の鐵軌を縦列に設け波止塙に來れる列車をうけて對岸に運ぶ裝置にしてバルド海等の諸港に用ひらるゝ碎氷船と共にロシア特有の利器となす。

なほロシアにとりて重要な線路は外カウカシア線とカルス、バクー線との連絡を通ずるものにしてカウカシアの南北を一貫せるものといふべし。

かくの如き遠大なる設計によりて布設せる鐵道に要せし總資本額は約四十億

レール

ル・ブルに上り一九〇〇年の終には線路の延長一萬二千里に達す。茲に鐵道につきていふべきは複線の部分は全線の二割一分に當り他は單線なるとなり。また鐵道軌路の幅は多くは廣軌鐵道(通常ヨーロッパ大陸等に於て用ふるものにして幅四呎八吋なり)よりも廣く幅五呎のレールを用ふ。蓋し西方より敵の長驅して國內に侵入するを防ぐ爲めなり。之を以て平日は税關の監督刊行物の檢閲を勵行するに非常なる便利を得れども其の交通を阻害すること殆んど測るべからず。

また千九百年の調査によれば官線鐵道は全線の六割七分に相當し餘は私設會社の所有に歸す。國庫は年々鐵道事業の補助として支出する金額實に三千萬ルブルの多きに達せり。

監督官

此線路を往來する汽關車の數は約一萬臺なれどもなほ不足するを免れず。鐵道事務は大藏省逓信省及び會計檢査院に於て之を監督す。會計檢査院は官民鐵道の收支及び新線の開設平常の設備を監督し逓信大臣は列車の構造及び工事に關する技術上の事務を監督し大藏大臣は賃金の規定會社の會計借入金及

び私設鐵道買上等に關し専ら財産上の事務を監督す。また大藏大臣は殖産の景況により種々の改良を加ふるが爲め平常特別の視察及び命令をなすものとす。監督諸官の下に鐵道事務局あり専ら會計の事務をとり種々なる屬員を有す。逓信大臣はまた所管事務の爲めに種々なる課局を設けて事務をとらしめ官設鐵道の爲めに特に監督事務官を置く。

ロシアに於ては政府がかゝる監督をなすと同時に各會社及び官線諸事務局より代表者を出して協議會を組織し賃金の割合を協定し運輸の方法等に關し特に委員を集めて協議せしむ。此二會議は實に有力なる鐵道事務の機關にして諸般の改良多く此會議に胚胎し來るといふ。此外なほ水陸の連絡をたもつがため諸航業者及び諸鐵道會社の間に協議會をひらくことあり。賃金率は一八九四年以來遠距離遞減律に従ひ旅行者に多大の便利を與へつゝあり。

第四章 郵便及電信

(一) 郵便 ヨーロッパに行はれたる制度を参照して飛脚制度を初めたるはアレキ

シスミハイロビチの時代にして一六六六年公文書及び諸商人の取引書類をのせたる馬車始めて國都とクールランド、ポーランド、リウニア地方の間を往來したり。ペテロ大帝立つに及んで更に此線路を擴張し、ペテルブルクと地方官所在地との間には飛脚馬車の往來を絶たざるに至れり。カタリナ二世の時また飛脚制度に改正を加へ、賃金を一定し以て公衆の便を計りき。後一八三九年の改正により七百餘種の賃金を減じて五十二種となし、書類一通の賃金は五コペクより五十コペクとせり。一八五九年また之に改正を加へ、印紙制度をとり一書信十コペクとせり。

一八七四年萬國郵便會議のスイス國ベルンに開設せらるゝヤロシア政府亦代表者を參列せしめ、遂に其制度に従ひて税率を低減し一八八九年會議の結果として外國郵便物の税率を定めたり。

國民一般此制度を利用し往復の通信日に多く郵便電信局及び取扱所の類一八九八年には八千の多きに達せり。又村落の組合には特別制度を布き僻邑には出張受取所を設けて公衆の便利を計れり。

(二) 電信 電信のロシアに通じたるは一八五二年を以て初とす。然れどもなほ進歩遅々たりき。クリム戰役起るに及びロシア交通機關の不備なりしこと明白となり。殊に電信線の不完全なるが爲め屢戰機を失ひたり。之を以て政府は鋭意之が完成につとめ一八七〇年頃にはロシア本國內に止まらずカウカシア、トルキスタン、シベリアに通じ一八九四年以來舊機を新機に改めしにより音信一層確實となりぬ。電報料は一語五コペクにしてアジア地方には十コペクを徴收し市内は一語一コペクを要す。

(三) 電話 電話の設置は一八八一年ペテルブルグ、モスクバ、ワルシヤ、オデッサ、リガの諸市に開設せられしが爾來各地に通じ今日に於ては電信の發達と共に甚だしき進歩を通信に與へたり。

第五篇 政治

(160)

ロシアは専制君主國にして皇帝の位は歴世の長子之を繼承す而て皇帝の權能は無限にして立法行政司法の大權は總て皇帝の一身に集中す皇帝の權力此の如く絶大なりと雖も帝國の萬機は固より悉く皇帝の親裁し得る所に非ずさればその廣大なる帝國を統治せんが爲に中央及び地方に行政の二大機關を置く。則ち帝都には高等諸衙を置き或は政治の樞機に參與せしめ或は諮詢輔弼の任に當らしむ。また地方にはそれ〴〵諸種の官廳を設けて各自の庶政を擔當せしむ。かく中央地方の官廳は皇帝と臣民との間にたちて帝國の政治を分掌すと雖もその紀綱は一に皇帝の總攬する所なるを以て官廳は畢竟専制君主の手足たり機關たるに過ぎず吾人はこゝに本篇に於て専制君主の手足たる政治諸機關の組織とその運用とを考察せんと欲す。

第一章 中央政府

元老院

(一) 元老院 ロシア中興の英主ペテロ大帝は一七一一年始て元老院を設置し全國の政治を綜理せしめたり。されどその後漸く權勢を失ひ殊に參議院及び大臣を置き帝政の要局に當らしむるに及び元老院はこゝに從來の職權を削減せられたり。されば元老院は今も尙ほ法令發布の如き二三の政務を執行すと雖も最も多く取扱ふものは行政及び司法上の高等裁判なりとす。則ち司法に關しては民刑二部の大審院として總て地方裁判所が下せる判決の上告を受理す。又た行政に關しては違法の官吏或は國事犯人を糾察し官吏間の紛議を批判しその他地方官と地方議會との取調を審理す。故に元老院の主要なる職務は實に司法事務なるを以て帝國最高の法院なりといふべし。

參議院

(二) 參議院 一八〇一年アレキサンデル一世の創設にして院内に(一)立法(二)内務及宗務(三)財務及實業(四)教務及通商の四局あり。その議員には定員なく概ね大臣并に文武の大官より成り議長と與に皆皇帝の任命する所なり。こゝに或る法令を發布せんとする時は當局の大員は皇帝の裁可を経て豫めその議案を調査す。若し殊に重大なる法令なる時は特別委員會を設けて之を審議し其意見を付

(161)

し之を參議院に提出す、是に於て參議院はこの議案に關係ある局をして先づ提出案を審査せしめ、然る後に全院の總議を経て之を皇帝に上奏す、然るに議案の裁可權は全く皇帝の贊否如何にあるを以て參議院は皇帝の意向に反し、至も法令を増損するを得ず、されば參議院は帝國至高の立法府たりと雖も實際は法令の議案に對して商議協贊の任に當るのみ、この外に參議院は尙ほ歲計豫算或は宣戰講和等の如き總て國家緊要の諸政務を討議す。

大臣委員會

(三) 大臣委員會　近代のヨーロッパ各國は概ね内閣組織により極めて明確敏捷に各省をして規定の政務を執行せしむ、ロシアに於ても行政の性質により省をよくとす、故に諸省は未だ政務の全斑を總合せざるを以て諸外國の如き内閣組織を爲さざるなり、さればロシアに於ては帝國行政の統一を圖らんが爲め特に大臣委員會なるものを置く、この委員會は各省大臣の外に宗務總監會計検査院長飼馬局長より參議院の各局長官に至るまで皆勅選官を以て組織せらる。

諸省大臣

委員會の處理する事項は一般の協議若しくは諸大臣の意見を要すると一省の決議又は施行が他省の疑念を惹起せしめたる等等にして、其外にも行政及び司法に關係する諸般の事務を議定す、されば委員會は一見行政の最高機關たるが如きも元老院參議院の場合と同じく專制皇帝の拘束を免ると能はざる一機關たるに過ぎざるなり。

諸省　アレキサンデル一世が西ヨーロッパ諸國の制度に倣ひ一八〇二年始て設置したるものなり、則ち各省には大臣ありてその政務を綜監し一名乃至三名の次官ありて大臣を輔佐す、諸省は更に若干の局課等に細別せられて各自の職務を擔任す、又は或る省には必要なる政治に關して大臣に意見を具申する參議會ありと雖も已に職權の大部を失ひ或る省に於ては之に代ふるに特別參議會を以てするものあり。

ロシアの現制に據れば十省あり、外務、内務、陸軍、海軍、大藏、司法、文部、逓信、農務及御料地、宮内これなり、而てこれ等十省の内大藏、内務の二省は殊に顯要にして政務も最も繁多なるが如し、即ち大藏省はわが國の大藏省に逓信省の一部を合併せ

宗務院

るが如き組織にして財政納税酒類の專賣及び國債に關する事項は勿論この外にも通商航海工業場等をも兼轄す。また内務省は警察統計出版檢閱宗教及び地方自治制の監督の外に衛生建築等をも管轄するが故に、行政の範圍頗る廣し、又皇帝は各地に鑛山山林及び耕地を御料とするが故に農務及御料地事務省は全國の農政および鑛業を統治すると與にまた皇室の御料地に關する庶政を總轄す。

飼馬局
會計検査
院

(四)宗務院　ロシアはギリシア正教を國教と定め之を監すること頗る周到にして嚴密なり。されば之が爲に宗務院を設けその總監は大臣と同等の權力を有し議員はペテルブルグ、モスクバ、キエフの中央三大僧正及び帝國内の高僧を以て之に任じ宗教に關する最上の總監府たらしむ。而て宗務院は諸省より全く獨立するを以てその宗教議案を起草するや諸省の如く之を參議院に提出してその協賛を求むるの要なく直に之を皇帝に上奏し裁可を得たる時は皇帝の御名を以て之を帝國に令達す。

この外にも中央政府には飼馬局及び會計検査院等の如き諸省と對立して政務

の一部を分掌するものあり。前者は馬匹の畜養蕃殖をつかさどり後者は帝國の歲計一切を可監す。この二府の長官は大臣委員會に參與し得るを以てまた中央政府の顯職たり。

吾人か前頁に述たる元老參議の二院、各省大臣と宗務院とは日常皇帝に近接しその勅令を奉じて三權を宣行する四大機關にして實にロシア帝國政府の中樞を構成するものなり。

第二章 地方政治

ロシアは獨りその領土極めて廣大なるのみならずその内に包括せらるゝ幾多の人種は、その風俗習慣を異にするが故に全帝國を通して畫一の政治を布かんとするは極めて困難の事なり。試に思へロシア本部のみにも文化その度を異にする人種の頗る多きを、則ち帝國の西部にはポーランド人あり、併ては北ヨロッパの一強國として文物制度遙かにロシアよりも卓越せるとあり。バルト沿海諸州の民も亦た夙に開明の域に進めり、然るに北方のフィンランド人南東方

地方統御の沿革

のトルコ人の如きは唯自然の恩恵に安んじて毫も人文の啓發を圖らず、或は魚獸を捕へ或は水草を逐うて轉居するをこれ事とす。又た同一のスラブ族中にても大小ロシア及び白ロシア人の如きも思想民俗等互に相異なるものあり、さればロシア本部の地方統治すら尙幾多の困難を感ずべし。況んやシベリア或はトルキスタンの如き中央政府を去ること甚だ遠く而もその文化極めて劣等なる多數の民族を包含するをや、さればモスクバ朝より地方行政は力めて寛容放任を旨とし治下の民族をして或る程度迄はその舊慣を襲用せしむると同時に之を中央集権の下に誘致せんとを圖れり。十八世紀に至りペテロ大帝諸制度の革新と與に統御の便を圖り始めて全國を畫して八州となしぬ。かくて其の女エリサベータ女皇の時には増加して十六州となりカタリナ二世の治世には實に四十州となりにき。この女皇は歴世の皇帝が執れる中央集権の主義を捨て國民の一部に自治を許して專制治下に一縷の光明を與へたり。然れども女皇の制定はパウロ一世の爲に多く廢棄せられ殊に近世大臣を置き各部を定めて地方行政を管理せしむるに及び中央集権はこゝに益固定し帝國統一の政策に一段の成功を奏

地方の政治區劃

知事 (167)

せり。次でアレキサンデル二世に至りて斷然帝國の各地に自治制を布き政府監察の下に自治の經營をなさしめ後の皇帝之に多少の改正を加へて今日に至れり。現今ロシアは國を分ち七十八州省十九地方州及びカラフト島となす。而て州を分ちて區省となし區を郡州とし更に小別して村となす。區以上は政府の直轄に屬すと雖もその以下は自治の團體たり。かのペテルブルグ、オデッサ、セバストポリル及びケルチの四府は肝要の地なるが故に特別の知事知事之を治むるを以て州及び地方の外に立つ。又た中央アジアには、ヒベ及びブハラ汗國あり。前者はロシアの外藩にして後者は其保護國たり。

第一項州及び地方の政治

州をグベルニヤと云ひ地方をオブラストと云ふ。その組織に大差なきも後者は前者よりも概ね帝國の邊境に在り従うてその内治も未だ整頓せざるが故に施政にも多少の相異ありとす。

又同時に内務省の代理官たり則ち皇帝の代表者として知事は法令を發し秩序公安を保護し又九州内の官吏及び自治團體を監督し内務省の代理官として保安衛生の如き總て内務管轄の事項を監す。知事の下に副知事あり知事の不在或は疾病その他の事故の爲めに政務を執る事能はざる時は副知事代りて庶政を監す。又た統治の便宜上より數州或は數地方を合併して一大行政区となすものあり之を稱して省と云ひその長官を總督と云ふ。現今ロシアには總て十省ありフィンランド、ポーランド、ビルナ、キエフ、モスクバ、カフカズ、トルキスタン、キルギス、イルクツク及びアムル是れなり。總督は知事よりも顯官にして皇帝より文武の大權を委付せらる。是れ總督は中央政府より遼遠の域にあり或は服屬の日向ほ淺き地方を統御するを以て臨機の措置を取るの必要殊に多ければなり。さればその政治も自ら武斷的にして專制に傾くものあり。フィンランド省の如きは軍務外交以外の行政は特種の自治制に據るを以て總督の職權はさまで強大ならざるもアムル或はトルキスタン等に於ては總督は文武の最高權を握るを以てその權勢殊に強し。

總督

貴族會

州會

州及び地方には貴族會なるものあり。州及び地方の政務に參與する一種の議會にして知事之が議長たり。會員は州内に居住して一定の土地を所有し或は嘗て文武官たりし貴族を以て編成す。この會は專制治下に於て始て一州の政治を執行するの特典を與へられたるものにして實にカタリナ二世の創設せるものなり。貴族會は當初は至大の權力を有し一州の行政司法等總て地方自治に關するものは大抵この會の指揮監督を受けざるを得ざりしも近代地方諸制度の新設せらるゝに及び貴族會は多年獨占せる職務の大部分を削減せられたり。然れば今日の貴族會は己にカタリナ二世當時の權勢を失ひ殆んど内務省の一機關たるに過ぎざれども尙ほ法令を發布し或は政府よりの布告を公示するが如き職務を保有す。前に述べたるが如く知事は州の長官として中央政府の命を受けて一州を統治し地方より選出せる貴族會は知事を輔佐して立法行政に參與す。而て此外に州會なるものありて一州の自治を討議すと雖もその組織及び職掌は便宜上次頁に於て詳述すべし。

第二項 區の行政

區はウイヰヰドと云ひ州及び地方の小別にして概ね五乃至十五區は相集りて一州又は一地方をなす而て現今帝國内には合計七百九十二の區あり。各區はもと政府管轄の下に立ちしも政務は常に澁滞し且つ經濟上の諸弊續出して殆んど匡濟すべからざるものありき。さればアレキサンデル二世はクリム戰役の後ことに地方行政を刷新し國運を振興するの急務なるを感じ一八六一年斷然地方臣民に許すにその行政を以てし特種の代議政體は始めてこの專制國に出現せり。是れ實に今日の州區會及び郡村二會の起源にしてロシアの政治上最も注意すべき一大改革なりといふべし。

區會

區會をゼムストボと云ふ。その議員は郡會の選出する所にして貴族の地主農民及び市町の代表者より成るも實際貴族の地主その半數を占め議長も亦た貴族より選出するを常とす。されば貴族の権力は常に他級の代表者よりも過重なるの弊あり。任期は三年にして毎年一回相會して區内の諸務を討議す。而て知事はこの區會の決議案を違法有害と認むる時は之を元老院に上告してその裁決を仰ぎ然る後に處斷す。又た議員中より互選せる常置委員あり。區會の決議事項を

州會

實施し區の財政をつかさどり又た區會に提出すべき議案を起草す。區會の召集は一年僅に一回なれども常置委員は終歲政務を執るを以てその勢力頗る強し。而て常置委員は有給にして千二百ルーブル乃至千五百ルーブルを受くるも區會議員は無給なるが故に自ら職務を等閑に付するの弊なきにあらず。各州には區會と組織を同する州會あり。貴族を議長となし議員は區會の選出する所にして任期を三年とす。常置委員の制また區會に同じ。

州區の二議會はその本務たるべき州區の財政を討議するの外に尙ほ治安裁判官を任命し慈善を獎勵し農工商の進歩を圖るが如き凡そ州區の物質及び道徳二面に於ける諸政を監す。唯州會は一州を區會は一區の政務を分擔するを以てその行政範圍に廣狹の差異あるのみ。例へば州會はその附屬たる諸區に租税を分課し區會は之をその附屬たる郡村に分賦し又た州會は一州の道路を修理するも區會は一區のものを司るが如し。而て年を経るに従ひ州區二會の執務範圍はますます増加しやがて殆んど行政全般を支配せんばかりになりしかばアレキサンデル三世の治世に至り州區會の職務に制限を加へこの二會の監督權を

市會

知事に委ねたり。是に至て州區會は自治の一部を縮削せられ從來の威重を損せしかど今日も尙ほ地方自治の高級機關として州區の秩序と福祉とを擁護す。ロシアの市町は古代より專制國中にありて比較的幾分の自由を享有し公會を開き委員を選定して市町を維持せしがペテロ大帝、カタリナ二世の朝に至り屢々市制に變更ありき。アレキサンデル二世は地方臣民に自治制を許せる數年の後ち亦た市町にも代議制によれる市會を組織せしめたり。之をゴロツスカイヤゾーマと云ひ或は單にゾーマとも云ふ。是れ實に州區會等と相並びて地方政治の一部を擔任する自治の一大機關たり。

初め市町の直接納税者はその職業の如何を問はず皆選舉人の資格を有せしがアレキサンデル三世の治世一八九二年に至りて一般に選舉人の資格をたかめ不動産の所有者及び商會工場主を選舉人となし且つ從來の選舉法を廢して候補者の豫選會を開き次にその當選者中より更に決選投票を行はしめたり。議員の任期は四年にして會議は通常必要ある毎に市長之を召集すと雖も又た議員の要求に應じて隨時開會することあり。知事若し市會の決議案を不當なりと認

市務署

むる時は地方市務署をして之を審査せしむ。市務署は副知事裁判所長州區議長等の如きすべて地方一部の長官を以て組織し知事自ら議長となり市會の決議事項の正否を調査す。尋常の事項はこの市務署に於て判決すと雖も或る事項に關しては之を元老院に提出してその裁斷を仰ぐとあり。

州區に常置委員あるが如く市にも亦た常務委員ありて日常の市務を處理す。委員は二名以上の規定にして市會之を定め議員以外の人をも委員となすとを得。而て市長は職務上その委員長たり。委員の任期は一年にして概ね有給なりとす。されば常務委員は任期短く且つ市會も臨時開會せらるゝが故に州區の常置委員よりも權力概ね薄弱なり。市長をゴロツスコイガラバトと云ふ。市の選出にして市政の全權を掌握す。一州の首府の市長は内務大臣之を任命し小市町長は知事之を選任す。されば市長は市の選出者たるに拘らず政府の手足たるの勢あり。且つ市會議員の選舉會と市會及び常務委員の長官たるを以て其權勢の強大なること州區長の比に非るなり。

第三項 郡村の行政

吾人は前項に於て州區及び市に關する自治團體の組織とその政治の綱要とを説了せるを以て更に吾人は區の小別たる郡と村とを一括して説明せんと欲す。ロシアの村團をミルと云ふ現今バルト沿海三州を除けるロシア本部のみにてもその數十萬七千六百七十九に達す。この社會は已に古來より一種獨特の制度を有せり。則ち村團内の各家長は均等の土地を受領し又た同等の權利を享有するを以て個人はその義務として同一の租税を納むるを要す。故に村民の生活は全く共同的にして恰も一大家族をなすの觀あり。而て所謂土地附農民制の時代に於ては農民はその地主に附屬せる小作民にして政治上の特權殆んど皆無なりき。されば當時の村團は唯經濟上の一團結に過ぎざりしが一八六一年土地附農民の解放により久しく地主の羈絆に苦しめる農民はその主人より獨立せるのみならず彼等は自治によりて自己の團體を經營し得るに至りしかば村團は茲に始て政治上の團體となれり。是れ實に政治及び社會上最も重大なる革新にして專制治下にも尙ほ寛裕なる代議政體の發生せる一大例證にしてロシア史上最も特筆すべき革新なりとす。此の如き村團の集合をポスト即ち郡と云ひ

ロシア本部には總て一萬五百三十あり。村團の長をスターロスタと云ひ郡の長官をスタルシナと云ふ。何れも長老の義なり。郡村長の任期は三年にしてその財政教育等を掌り中央政府に對しては租税を徵收し旅行券を檢閲する等の職務を有す。又た警察保安の責任あるを以て犯罪者に對して懲罰を課することを得。然れども一八七四年の法令は警察官に許すに郡村長に罰金を科し或はその拘留免官を知事に請求し得るの權を以てするに及び郡村長の威信は大に抑損せられたり。嘗て處刑を受けたることなき各家長は男女の別なく又た智愚に論なく皆スターロスタの召集に應じて村會に列席するを得。而て此の如き質素簡朴なる農民の集まれる村會は土地の分割或は租税分擔の如き主に一村に關する經濟を討議す。また郡會は主に村團選出の議員より成る。その職務は區會議員郡吏及び裁判官を選定し或は土木教育慈善の如き凡そ村費の負擔に堪えざるが如きものは郡會概ね之を經理す。又た郡參事會なるものあり。村長助役及び收税掛はその會員にして平生は郡長の諮問に應じ之を輔佐すと雖も或る場合には郡參事會

自ら郡務を取扱ふことあり。

又た區にはウイヰツドニ、ナチャルニクと云ふ區長あり。こは往時の地主とその附屬の農民間に起るべき紛議を統治せんが爲に一八七四年アレキサンデル三世の始て設置せるものなり。則ち區長は地方の貴族中より選任せられたる顯要の人にして村團選出の裁判官が與へたる判決を左右し五ルーブル以下の罰金七日以内の拘留を随意に科するの權あるのみならず又た郡村會の決議案の施行を中止するの權を有す。是を以て區長は郡村の行政司法の二權を收攬するに至り郡村の活動範圍は爲に緊縮せらるゝに至れり。

之を要するにアレキサンデル二世は空前絶後の大改革を斷行して地方自治制を布きたるの結果は著しく地方政治の整頓を來たし一般の成蹟觀るべきもの多かりき。然るにアレキサンデル三世は父皇と政見を異にし先皇が臣民に割與せる自治の範圍に制限を付せしかば一時は自治の光明を發揮せし地方政治も再び専制の妖雲に蔽はるゝに至れり。

第四項 司法及び警察

ロシアは早く紀元十一世紀の頃既にルスカヤ、ラプダと稱する一種の成文律を有せしかどその編纂は統一を缺きしが爲に新舊あひ矛盾し或は前後あひ抵觸するもの多かりき。さればかのペテロ大帝カタリナ二世及びアレキサンデル一世の如き英主は司法改革の急務なるを悟りその準備をさへなせしかど皆宿志を果たさずして止みにき。かくてニコライ一世の治世に至りセバランスキに命じてペテロ大帝の父皇アレキシス以後の法令を蒐集して之を年代別となさしめ之を法令彙纂と名づけたり。然れども當時の司法官は裁判を秘密に付し形式に拘泥せるのみならず法官の學識概ね淺薄なりしかば時日の延引或は正邪混同の如き諸弊の續出を免るゝと能はざりき。是に於てアレキサンデル二世は鋭意司法の弊根を掃絶し新にイギリス、フランス二國の法制に則りて茲に鞏固なる司法の基礎を制定せり。則ち司法を全く行政立法の二權より分離して之と對立せしめたるが如き或は裁判を公開し人民をして司法に關與せしめたるが如きは同帝改革の主要なるものなり。

現今ロシアには今も尙ほ舊慣を襲用する農民裁判所の外に全く獨立せる二裁

判所あり。甲を治安裁判所と云ひ乙を普通裁判所と云ふ。この二裁判所は、いづれも初審及び控訴の二廷を有し元老院は大審院として控訴の上告を受理す。

(一) 農民裁判所 アレキサンデル二世の土地附農民を開放するや彼等の爲に特
に農民裁判所を設け其地の慣習を斟酌し力めて簡易の手續により農民の違法
と紛議とを處断せしめたり。即ちこの裁判所の取扱ふものは百ルーブル以下の
民事と喧嘩詐欺竊盜より毆打脅迫に至る總ての輕少なる違法なりとす。其裁判
官は村會が選出せる八名の候補者中より郡長その中の四名を選任し他の四名
を補欠員とす。この裁判所はもと農民の非違と紛議とを圓滑に處分するを目的
とするが故に裁判の方法も概ね舊慣に據る事多く今日も尙ほこの裁判所のみ
は特に答刑の使用を許さる。

治安裁判所

(二) 治安裁判所 アレキサンデル二世の改正によれば治安裁判官は規定の財産
を所有し且つ人情風俗に通曉する地主中より區會之を選任し元老院の任命を
まちて就職す。裁判官は皆有給にして二種に分る。一を常務裁判官と云ひ平日出
廷して訴訟を取扱ふ。二を名譽裁判官と云ひ地方の大地主或は高等官吏概ねこ

の官に就く。蓋し裁判所の威信を保たんが爲めなり。治安裁判所の取扱ふ事件は
五百ルーブル以下の民事及び三百ルーブル若くは禁錮一年を越えざる刑事訴
訟なり。訴訟の提起せらるゝ時は裁判官は直に辯論の期日を指定し原被告を
審問してその曲直を決断す。但し或る種類の民事或は誹毀亂暴の如き輕少なる
訴訟は兩告をして和解せしめんとをつとむ。然れども兩告之に服せざる時は始
て法文に照して判決するを例とす。而ていづれの場合に於ても兩告はこの裁判
所の判決に服せざる時はその控訴院たる治安裁判官會に控訴することを得べ
し。

治安裁判官の會をスイェットと云ひ治安裁判所の控訴院たり。毎月開會せられ裁
判官の出席者三名に及ぶ時はその一名を裁判長として訴訟を再審す。然れども
訴訟人にして尙ほこの判決に満足せざる時は更に之を元老院に上告して最後
の審判を仰ぐ。

アレキサンデル二世の治世に於ける治安裁判所の構成法は此の如くにして人
民は初審再審二廷の法官たるの資格を有せしかど一八八九年に至りアレキサ

ンデル三世はロシア本部の二十州内の區長を以て治安裁判官となし名譽裁判官のみは従前の如く人民の選舉によらしめたり又た市町の治安裁判官を廢しゴロドスコイステアと稱する市判官を以て之に代えたり此に於て從來の治安裁判官會たるものも廢せられ區長會之に代りて控訴院となり區長名譽裁判官及び市判官等はその議員となれり次で此改革を一九〇〇年と其翌年に自治制をなす全州に及ぼせり是に於て政府は地方裁判に干渉するの端をひらき臣民が司法參與の權大に縮殺せられたり

普通裁判所

(三) 普通裁判所 普通裁判所は治安裁判所と並立する初審裁判所なりと雖もその取扱ふ事件は主に個人の名譽社會の秩序安寧に關するものなるを以てその職權は自ら後者よりも強し而てこの裁判所は或は一區に置き或は六七區乃至一州に跨るものあり然るに控訴院の管轄區域は行政區に配置せらるゝものに非るなり而て初審及び控訴廷の法官には判事、檢事及び陪審官の三官あり總て皇帝の任命する所なりされば普通裁判所の構成は西ヨーロッパ諸國の制度と大差なく之を治安裁判所に比する時は頗る完備せりといふべし

大審院

(四) 大審院 第一章に於て述べたるが如く元老院の一部に民刑二部の大審院ありて治安裁判所及び普通裁判所の再審廷の判決に對する上告を受理す然れども元老院は上告せる裁判の果して適法なるや否やを審議し若し前判決を不法なりと認むる時は更に之を近隣の再審廷に移して再決せしむ

刑罰

我等は前頁に於て署司法の組織を説了せるを以て茲に二三の刑罰に就きてその特質を述べん

(イ) 管刑 ロシヤは自由刑の外に一種の體刑あり之を管刑と云ひ今も尙ほ帝國の一部に行へり管刑は古來より輕罪犯人に加ふる膺懲の刑たりしがアレキサンデル二世の朝に始めて廢止せられたり即ち先づ貴族僧侶の管刑を免し次

で富豪及び位勳を有する者に及ぼし一八六三年には一般の農民に對しても此刑を廢除せり然れども實際に於ては今日も尙ほ農民裁判所のみは管刑の執行を許可せられ又た陸軍或は監獄に於ても例外として時に管刑を用ふる事ありと云ふ

(ロ) 死刑 ペテロ大帝の女エリサベタ女皇は一七五三年始めて死刑を廢しシ

ペリア流竄の刑を以て之に代へしめたり。是より重罪犯人の死罪に相當するものは多く之をシベリアに送致し、唯皇帝に危害を加へ若しくは國家の秩序安寧を紊亂せる大罪人にのみ死刑を加ふる事とせり。さればアレキサンデル二世の治世二十四年間に於て死刑に處せられしは皇帝執逆を企てたる罪人のみなりしと云ふ。方今文明諸國に於ても特種の重罪犯のために尙ほ死刑を存置するに專制國たるロシアが獨り此刑を廢止せしは國民増殖を希ふに出つ。

(ハ)シベリア遠竄 國内追放の刑は夙に古代より存せしも罪人をシベリアに流放せしは實に一五九七年太子ドミトリを殺し、者を流放せるに始まれり。蓋シベリア遠流の刑は雷に罪人に僻地勞役の苦難を與ふるのみならず不良の國民を遠く隔離して本國の安寧を保つと共にシベリア開拓を進歩せしむるの利あり。されば政府は死刑の廢止以後つとめて罪人をシベリアに送致するの方針を取りしかば毎年移住せる罪人の數は頗る夥しかりき。シベリア遠竄に二種あり。一は苦役に従事すべき重罪犯人にして二は單に流放の刑に處せられたる輕罪犯人と國事犯人となり。而て一八七二年以來無期徒刑の規定ありと雖も實際

は廿年を最長期となしその最初の四半期間は獄中或は屯營所内に住せざる可らざるも其後は自由に附近の地に居住することを許さる。又た普通の罪人の場合に於ては十ヶ月を一年として計算す。刑期の間彼等は自由に居住を轉ずる事能はざるも妻子と同居するを許され日常の行動は少しも制限を付せらるゝ事なし。

一八九七年シベリアに送致せられし各種罪人の總數は二萬四千九百八十四人に及び又たカラフト島は主に苦役人の服役地にして一八九六年には六千七百三人の苦役者と八千四百餘人の滿期免役者と輕罪犯人とあり。又た此外に妻子の夫に従うて移住せる者約六千百人に達せり。近年東西シベリアが益開拓しせらるゝに至りたるはロシア自由民の經營に依る事多かるべしと雖も我等は同時にシベリア遠竄の罪人も直接間接に偉大の貢獻ありしことを忘る可からず。

ロシア現制の警察組織は十九世紀の初期アレキサンデル一世が初めてフランスの制度に則りたるものなれども是前既に一種の警察權を執行せる者なきに

非ず。則ちイバン四世はオブレチニナと稱する一隊を皇帝護身の具となせしとあり。ペテロ大帝の父皇アレキシヌも亦た政治及び宮中に關する事變を檢察すべき秘察法を設けて嚴酷に罪人を糾治せしともありき。次てペテロ大帝の時は大帝が斷行せる諸改革に反抗する者續出せしかば大帝は特にブレブラシエンスキプリカールなる裁判所を創設し苟も改革を喜ばざるの徒は毫も假借する所なからしめき。その後カタリナ二世及びパウロの朝には秘密審問所を置き違法人監察の刻峻なりしとかの十五六世紀頃イスバニアに設置せられし宗教裁判所に劣らざりき。

然るに十九世紀に至りアレキサンデル一世はナポレオンが制定せる警察制度を採用し始めて之を帝國に實施せり。是に至りてロシア臣民は始めて秩序ある警察の監視と保護とを受くるに至りしがニコライ一世即位の年政治上の紛亂起るに及び更らに第三局と稱する警察の設置を見るに至れり。第三局は別に一省を爲さずと雖もその長官は大臣委員會に參與し且つ平生最も皇帝に近接するが故にその權勢殊に強大なりき。而て第三局は全く法律の支配外に立つのみな

らず決して他の官省の拘束を受くるとなきを以てその權限は殆んど無限にして逮捕監禁すべて意のままなりき。さればアレキサンデル二世の諸弊を改革するや國民が多年恐怖厭惡の中心たりし第三局をも廢止するの意ありき。然るに一八六六年カラコソフなる者皇帝弑逆を企てしより第三局は一層嚴酷となり職權濫用の絶頂に達せり。かゝる過激の措置は却て國民の反抗を招き第三局衰微の兆さすに及び斷然之を顛覆せん事を謀る者あるに至りき。殊に一八七八年虛無黨の第三局に抗爭するや後者は殆んど無力となりて前者を鎮壓する能はず益々その無能を天下に暴露せり。この時第三局長官の一人たるメゼンツェフは街上敵刃のために斃れドレンテルンも亦た白晝車上に狙撃せられて辭職せり。かく多年一手に警察權を獨占せる第三局も最早反抗者を壓服するの威望と實力とを失ひしかばアレキサンデル二世は一八八〇年八月竟に第三局の廢止を令達せり。第三局はその創設より至高の警察權を恣にする事五十四年茲に至りて全く廢せらる。

第三局の廢せらるゝや之を内務省に屬せしめ後ち數次の改正を経て今日は同